

# 日本古典文学翻訳事典

〈平安外語編〉

# 2

**Japanese Classical Literature - A Translation Encyclopedia vol.2**

〈Heian Literature in Foreign Languages Edition〉

伊藤鉄也 編

# 日本古典文学 翻訳事典 2

〈 平安外語編 〉

**Japanese Classical Literature  
A Translation Encyclopedia vol.2**

〈 Heian Literature in Foreign Languages Edition 〉



伊藤鉄也 編



# はじめに

—試行版としての事典であること—

本書は、『日本古典文学翻訳事典 1 〈英語改訂編〉』（平成 26 年 3 月）を受けて、平安時代の文学作品に限定して世界各国語に翻訳された書籍情報を事典としてまとめたものです。前著に続き、あくまでも暫定的なものであり、試行版として編集した中間報告であることを、まずはお断りしておきます。

この翻訳事典は前著同様に、2006 年 4 月 23 日にお亡くなりになった、国文学研究資料館名誉教授福田秀一先生から託されていたメモを最大限に活用しました。

ただし、多言語にわたる書籍を対象とする関係で、各項目のまとめ方も含めて、まだまだ不備の多いものであること承知しています。また、最新情報にまでは、十分に手が及んでいないことも承知しています。

そのことを知りつつも、類書がないこともあり、ここで私の手元にある情報をとりあえず一まとめにしておくことにしました。これを次の世代に引き渡して補訂してもらい、さらに追加していくことで、よりよい事典に育てていく始発点にしたいと思っています。

本書作成にあたっては、実に多くの方々が原稿作成のお手伝いをしてくださいました。基本的な情報が整理されていないのであれば、とにかくたたき台でも提示して、それに手を加えながら形を成していく方針で臨みました。項目の執筆者は、必ず

しも各言語や各作品の専門家ではありません。しかし、何も無い平地に道をつけることを一大方針として取り組んだものということで、至らないところはお寛恕のほどを、お願いいたします。ご批判は、そのまま改訂版に活かします。

そのような経緯もあり、日本古典文学に関する翻訳事典としては、各項目の立項はもとより、内容もいまだ未整理の状態にあります。今回、その見出し項目と表記上の体裁及び、内容に関する記述の統一を試みました。それでも、いろいろな機会に、多くの方々に執筆していただいた原稿の集積であることから、不統一の感は免れません。各所に編者の判断で多くの手を入れました。あくまでも暫定的な処置に留まるものです。

そのことを承知で、この時点で公開することにしたのは、これを叩き台とし、より良い情報の提供とご教示を受ける中で、さらに充実した事典に育てたいとの思いからです。まさに本冊子は、試行錯誤の中でまとめた暫定版として利用に供する事典です。

また、盛り込まれた情報は、編者伊藤が運用する科研のホームページ「海外源氏情報」にも公開しています。

<http://genjiito.org>

このホームページを通して、情報の更新を行います。折々に最新情報を確認していただき、翻訳情報を活用していただければ幸いです。

今回も、本科研を支えているプロジェクト研究員の浅川槇子、技術補佐員の加々良恵子の頼もしい2人が奮闘して、膨大な情

報を整理して組み立ててくれました。ただし、『源氏物語』については単独で1冊にするため、本書には収録していません。

みなさまからの情報提供により、各項目の精度を高めたいと思います。

今後とも、ご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

2016 年 12 月

日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究（A）  
「海外における源氏物語を中心とした平安文学  
及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」  
研究代表者  
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国立大学法人 総合研究大学院大学  
国文学研究資料館 伊藤鉄也



# 目 次

|            |   |
|------------|---|
| はじめに ..... | 3 |
|------------|---|

## フランス語

|                        |    |
|------------------------|----|
| 竹取物語                   | 15 |
| 伊勢物語                   | 16 |
| 大和物語・平中物語・今昔物語集        | 18 |
| 平中物語                   | 20 |
| 堤中納言物語                 | 21 |
| とりかへばや物語               | 23 |
| 今昔物語集                  | 24 |
| 古今和歌集                  | 31 |
| 古今和歌集～千載和歌集（八代集）       | 33 |
| 小野小町集・小野小町壮衰抄（玉造小町壮衰書） | 35 |
| 和泉式部集・和泉式部続集           | 37 |
| 三教指帰                   | 39 |
| 枕草子                    | 40 |
| 円仁行記（入唐求法巡礼行記）         | 44 |
| 御堂関白記                  | 46 |
| 春記                     | 48 |
| 土左日記                   | 50 |
| 更級日記・紫式部日記・和泉式部日記      | 51 |
| 更級日記                   | 54 |



|              |    |
|--------------|----|
| 紫式部日記        | 55 |
| 和泉式部日記・和泉式部集 | 57 |

## ドイツ語

|          |     |
|----------|-----|
| 竹取物語     | 61  |
| 伊勢物語     | 74  |
| 堤中納言物語   | 78  |
| とりかへばや物語 | 80  |
| 今昔物語集    | 83  |
| 古今和歌集    | 86  |
| 枕草子      | 88  |
| 土左日記     | 92  |
| 蜻蛉日記     | 94  |
| 和泉式部日記   | 98  |
| 更級日記     | 100 |
| 増基法師集    | 102 |

## ロシア語

|                  |     |
|------------------|-----|
| 竹取物語             | 105 |
| 竹取物語・落窪物語・とはずがたり | 107 |
| 宇津保物語            | 109 |
| 伊勢物語・方丈記         | 112 |
| 伊勢物語             | 114 |
| 大和物語             | 116 |
| とりかへばや物語         | 118 |
| 大鏡               | 119 |

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 古今和歌集               | 121 |
| 新撰和歌集               | 124 |
| 寛平御時后宮歌合            | 127 |
| 弁頭密二教論・般若心經秘鍵・秘蔵宝鑰・ |     |
| 即身成仏義・声字実相義・吽字義     | 129 |
| 枕草子                 | 131 |
| 蜻蛉日記                | 135 |
| 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記   | 137 |
| 更級日記                | 139 |

## 《イタリア語》

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 竹取物語                   | 143 |
| 落窪物語                   | 144 |
| 堤中納言物語                 | 146 |
| 本朝神仙伝                  | 148 |
| 今昔物語集・宇治拾遺物語・古今著聞集・十訓抄 | 150 |
| 作庭記                    | 152 |
| 古今和歌集                  | 154 |
| 枕草子                    | 156 |
| 枕草子・和泉式部日記・紫式部日記・更級日記  | 158 |
| 土左日記                   | 160 |
| 紫式部日記                  | 161 |

## 《スペイン語》

|      |     |
|------|-----|
| 竹取物語 | 165 |
| 伊勢物語 | 167 |

|       |     |
|-------|-----|
| 今昔物語集 | 175 |
| 古今和歌集 | 177 |
| 枕草子   | 178 |
| 土左日記  | 180 |
| 蜻蛉日記  | 182 |
| 更級日記  | 184 |

## 《中国語》

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 枕草子                    | 189 |
| 蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記・更級日記 | 197 |

## 《ハングル語》

|      |     |
|------|-----|
| 蜻蛉日記 | 201 |
|------|-----|

## 《オランダ語》

|        |     |
|--------|-----|
| 和泉式部日記 | 209 |
| 更級日記   | 210 |

## 《その他の言語》

|              |     |
|--------------|-----|
| (カタルーニャ語)    |     |
| 紫式部日記        | 215 |
| (チェコ語)       |     |
| 和泉式部日記・和泉式部集 | 217 |

|          |     |
|----------|-----|
| (デンマーク語) |     |
| 浜松中納言物語  | 219 |
| (ブルガリア語) |     |
| 枕草子      | 221 |

## 《翻訳史》

|             |     |
|-------------|-----|
|             | 225 |
| おわりに        | 242 |
| 索引 (作品)     | 244 |
| 索引 (翻訳者)    | 246 |
| 解題担当者・補訂者一覧 | 258 |
| 研究組織        | 259 |

＊表紙 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

『源氏物語団扇画帖』「橋姫」（江戸前期画）、橋本本『源氏物語』（鎌倉中期写／伝藤原為家筆）

＊前扉 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

『源氏物語団扇画帖』「橋姫」（江戸前期画）

＊扉 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵

橋本本『源氏物語』（鎌倉中期写／伝藤原為家筆）

# フランス語

French



# 竹 取 物 語

## *Le Conte du Coupeur de bambous*

(竹取の物語)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1992 年

巻号 1

頁数 95 頁

### 序文・解説の内容と概略

まず、『竹取物語』について、その異称や本文系統についての説明など、全体的な紹介がある。その後、成立に関して3つの小話がまとまったものと述べ、かぐや姫の誕生、5人の貴公子の求婚、かぐや姫の天上界帰還のそれぞれについて、類似話型などと比較しながら分析している。そして、最後に、『竹取物語』の文学的価値について検討し、『竹取物語』の作者が、平安時代の女流文学特有の繊細な心理分析を欠いてはいなかったと結論付けている。

### 翻訳に用いた底本情報 —

翻訳内容の構成、章立 「かぐや姫の誕生」、「求婚者」、「仏の御石の鉢」、「蓬萊の玉の枝」、「火鼠の裘」、「龍の首の珠」、「子安貝」、「帝の狩り」、「天の羽衣」、「ふじの煙」、「解説」、「補足」

### 図版、挿絵の有無 —

### 参考文献の有無 —

### 索引の有無 —



メモ 本書は、日本文学の「真珠玉」、すなわち、短いけれども、古典文学及び現代文学の至宝と考えられる作品を刊行する、玉叢書（Collection Tama、コレクション・タマ）の第1冊目として出版された。

## 伊勢物語

---

### *Contes d'Ise (Ise monogatari)*

---

（伊勢物語）

翻訳者 Gaston Renondeau（ガストン・ルノンドー）

出版地 Paris（パリ／フランス）

出版社・発行者 Gallimard（ガリマール出版）

発行・刊行年 1969 年

巻号 1

頁数 184 頁

序文・解説の内容と概略

ルノンドーによる『伊勢物語』のフランス語訳。序、解説（7～11 頁）はいずれも翻訳者自身による。序には、はじめに能楽作品を通じて『伊勢物語』の世界と和歌に触れたとある。また、本書は Frits Vos（フリッツ・フォス）による *A Study of the Ise monogatari*, 1957 の出版以後の翻訳であり、『伊勢物語』の価値を再評価するために力を尽くした、とある。解説では、まず和歌の形式・修辞法について説明し、『伊勢物語』の成立と年代に関しては、主人公在原業平に関する歴史書の記述や『古今和歌集』（905 年）、『後撰和歌集』（951 年）等

に重出する和歌の存在から、成立年代を 951 年頃、もしくはそれ以降とするフォスの説を紹介する。

#### **翻訳に用いた底本情報** 伝定家筆本

#### **翻訳内容の構成、章立**

翻訳部分（17～181 頁）は、全 125 段を、長短を問わず 1 段ごとに頁を改めて訳出する。和歌の部分は行と書体を改め、字数を下げ、上句と下句の境を意識しながら主に 5 行の分ち書きにする。掛詞の翻訳には、詞と掛けられた意味を併記した箇所（108 段）がある。適宜、脚注に有職故実や史実、語釈などを付す。

**図版、挿絵の有無** 翻訳の前に、史料に確認される在原業平の略歴を掲載し、藤原一族及び皇室の系図から業平の系譜上の位置を示す（13～16 頁）。

**参考文献の有無** -

**索引の有無** -

#### **メモ**

表紙には仏の坐像を使用する。Collection Unesco D'oeuvres Représentatives Série Japonaise シリーズの 1 つである。翻訳者・ルノンドーには、他に谷崎潤一郎『鍵』(*La confession impudique*, 1963)、三島由紀夫『宴のあと』(*Après le banquet*, 1965) などの翻訳がある。

# 大和物語・平中物語・

## 今昔物語集

---

### *Contes de Yamato*

---

(大和物語)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1979 年

巻号 1

頁数 191 頁

#### 序文・解説の内容と概略

『大和物語』、『平中物語』、『今昔物語集』のフランス語訳。白色のペーパーバックで、Les Œuvres capitales de la littérature japonaise シリーズの 1 冊。巻頭に同シリーズ、著者の本の紹介 (2 頁)、フランスの国立東洋言語文化研究所、日本語日本文化に関する研究書のための基金の協力を受けた旨を記す (4 頁)。解説 (5～23 頁) は、古物語、歌物語の概説、及び『大和物語』の特性、古写本、伝本の紹介、『平中物語』について、天皇周辺のサロンで行われた歌語りや、和歌を中心に物語をゆるやかに統一する編集意識 (例えば、いわゆる説話の分類における「王道后宮」としての第 1 段、第 2 段の宇多天皇に関する説話と第 3 段の亭子院説話) 等を簡単に説明する。その中心は、短い物語 (contes) の集合による長編物語 (romans) という遠心的な形式についてであり、『大和物語』中の平中説話にふれ、他の物語や和歌伝統との類縁性を強調する。

## 翻訳に用いた底本情報 —

### 翻訳内容の構成、章立

『大和物語』(25～121頁)、『平中物語』(123～172頁)、  
『今昔物語集』(173～191頁)の翻訳を収録する。本文は各  
話ごとに番号を付して翻訳。各話に類話がある場合は、参照  
先のインデックスを付す。和歌は読点は付さないで、5行書  
きである。

## 図版、挿絵の有無 —

## 参考文献の有無 —

## 索引の有無 —

## メモ

表紙は、『伊勢物語』第6段「芥川」の女を背負う男の白  
絵である。同シリーズは、シフェール完訳による日本文学の  
翻訳叢書。中古中世の物語を中心に、『万葉集』から能・狂言、  
谷崎潤一郎の作品までを含む。

翻訳者・シフェールは、元フランス国立東洋言語文化研究  
所所長。古典文学を中心とした日本研究、中古の物語を中心  
とした仏訳の仕事には膨大なものがある。『万葉集』(*Poèmes  
d'amour du Manyo-shu*, 1975)、『催馬楽』(*Chants de  
palefreniers: Saibara*, 1976)、『源氏物語』(*Le Dit du Genji*,  
1978)のほか、近代では谷崎潤一郎『陰翳礼讃』(*Éloge de  
l'ombre*, 1977)など、多数の日本の文学作品を訳している。

# 平中物語

---

## *Le dit de Heichû*

---

(平中の物語)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1994 年

巻号 1

頁数 94 頁

### 序文・解説の内容と概略

『平中物語』のフランス語訳である。ペーパーバック。カバーデザインは、Camille Scalabre (カミーユ・スキャラブル) による。裏表紙には、本書の紹介がある。「恋のヒーロー」としての平中こと平貞文 (定文とも) について紹介し、1931 年に川瀬一馬により発見された伝本についても述べる。内容は、解説 (7～11 頁)、本文 (15～82 頁)、付録 (83～94 頁) の構成とする。

解説では、まず『三代実録』、『古今和歌集目録』から平貞文の略歴を記す。『源氏物語』『末摘花』巻末で引かれたエピソードや、『大和物語』、『後撰和歌集』、『今昔物語集』との関連に触れ、芥川龍之介『好色』、谷崎潤一郎『少将滋幹の母』の受容にも言及。さらに現存伝本の発見から出版までの経緯を紹介し、日本文学史のミッシングリングとして、歌語りと物語の中間に位置する作品であると述べる。

翻訳に用いた底本情報 —

**翻訳内容の構成、章立** 本文中の和歌は5行書き。基本的に、1句1行で訳し、第3段の長歌も同様。一般読者の理解を助けるため、「逢坂の関」が持つ「逢ふ」の含意は割愛している。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 付録では、平中と関連のある部分として『大和物語』から46、64、103、124の4段を、『今昔物語集』「平貞文、本院の侍従に仮借する語」（巻第30）を併せて訳出する。

## 堤 中 納 言 物 語

### *La Princesse qui aimait les chenilles*

（虫を愛する姫君）

**翻訳者** René de Ceccatty（ルネ・ドウ・セカティ）、Ryôji Nakamura（中村亮二）

**出版地** Paris（パリ／フランス）

**出版社・発行者** Hatier（アティエ）

**発行・刊行年** 1987年

**巻号** 1

**頁数** 123頁

**序文・解説の内容と概略** 序文なし。巻末で、翻訳者は、日本のよく知られた小話を自由にアレンジし、好きなように改編、再編成したことを述べる。

## 翻訳に用いた底本情報

『日本民俗事典』(弘文堂、1972 年)、『日本昔話事典』(弘文堂、1977 年)、松谷みよ子著『日本の伝説』(講談社、1970 年)、『堤中納言物語』(岩波書店、出版年不明)、『平家物語』(岩波書店、出版年不明)、Lafcadio Hearn (ラフカディオ・ハーン／小泉八雲) 著『怪談』(メルキュール・ド・フランス、出版年不明) 及び『日本概説』(メルキュール・ド・フランス、出版年不明) 翻訳内容の構成、章立 『耳なし芳一』、『河童』、『雪女』、『子供のない老人村』、『のっぺらぼう』、『虫愛づる姫君』の順に収載する。

**図版、挿絵の有無** Claude Lochu (クロード・ロシュ) による挿絵がある。

**参考文献の有無** -

**索引の有無** -

**メモ** 「虫愛づる姫君」に関しては、冒頭、同じ月のもとに生まれたふたりの女君が紹介されるなど、創作も含まれる。

# とりかへばや物語

## *Si on les échangeait: Le Genji travesti*

(もし彼らを交換するなら：女装源氏)

翻訳者 Renée Garde (ルネ・ガルド)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Les Belles Lettres (文芸社 (ベル・レトル))

発行・刊行年 2009 年

巻号 1

頁数 391 頁

### 序文・解説の内容と概略

作品成立の背景、当時の風俗などに関する説明、男性美や女性美を表す語についての解説、和歌、当時の性差、男女関係に関する説明など、多岐にわたって紹介している。また、『有明の別れ』など『とりかへばや物語』の影響を受けた作品だけでなく、現代の少女漫画における男装した主人公などについても触れている。

**翻訳に用いた底本情報** 桑原博史訳『講談社学術文庫 とりかへばや物語 1～4 全訳注』（講談社、1978～1979 年）

**翻訳内容の構成、章立** 「まえがき」、「各本の概要」、「とりかへばや」（1～4 巻）、「登場人物」、「地図と見取り図」、「あとがき」、「文献目録」、「索引」

**図版、挿絵の有無** 「地図と見取り図」に、舞台となる場所の地図と内裏の見取り図を収載する。

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** 有



## メモ

本書は、日本叢書（コレクション・ジャポン、クリスティアン・ガラン、エマニュエル・ロズラン監修）のフィクション・シリーズ（Collection Japon, série fiction, dirigée par Christian Galan et Emmanuel Lozerand）に収録。本編の1～4巻は底本の冊数と対応し、章段の区切り方も底本と一致する。

# 今昔物語集

---

## *Konjaku: Récits de la Tradition Japonaise a l'époque de Heian*

---

（今昔：平安時代における日本の伝承譚）

翻訳者 Armel Guerne（アルメル・ゲルヌ）

出版地 Zürich（チューリッヒ／スイス）

出版社・発行者 Delpire（デルピール）

発行・刊行年 1959 年

巻号 1

頁数 209 頁

### 序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』のフランス語抄訳。ハードカバー。背表紙のみ布装。翻訳者による序文（7～10頁）、本編（13～210頁）、目次。序文は、平安期の日本文学全体の紹介である。西洋にとって未知なる日本という観点を強調、その文脈のなかで『今昔物語集』や『宇治大納言物語』（『宇治拾遺物

語』などを紹介する。その延長として映画「羅生門」(大映、1950 年)にもふれる。巻末の刊記では、刊年、同シリーズの説明、表紙の『源氏物語絵巻』について、部数(3500 部)などを記す。なお、本書にはナンバリング「1274」がある。

**翻訳に用いた底本情報** *Konjaku: Altjapanische Geschichten aus dem Volk zur Heian-Zeit*, Satoshi Tsukakoshi (塚越敏), Max Niehans Verlag, 1956

**翻訳内容の構成、章立** 本編では『今昔物語集』より 34 話を翻訳。各話の間に家紋をモチーフとした図案を配す。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙は長谷章久撮影の旧益田家蔵本(現・五島美術館蔵)『源氏物語絵巻』「柏木(三)」の御簾の左下の部分を拡大したもの。

翻訳者ゲルヌはスイス生まれの詩人。*Emaki*, Delpire, 1959 などドイツ語からフランス語への翻訳が多い。なお、*Emaki* も M. Niehans Verlag (M・ニーハンス出版社)によるドイツ語訳と同時刊行している。その撮影も長谷章久であることから、本書表紙は *Emaki* によると推測する。

---

## *Histoires qui sont maintenant du passé (Konjaku monogatari shū)*

---

(今では昔となった物語)

翻訳者 Frank Bernard (フランク・ベルナル)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール出版社)

発行・刊行年 1968 年

巻号 1

頁数 336 頁

### 序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』のフランス語訳(抄訳)である。ペーパーバック。献辞(A Junko)、翻訳に際する凡例を掲げた後、解説(11～49頁)、解説の注(49～54頁)、参考文献(54頁)、翻訳(57～213頁)と続く。さらに、解題(217～331頁)を付す。末尾に、詳細な目次、同シリーズの出版一覧。凡例は、慣用の語句及び音表記について。解説は、『今昔物語集』の諸本、同話類話についてである。

### 翻訳に用いた底本情報 —

#### 翻訳内容の構成、章立

翻訳の構成は、第1部「天竺」(57～74頁)、第2部「震旦」11話(77～97頁)、第3部「本朝」(「仏法」102～150頁、「世俗」153～213頁)からなる。採録は以下の通り。

|     |                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|
| 第1部 | 1巻1話・31話、2巻4話、3巻22話、4巻13話・28話、5巻4話<br>(計7話)                |
| 第2部 | 6巻5話・12話・43話、7巻10話・12話、9巻2話、10巻4話・5話・21話・36話・40話<br>(計12話) |

|             |                                                                                                                                                                                        |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第3部<br>「仏法」 | 11 巻 10 話・25 話・28 話、12 巻 8 話・18 話・31 話、13 巻<br>12 話、14 巻 3 話、15 巻 39 話、16 巻 4 話、17 巻 8 話・33 話、<br>19 巻 6 話・18 話、20 巻 12 話・38 話・40 話<br>(計 17 話)                                        |
| 第3部<br>「世俗」 | 22 巻 1 話、23 巻 26 話、24 巻 5 話・20 話・23 話、25 巻 12 話、<br>26 巻 2 話、27 巻 10 話・13 話・24 話・45 話、28 巻 18 話・21 話、<br>29 巻 8 話・26 話・38 話、30 巻 1 話・11 話、31 巻 8 話・27 話・<br>28 話・36 話・37 話<br>(計 23 話) |

本編では各話に通し番号がふられており、解題のなかで原書の番号と同話類話について記す。

**図版、挿絵の有無** ー

**参考文献の有無** 有 (54 頁)

**索引の有無** ー

**メモ**

裏表紙に内容紹介、Connaissance de l'orient Collection UNESCO d'œuvres représentatives の出版物目録。

翻訳者ベルナルは 1972 ～ 1974 年に日仏会館館長として再来日して以来、1974 年からコレージュ・ド・フランス日本高等研究所所長、パリ第 7 大学日本語学科教授などを歴任。1979 年 6 月に、コレージュ・ド・フランスの講座に加えられた日本文明講座の初代教授として選出された。1983 年にはフランス学士院会員及び日本学士院客員に選ばれている。仏蘭久淳子訳『風流と鬼一平安の光と闇』（平凡社、1998 年）、同訳『「お札」にみる日本仏教』（藤原書店、2006 年）などがある。

---

## *Histoires d'amour du temps jadis*

---

(昔の愛の物語)

翻訳者 Dominique Lavigne-Kurihara (ドミニク・ラヴィーニュ  
＝栗原)

出版地 Arles (アルル／フランス)

出版社・発行者 Philippe Picquier (フィリップ・ピキエ)

発行・刊行年 1998 年

巻号 1

頁数 203 頁

### 序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』の抄出仏訳。Le pavillon des corps curieux シリーズのひとつである。冒頭に Portraitscrachés (= Similar Portraits) と題して、Legenda Aurea (レジャンダ・オウリア) などと対比した Pascal Quignard (パスカル・キニャール) の比較文学的視野の論文 (24 頁) を置く。続いて、訳者は「解説 (Introduction)」(21 頁) で『古事記』以来の日本の文学と宗教、平安時代の文学特に物語と説話、そして『今昔物語集』に見られる愛の姿などを略説している。

### 翻訳に用いた底本情報 馬淵和夫・国東文麿・今野達校注／

訳『日本古典文学全集 23 今昔物語集 3』(小学館、1974 年) 及び同校注者による、『日本古典文学全集 24 今昔物語集 4』(小学館、1976 年)

### 翻訳内容の構成、章立

本朝世俗部から巻 22：7 話、巻 19：5 話～巻 27：25 話・26 話(『日本古典文学大系』では話を欠く 21 話を詰めて 24 話・25 話とする)、巻 20：7 話に至る 24 の恋愛譚(首尾の部分は原作と順序が異なる)を拾って訳したもの。訳文は注を施さず、読みやすいフランス語で、和歌は音節数を守らな

い5行としている。末尾に「主要語彙 (repertoire)」として、主な人名・地名・官職名（訳語で出す）、その他の詳しい解説を添える。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 読者のための「avertissement」で、本作と平安時代の文学をより深く知るための文献をいくつか挙げている。

**索引の有無** —

**メモ** —

---

## *Histoires fantastiques du temps jadis*

---

(昔の幻想的な物語)

**翻訳者** Dominique Lavigne-Kurihara (ドミニク・ラヴィーニュ＝栗原)

**出版地** Arles (アルル／フランス)

**出版社・発行者** Philippe Picquier (フィリップ・ピキエ)

**発行・刊行年** 1998 年

**巻号** 1

**頁数** 284 頁

**序文・解説の内容と概略** 『今昔物語集』本朝部から怪異譚を抄訳した。冒頭に「Ⅰ 怪異について」「Ⅱ 今昔物語について」の2章から成る「解説 (Introduction)」(23 頁)を置く。

**翻訳に用いた底本情報** 馬淵和夫・国東文麿・今野達校注／訳『日本古典文学全集 23 今昔物語集 3』(小学館、1974 年)及び同校注者による、『日本古典文学全集 24 今昔物語集 4』(小学館、1976 年)

## 翻訳内容の構成、章立

本文は、巻 27：13 話・15 話、巻 14：42 話、巻 20：2 話・6 話、巻 31：10 話 など 43 話を選び、それらを「鬼 (Démon(s))」、「幽霊 (Fantômes et spectres)」、「天狗 (Tengus)」、「狐と猪 (Re-nardes, renards et sangliers)」、「蛇 (Serpentes et serpents)」、「神異 (Dieux et esprits)」の 6 部に分け、訳したもの。

**図版、挿絵の有無** 末尾に詳しい「主要語彙 (repertoire)」と日本六十余州の地図を付す。途中には『百鬼夜行絵巻』、『地獄草紙』、『是害坊絵巻』、『光明真言功德絵巻』その他をモノクロで入れる。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** —

# 古今和歌集

## *Le Monument poétique de Heian: Le Kokinshû*

(平安時代の詩の傑作：古今集)

翻訳者 Georges Bonneau (ジョルジュ・ボノー)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Librairie Orientaliste Paul Geuthner (ポール・ゲートネル東洋学出版)

発行・刊行年 1巻：1933年、2巻：1934年、3巻：1934年

巻号 1、2、3

頁数 1巻：93頁、2巻：91頁、3巻：483頁

### 序文・解説の内容と概略

1巻のまえがきでは、『古今和歌集』の概説に続き、翻訳状況の説明、仮名序と真名序の説明と翻訳テキストにおけるその扱い方を紹介する。2巻では、同巻が『古今和歌集』の秀歌だけを収めたものであり、一例を除き、多様な解釈がある場合は、金子元臣の解釈に従っていることを示す。3巻はなし。

### 翻訳に用いた底本情報 ー

### 翻訳内容の構成、章立

1巻は「まえがき」「文献目録」「古今和歌集序」の構成である。そのうち「古今和歌集序」は13の章に分かれている。2巻は「まえがき」に続き、「自然」「恋」「状況」の項目別に和歌を収載する。特に、「自然」はさらに「春歌」「夏歌」「秋歌」「冬歌」に、「状況」は「賀歌」「離別歌」「羈旅歌」「物名」「哀傷歌」「雑歌」「雑体」「大歌所御歌」に分ける。3巻は、「古



今和歌集序（仮名序）」に続き、巻ごとに巻1から巻20までの全1111首が収載。最後に「古今和歌集序（真名序）」を付す。

**図版、挿絵の有無** 1巻：有、2巻：無、3巻：無

**参考文献の有無** 1巻：有、2巻：無、3巻：無

**索引の有無** 1巻：無、2巻：有、3巻：有

## メモ

同1～3巻は、グートネル社からYOSHINO 叢書V～Ⅶ巻として出版。サブタイトルは、1巻が「紀貫之による序文」、2巻が「秀歌」、3巻が「全本文」である。1巻の「古今和歌集序」は、見開きの左側に原文とそのアルファベット表記を、右側にフランス語訳を掲出し、下に注記を載せる形式をとる。2巻の和歌掲出部分も同様に、見開きの左側に原文とそのアルファベット表記を、右側にフランス語訳を載せるという形式である。3巻は、『古今和歌集』の原文とそのアルファベット表記のみが掲載されており、フランス語訳はない。

各巻の巻頭に記された叢書紹介欄によると、4巻のサブタイトルが「全翻訳文」として刊行予定になっているため、フランス語訳はすべて4巻に収載されることになっていたのであろうか。管見の限り4巻は出版されていないようである。

# 古今和歌集～千載和歌集

## ***Mono no aware: Le Sentiment des choses: cent quarante-trois poèmes empruntés au Japonais***

(もののあはれ (ものごとの気持ち) : 日本から取り入れた 143 の和歌)

翻訳者 Jacques Roubaud (ジャック・ルボー)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール出版社)

発行・刊行年 1970 年

巻号 1

頁数 268 頁

### 序文・解説の内容と概略

『古今和歌集』、『後撰和歌集』、『拾遺和歌集』、『後拾遺和歌集』、『金葉和歌集』、『詞花和歌集』、『千載和歌集』、『新古今和歌集』のフランス語訳。はじめに、久松潜一による「もののあはれ」論(7～11 頁)を掲載。

### 翻訳に用いた底本情報 -

### 翻訳内容の構成、章立

本書の翻訳の体裁を紹介する。ここでは、『万葉集』巻3: 351 番歌・沙彌満誓(しゃみまんせい)による和歌を引用している(本書 11 首目に掲載)。本書は、和歌 143 首を掲載(15～261 頁)している。章立ては、「万葉の長歌(Nagauta) 2 首」、「人麻呂 3 首」、「憶良 2 首」、「『万葉集』 31 首」、「牽牛(Hikoboshi)と織女(Tanabata) 20 首」、「季節篇(『古今和歌集』 17 首)」、「業平 17 首」、「小町 17 首」、「六選集 17 首」、「さび(鏝=人気のない場所) 17 首」。

最初は、『万葉集』の第 1 首目から始まる。その後は翻訳

者自身による選集で、採取の統一は見られない。和歌の形式も不統一である。「人麻呂」の和歌には反歌 (Envois) も併記する。「萬葉の長歌」では左右2段に分け、左右交互に下へと読み進める形をとる。「『万葉集』31首」では上にローマ字表記、下にフランス語の表記でそれぞれ5行書き。「牽牛と織女」では、長歌以外はローマ字表記・フランス語表記の3行書き。「季節篇 (『古今和歌集』17首)」には、Georges Bonneau による仮名序の後半部分の抜粋。「業平17首」冒頭には、藤原定家の論と『伊勢物語』初段を掲載。「小町17首」冒頭には、『古今和歌集』仮名序の小町に関する部分と『関寺小町』を掲載。「六選集17首」には『後撰和歌集』、『拾遺和歌集』、『後拾遺和歌集』、『金葉和歌集』、『詞花和歌集』、『千載和歌集』を採録。「さび (鏝: 人気のない場所) 17首」は、『新古今和歌集』を掲載する。

#### 図版、挿絵の有無 -

**参考文献の有無** Arthur Waley (アーサー・ウェイリー) の和歌に関する研究書と、東洋学者 Heinrich Julius Klaproth (ハインリッヒ・ユリウス・クラブロート) による『万葉集』の研究書を参照したとある。

#### 索引の有無 -

**メモ** 本書は、*Mono no aware, el sentimiento de las Cosas*, Miguel Castellote, 1972 というスペイン語にも翻訳されている。

# 小野小町集・小野小町壮衰抄

## (玉造小町壮衰書)

*Visages cachés, sentiments mêlés: le livre poétique de Komachi, les cinq nô du cycle Komachi, le dit de Komachi*

(隠れた相貌、入り乱れた感情：

小町の歌集、小町にまつわる 5 つの能、小町の物語)

翻訳者 Armen Godel (アルメン・ゴデール)、Koichi Kano (狩野晃一)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール)

発行・刊行年 1997 年

巻号 1

頁数 278 頁

序文・解説の内容と概略

フランス語翻訳を含む小野小町研究。「解説」(5～19 頁)、「謝辞」(20 頁)、「本編」(23～250 頁)、「付録」(251～278 頁)、目次、同シリーズの一覧。謝辞は、関係諸氏、観世流の指導と名演に対してである。解説は、『小野小町壮衰抄』、『小野小町集』、能劇における小町もの、室町期の御伽草子、江戸期の浄瑠璃『七小町』、浮世絵『七小町』(鈴木春信)、歌舞伎『積恋雪関扉』に表れる小町像、小町伝説の変遷について、時代背景とともに概説してある。

翻訳に用いた底本情報

主たる底本は佐成謙太郎著『謡曲大観』(明治書院、1930～1931 年)。「本編 3」は『小町草紙』の翻訳で、市古貞次

校注『日本古典文学大系 38 御伽草子』（岩波書店、1958 年）を底本としているようである。小町歌は、流布本 116 首に加え、窪田空穂編『日本古典全書 和泉式部集・小野小町集』（朝日新聞社、1958 年）所収の『続後撰和歌集』所収歌を翻訳する。流布本は『新編国歌大観』（角川書店、1983 ～ 1992 年）を参照している。

### 翻訳内容の構成、章立

本編は、「1 小野小町の歌集」、「2 能劇における五小町もの」、「3 御伽草子について」からなる。1 は解説、所収箇所整理、小野小町歌の翻訳である。2 は、『通小町』、『草子洗小町』、『鸚鵡小町』、『卒塔婆小町』、『関寺小町』の翻訳である。和歌の翻訳は、1 では音数律を意識した 5 行書きの翻訳にローマ字表記を併記する。2、3 では注のなかでローマ字表記を対応させる。注には、故事や出典に関するものがある。

**図版、挿絵の有無** 小野氏系図、能舞台平面図、図版目録、図版は歌仙絵、浮世絵など、別丁にて 11 葉。

**参考文献の有無** 文献目録と能の略説も掲載する。

**索引の有無** 初句索引、地名索引、総索引

### メモ

能の翻訳を含む。白地のペーパーバック。左側に歌川豊国『風流七小町略姿絵 かよひ小まち』の絵を掲載する。裏表紙には内容紹介がある。Gallimard Connaissance de l'Orient は東洋関連の叢書である。

翻訳者ゴデールは、ジュネーブ生まれ。作家、舞台演出家、喜劇俳優、戯曲を中心とした翻訳者である。1990 年頃より日本に触発された作品を発表した。観世流に入門している。著者・狩野晃一（松永尚三）は、ジュネーブ州立大学の教員。

古典文学及び能を中心とする伝統芸能の研究者であり、小説家・舞踊家でもある。両者の共著として、同シリーズに *La lande des mortifications: vingt-cinq pièces de nô par Zeami et autres*, Gallimard, 1994 がある。

## 和泉式部集・和泉式部続集

### *Poèmes de cour*

(宮廷の歌)

翻訳者 Fumi Yosano (與謝野文子)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Orphee La Difference (オルフェ・ラ・ディフェランス)

発行・刊行年 1991 年 (2 版)

巻号 1

頁数 127 頁

#### 序文・解説の内容と概略

和泉式部の和歌をフランス語に翻訳した本。本書には 99 首を収める。表紙は黄色地に人物像の合成写真。翻訳者自身による解説 (7～15 頁) には、まず平安時代の宮廷においては和歌贈答の習慣等、和歌を中心とした文化があったことを示す。とりわけ、作者和泉式部の生活には和歌が根ざしていたこと、中宮彰子に仕えた後宮生活のこと、帥宮敦道親王との恋愛について、また、同時代の紫式部や後世の国学者である本居宣長による和泉式部評、和泉式部の詠歌の特徴と與

謝野晶子ら後世歌人への影響についても述べている。解説の後、和歌に関連して、その文型や技法、後朝の歌等の当時の習慣、和歌と短歌の関わり等を概略する。

#### **翻訳に用いた底本情報** —

#### **翻訳内容の構成、章立**

翻訳部分（19～118頁）は、和歌を1頁に1首。まず頁の端には和歌本文を日本語、縦1行書きで記し、頁の中央には翻訳歌を、1字下げ・各句3～5行の分かち書きで掲載する。詞書が付される場合は和歌の直前に配し、贈答歌の場合は括弧内に詞書や相手方の和歌を補う。一部、脚注を付す。

#### **図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 巻末に和泉式部の年譜と参考文献を掲載する。年譜では、誕生年を不明とし、970年から979年までの諸説を紹介している。

#### **索引の有無** —

**メモ** 翻訳者の與（与）謝野文子（よさのふみこ）は東京生まれの詩人、エッセイスト。与謝野鉄幹と晶子の孫（次男・秀の娘）にあたる。著作に『美と略奪：詩的生態学へのまなざし』（筑摩書房、1991年）、訳書に『バルテュス：生涯と作品』（河出書房新社、1997年）、共訳書にヴァルター・ベンヤミンの遺稿をまとめた『パサージュ論』全5巻（岩波書店、出版年不明）などがある。

## 三教指帰

### *La vérité finale des trois enseignements: Kukai*

(三教の最後の真実：空海)

翻訳者 Allan Georges Grapard (アラン・ジョルジュ・グラパー  
ル)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Poiesis (ポイエシス)

発行・刊行年 1985 年

巻号 1

頁数 121 頁

#### 序文・解説の内容と概略

『三教指帰』のフランス語訳。題は「三教の最後の真実」の意である。表紙には釈迦を中心に、左右に老子、孔子を配した三聖図の白描を使用している。

解説(11～32頁)には、まず、空海が留学していた中国の、紀元前から10世紀初頭(唐代)までの歴史を王朝ごとに立項し、仏教史の流れと共に紹介して、空海の仏教思想の背景を明らかにする。また、『三教指帰』のタイトルの由来を目録類、及び諸説から検証し、最後に、『三教指帰』の元となる作品である『聾瞽指帰』の文体や作品相互の関係を記す。末尾(97頁)に『聾瞽指帰』中の漢詩10篇の内、5篇の翻訳を付す(各句4行書き)。また写本の伝来等から空海と皇室との関係を示唆して、末尾の『聾瞽指帰』の詩篇掲載の理由とする。

翻訳に用いた底本情報 『三教指帰』の底本には、西芳寺本(国宝)を使用する。『聾瞽指帰』の底本には、高野山金剛峰寺



所蔵卷子を使用している。巻末には、解説と翻訳部分の語釈と出典を掲載する。

### 翻訳内容の構成、章立

翻訳者自身による端書には、翻訳にあたって本文の表記を改めたことや、漢文文体に見られる偶数句の押韻などのリズムの訳出に腐心した旨を記す。翻訳部分(35～91頁)は『三教指帰』を序と3章に分けて翻訳し、詩篇部分は改行、1字下げにする。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 翻訳者グラパールはカリフォルニア大学の教員で、神道に関する著作もある。

## 枕草子

---

### *Notes de chevet de Sēi Shōnagon'*

---

(清少納言の枕元のノート)

翻訳者 André Beaujard (アンドレ・ボジャール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 G.-P.Maisonneuve (メゾヌーヴ社)

発行・刊行年 1934 年

巻号 1

頁数 329 頁

## 序文・解説の内容と概略

『枕草子』のフランス語訳（初版）。表紙、扉及び背表紙には縦書きで「枕の草紙」と記す。題名の「chevet」は「枕元」の意。

冒頭、M. Adatci（安達峰一郎／元フランス大使・常設国際司法裁判所第4代所長）の序文（5～6頁）を置き、これに翻訳者自身によるまえがき（7～18頁）が続く。ここではまず翻訳の方針・方法について述べた後、本書以前に刊行の『枕草子』の翻訳本（西洋の言語のもの）を11件挙げ、それらに簡単な説明を加える。まえがきに続いて日本語のローマ字表記に関する注意書き（18頁）、及び参考文献（19～22頁）を日本語とローマ字に分類して掲載している。

**翻訳に用いた底本情報** 溝口白羊訳『訳註 枕の草紙』（岡村書店、1915年）

**翻訳内容の構成、章立** 本文（1～315頁）は、底本とした『訳註 枕草紙』に従って162の章段に区分。仏訳の便宜をはかって翻訳者が補った語句は〔 〕で括られている。また、注は、脚注形式で、かなり詳細に説明している。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 金子元臣著『枕草子 評釈』（明治書院、1929年）

**索引の有無** —

**メモ** 表紙には *Les Notes de chevet de Séi Shōnagon'* とあり、表紙、扉及び背表紙には縦書きで「枕の草紙」と記す。なお、「M. Adatci」は表紙の表記に基づく。

---

## *Notes de chevet*

---

(枕元のノート)

翻訳者 André Beaujard (アンドレ・ボジャール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール出版社)

発行・刊行年 1966 年

巻号 1

頁数 325 頁

### 序文・解説の内容と概略

1934 年版にあった安達峰一郎による序文は削除し、まえがき(9～24 頁)は新たに書き換えている。

Collection Unesco d'œuvres représentatives, Série japonaise シリーズとして再版したもの。ここでは十二支、平安時代の政治的背景の解説、日記・随筆文学の概説、白居易の影響などについて述べる。また本書におけるローマ字表記の注意点についても記している。

**翻訳に用いた底本情報** 溝口白羊訳『訳註 枕の草紙』(岡村書店、1915 年)

### 翻訳内容の構成、章立

本文(25～281 頁)は 1934 年版のものをそのまま掲載。162 の章段を収め、訳文にも変更点はない。ただし、1934 年版において翻訳者自身が便宜的に補った語句に付した「」は本書では外している。また、注はかなりの量を削減した上で脚注形式から「Note」として巻末(283～313 頁)にまとめる形式に改めている。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 金子元臣著『枕草子 評釈』(明治書院、1929 年)

索引の有無 —

メモ —

---

*Notes de chevet*

---

(枕元のノート)

翻訳者 André Beaujard (アンドレ・ボジャール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール)

発行・刊行年 1985 年

巻号 1

頁数 325 頁

## 序文・解説の内容と概略

Collection Unesco d'œuvres représentatives, Série japonaise のシリーズとして 1966 年に再版した本のペーパーバック版。巻頭の「まえがき (Introduction)」から巻末の「注 (Notes)」まで、内容、ページ割付とも 1966 年版と同じである。1934 年版にあった安達峰一郎による序文は削除し、まえがき (9～24 頁) は新たに書き換えている。ここでは十二支、平安時代の政治的背景の解説、日記・随筆文学の概説、白居易の影響などについて述べる。また本書におけるローマ字表記の注意点についても記している。

**翻訳に用いた底本情報** 溝口白羊訳『訳註 枕の草紙』(岡村書店、1915 年)

## 翻訳内容の構成、章立

本文 (25～281 頁) は 1934 年版のものをそのまま掲載。162 の章段を収め、訳文にも変更点はない。ただし、1934 年版において翻訳者自身が便宜的に補った語句に付した [ ] は本書では外している。また、注はかなりの量を削減した上

で脚注形式から「Note」として巻末（283～313頁）にまとめる形式に改めている。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 金子元臣著『枕草子 評釈』（明治書院、1929年）

索引の有無 —

メモ 表紙のイラストは Bruce Thurman（ブルース・サーマン）によるもので、Peter Greenaway（ピーター・グリーンウェイ）の映画『枕草子』（1996年）のシーンをもとに描く。

## 円 仁 行 記（入唐求法巡礼行記）

---

### *Ennin: Journal d'un voyageur en Chine au IX<sup>e</sup> Siècle*

---

（円仁：9世紀に中国を訪れた旅行者の日記）

翻訳者 Roger Lévy（ロジェ・レヴィ）

出版地 Paris（パリ／フランス）

出版社・発行者 Albin Michel（アルバン・ミシェル）

発行・刊行年 1961年

巻号 1

頁数 311頁

序文・解説の内容と概略

『入唐求法巡礼行記』のフランス語訳。表紙は赤地に国宝「慈覚大師円仁像」（兵庫県・一乗寺蔵）である。

解説（7～34頁）は翻訳者自身による。円仁の「中国巡

礼と仏法研究の関係」を、遣唐使、円仁の性情、仏教、迫害の事、唐代の中国、帰朝の項目に分けて説明し、当時の歴史と文化的背景を紹介する。

**翻訳に用いた底本情報** *Ennin's diary: the record of a pilgrimage to China in search of the law*, M. Edwin O. Reischauer, The Ronald Press Company, 1959

### 翻訳内容の構成、章立

底本にあげた *Ennin's Diary. The Record of a Pilgrimage to China in Search of the Law* の重訳である。翻訳部分は、『入唐求法巡礼行記』4巻をそれぞれ章立てにする

第1巻 838～839年（39～109頁）

第2巻 839～840年（113～182頁）

第3巻 840～843年（185～250頁）

第4巻 843～847年（253～311頁）

年代ごとに頁を改め、月ごとに行間を取り、和暦と西暦を併記している。

**図版、挿絵の有無** 円仁の9年間、約6,000kmに及ぶ航路と巡礼の旅程を記した地図（2面）を掲載し、行路にその年代を示す。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

### メモ

底本の翻訳者である Reischauer（ライシャワー）はアメリカ合衆国の東洋史研究者。ハーバード大学日本研究所（現、同大学ライシャワー日本研究所）初代所長。1939年『入唐求法巡礼行記』の研究で博士号を取得し、円仁研究の先駆けとなる。関連著書に *Ennin's Travels in T'ang China* がある。元駐日米国大使。翻訳者レヴィには *Relations de la Chine et*

du Japon, Centre d'études de politique étrangère, 1938 ほか  
多数の極東関連の著作がある。

## 御 堂 関 白 紀

---

### *Notes Journalières de Fujiwara no Michinaga*

---

(藤原道長による日々のノート)

翻訳者 Francine Hérail (フランシーヌ・エライユ)

出版地 Genève (ジュネーブ／スイス)

出版社・発行者 Librairie Droz (ドロー社)

発行・刊行年 1987 年

巻号 1

頁数 592 頁 (別途、付録等 66 頁)

#### 序文・解説の内容と概略

『御堂関白記』(伝 36 巻、直筆存 14 巻) のフランス語訳及び研究書。本シリーズは、フランス高等実習研究院 (Ecole Pratiques Hautes Etudes) の歴史・文献学部門によるもの。ピンクのペーパーバックである (初版)。裏表紙見返しから裏表紙に高等実習研究院からの刊行物一覧を掲載する。

内容は、翻訳者による序文 (7 ~ 9 頁)、日本古代関連文献目録 (11 ~ 66 頁)、解説 (1 ~ 137 頁)、本編 (139 ~ 590 頁)、目次 (591 頁)、図版索引 (592 頁) である。目録は、『日本書紀』等の史書、日記、歌集、鏡ものから『大日本史料』まで 170 件を網羅する。

解説では、道長、日記、『御堂関白記』、年中行事を立項、

解題を付す。自筆本、古写本、平松家本の対照から、近代までの各テキストを丹念にたどり解説する。ローマ字表記する語彙（「刻」「尺」など）の解説を付す。序文では、『源氏物語』等の多様な文化を生み出した基盤たる平安期の王朝文化、有職故実を知るための史料としての「日記」を紹介する。

**翻訳に用いた底本情報** 藤原道長自筆本（陽明文庫蔵）、平松家本

### 翻訳内容の構成、章立

翻訳は、長徳元～4年、長保元～2年、寛弘元～2年（寛弘3年1月を含む）の記事。編年の記事ごとに、年時（陰暦）、通し番号をふり、翻訳。語彙レベルの注を付す。固有の語彙には漢字を併記する。長徳元年の記事は、伝藤原師実筆断簡『御堂御記抄』に見えるもので、直筆本と同列に年代順に配す。自筆本があるものは原則自筆本を、それ以外のは平松家本等を用いている。

### 図版、挿絵の有無

図版索引（592頁）、付録資料として図版（平城京、八省院、豊楽院、内裏、清涼殿、一条院、土御門邸、法性寺、古代日本の国、畿内の図版、京周辺の地形）、系図（藤原忠平から四代、宇多天皇から四代、醍醐天皇と中宮藤原隠子の子孫四代）の解説を付す。

### 参考文献の有無 —

### 索引の有無 —

### メモ

翻訳者エライユは、高等実習研究院教授、フランス国立高等研究院研究員である。中古を中心とした文学、歴史学、考古学を専門とする。本翻訳を主たる業績とし、1993年に第12回山片蟠桃賞受賞。本書のほか、*Notes de l'hiver 1039* :



*Fujiwara no Sukefusa*, Gallimard, 1994 (藤原資房『春記』)  
なども出版している。

## 春 記

---

### *Notes de l'hiver 1039: Fujiwara no Sukefusa*

---

(1039 年の冬のノート：藤原資房)

翻訳者 Francine Hérail (フランシーヌ・エライユ)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Gallimard (ガリマール社)

発行・刊行年 1994 年

巻号 1

頁数 133 頁

#### 序文・解説の内容と概略

エライユによる藤原資房の日記『春記』のフランス語訳。  
解説(7～16頁)は翻訳者自身による。まず『春記』の成立した時代背景と平安貴族の社会構造を説明し、本作品が同時代の紫式部等による女流文学作品とは異なり、和製漢文で綴られた即時的な日記であることを示し、また、著者藤原資房の履歴などを藤原氏の系譜とともに紹介する。

**翻訳に用いた底本情報** 増補史料大成刊行会編『増補史料大成  
7 春記』(臨川書店、1965年) ※底本は1847年の丹鶴叢書本

#### 翻訳内容の構成、章立

翻訳部分(19～131頁)は、まず和暦と西暦の年月日を併記した後、日次に翻訳する。現存する『春記』の本文は長

暦2（1038）年から天喜2（1054）年までの内の7年分であるが、本書には、その内の長暦3（1039）年10月1日（法会の記事）から12月30日までの2ヵ月分を収める。本文中、補足的な箇所は一部、字体を異にする。脚注に適宜、語釈を付す。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

表紙はパリの国立図書館が所蔵する「Smis-Lesouëf 日本コレクション 52（1）『源氏物語』」1aの図、見返しは同じ本から10aの図。翻訳者エライユは、本書の他、*Notes journalières de Fujiwara no Michinaga, ministre à la cour de Heian (995-1018) : traduction du Midô kanpakuki*, Librairie Droz, 1987 なども出版。

# 土左日記

---

## *Le Journal de Tosa ; Poèmes du Kokin-shû*

---

(土左日記：古今集の歌)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1993 年

巻号 1

頁数 95 頁

### 序文・解説の内容と概略

『土左日記』のフランス語訳及び『古今和歌集』所収歌のフランス語訳を付す。ペーパーバック。裏表紙には『土左日記』の紹介、さらに「土左日記」との筆書がある。筆は上杉蒼龍による。

玉叢書 (Collection Tama、コレクション・タマ) の紹介、奥付に続き、解説 (7～11 頁) は、紀貫之と『土左日記』の紹介。女性に仮託された『土左日記』におけるかな文学(「やまとうた」)の伝統、また物語の伝統に連なる側面を解説する。

### 翻訳に用いた底本情報 —

### 翻訳内容の構成、章立

『土左日記』翻訳 (15～61 頁)、『古今和歌集』所収の紀貫之歌の翻訳 (65～95 頁) からなる。『古今和歌集』所収歌を抄訳、併載する所以でもある。『古今和歌集』からは春 23、夏 3、秋 12、冬 3、賀 2、別 7、恋 24、雑 10 (含旋頭歌一首) を採録する。和歌は 5 行書き、旋頭歌は 6 行書き。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 表紙から裏表紙にかけて、『北野天神縁起絵巻』（承久本）に描かれた和船の絵が掲載されている。絵の出典は小松茂美編『日本絵巻大成 21 北野天神縁起』（中央公論社、1978 年）。

## 更級日記・紫式部日記・ 和泉式部日記

### *Journaux intimes des dames de la cour du vieux Japon*

（古代日本の宮廷婦人の日記）

翻訳者 Marc Logé（マルク・ロジェ）

出版地 Paris（パリ／フランス）

出版社・発行者 Librairie Plon（プロン社）

発行・刊行年 1925 年

巻号 1

頁数 245 頁

序文・解説の内容と概略

『更級日記』、『紫式部日記』、『和泉式部日記』のフランス語訳。「外国作家叢書」シリーズの 1 冊。11 ～ 30 頁まで、アメリカの女性詩人 Amy Lowell（アミー・ローウェル）による解説がある。西欧の文化が開花しない時代に高度な文化社会があり、それを記録する女性がいたということを絶賛し、

美しい叙情と自然の描写、複雑な人間関係による微妙な感情の揺れなどが詳細に美しく描かれていることを説明する。平安時代や京都のお寺などについて述べる。さらに、「発句は、短歌の下のを削ったものである。」と説明し、俳句についても触れる。

**翻訳に用いた底本情報** *Diaries of court ladies of old Japan*,  
Annie Shepley Omori (大森安仁子), Kochi Doi (土居光知),  
Houghton Mifflin, 1920

### **翻訳内容の構成、章立**

底本である英語訳 *Diaries of court ladies of old Japan* と内容はほぼ同じ。『更級日記』(1～34頁)、『紫式部日記』(35～178頁)、『和泉式部日記』(179～240頁)。異なるのは、付録を省いていること、人物の説明などは簡略で英語版よりも分量が少ないことである。最後に著者たちの作品成立の略年表を記す。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

翻訳者ロジェは、本書のほか、*Lumière vient de l'Orient: essais de psychologie japonaise*, Mercvrede France, 1919などの著作がある。出版社プロンは本書のほかに、コンスエロ・ド・サン＝テグジュペリ著『夫サン＝テグジュペリ秘密の私生活』(2000)等を出版。北代美和子による日本訳がある。

***Journaux intimes des dames de la cour du vieux Japon: Journal de Sarashina, Journal de Murasaki Shikibu, Journal d'Izumi Shikibu***

(古代日本の宮廷婦人の日記：更級日記・紫式部日記・和泉式部日記)

**翻訳者** Marc Logé (マルク・ロジェ)

**出版地** Arles (アルル／フランス)

**出版社・発行者** Philippe Picquier (フィリップ・ピキエ)

**発行・刊行年** 1998 年

**巻号** 1

**頁数** 212 頁

**序文・解説の内容と概略** 『更級日記』、『紫式部日記』、『和泉式部日記』のフランス語訳。「外国作家叢書」シリーズの1冊で、1925年にPlon(プロン)社から出版したものをタイトルを改めて出版したものである。

**翻訳に用いた底本情報** *Diaries of court ladies of old Japan*, Annie Shepley Omori (大森安仁子), Kochi Doi (土居光知), Houghton Mifflin, 1920

**翻訳内容の構成、章立** 本文の内容は1925年版と同じで、『更級日記』(21～86頁)、『紫式部日記』(87～157頁)、『和泉式部日記』(158～212頁)である。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** フィリップ・ピキエ社は、本書の他、十返舎一九『東海道中膝栗毛』のフランス語訳 *A pied sur le Tôkaidô: roman*, 1992、太宰治『津軽』(1944年初版)のフランス語訳 *Pays natal*, 1995 や夏目漱石・江戸川乱歩・宮本輝・浅田次郎などの翻訳本を出版。

# 更級日記

---

## *Le journal de Sarashina*

---

(更級日記)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1978 年

巻号 1

頁数 105 頁

**序文・解説の内容と概略** 『更級日記』のフランス語訳。解説(7～24 頁)では、日記について述べる。日記の最初として『土左日記』を挙げて評価する。さらに『紫式部日記』、『更級日記』、『成尋阿闍梨母集』、『讃岐典侍日記』の成立について明示する。

### 翻訳に用いた底本情報

鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・更級日記』(岩波書店、1957 年)、犬養廉編『完訳日本の古典 24 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記』(小学館、1984 年)

**翻訳内容の構成、章立** 本文(25～102 頁)は全訳。和歌は 5 行書きである。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

メモ

表紙は紙燭を見つめる宮廷夫人の姿。出版社 POF は、

本書のほか、シフェールによる井上靖『真田軍記 他四編』（角川文庫、1958年）のフランス語訳 *Lageste des Sanada:nouvelles*, 1984 や Amina Okada による田山花袋の『蒲団』（1907年発表）のフランス語訳 *Futon: roman ; suivi de, Un soldat; Une botte d'oignons*, 1986、Reiko Vergnerie による森鷗外『雁』（1911年初版）のフランス語訳 *L'oie sauvage: roman*, 1987 等を出版。

## 紫式部日記

---

### *Journal*

---

（日記）

翻訳者 René Sieffert（ルネ・シフェール）

出版地 Paris（パリ／フランス）

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France（通称  
POF、フランス東洋学出版）

発行・刊行年 1978年

巻号 1

頁数 83頁

#### 序文・解説の内容と概略

『土左日記』から『讃岐典侍日記』に至るまでの日記文学全般にわたる大まかな解説に続き、『紫式部日記』について、「作者」、「藤原道長と一条天皇の宮廷」、「本文の歴史」、「日記の内容」、「女性の装束についての解説」が、それぞれ詳述される。



**翻訳に用いた底本情報** 藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫校注／訳『日本古典文学全集 18 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』（小学館、1971 年）

**翻訳内容の構成、章立** 底本をそのままフランス語に翻訳している。内容ごとに＊マークで区切りを入れている。ただし、底本とした日本古典文学全集本の段落分けと必ずしも一致するわけではない。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

タイトルは *Journal* であるが、見返しには *Murasaki-Shikibu Nikki* とあり、「Introduction」では「Le Journal de Murasaki-Shikibu（紫式部の日記）」とある。同書は、世界文学の名作を翻訳するプロジェクトである、ユネスコ・コレクションのひとつ。

# 和泉式部日記・和泉式部集

## *Journal et Poèmes*

(日記と歌)

翻訳者 René Sieffert (ルネ・シフェール)

出版地 Paris (パリ／フランス)

出版社・発行者 Publications Orientalistes de France (通称  
POF、フランス東洋学出版)

発行・刊行年 1989 年

巻号 1

頁数 197 頁

**序文・解説の内容と概略** 和泉式部の「日記」と「歌集」の仏訳。冒頭の詳しい(30 頁)「解説(Introduction)」で、和泉式部の伝記と「日記」(ジャンルや作者の問題も)、「歌集」と彼女の歌、紫式部との関係、伝説そして諸本の伝来について説く。

### 翻訳に用いた底本情報

三条西家本。鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・更級日記』(岩波書店、1957 年)、藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫校注／訳『日本古典文学全集 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』(小学館、1971 年)、和泉式部・野村精一校注『新潮古典集成 和泉式部日記・和泉式部集』(新潮社、1981 年)

### 翻訳内容の構成、章立

訳出の方針は『源氏物語』をはじめとする「日本文学主要作品」シリーズのそれによったが、和歌は一人称としたとあ

る。会話または独白だから当然である。ちなみに地の文では、主人公は彼女 elle としている。「日記」の部分では引歌・本歌取などの箇所はアスタリスクを付けて注で説明したと断る。「日記」の部分は、上に言う通り注を一切付さず、和歌は原則として5－7－5－7－7の音節数を保った5行として、一般読者向に軽く読み飛ばすことを期待しているようである。ただし、「歌集」の部分は右頁に同様に5行とした訳(各歌に番号を打つ)、左頁に各歌についての詳しい注解を記している。

図版、挿絵の有無 ー

参考文献の有無 ー

索引の有無 ー

メモ ー

# ドイツ語

German





# 竹 取 物 語

## *Der Bambussammler: Märchen aus Alt-Japan (Taketori Monogatari)*

(竹取の男：古代日本のメルヘン（竹取物語）)

**翻訳者** Uto Masazo Shimada（島田昌三／眞造）、Dr. F. W. Mohr（Friedrich Wilhelm Mohr／フリードリッヒ・ヴィルヘルム・モーア）

**出版地** Berlin（ベルリン／ドイツ）

**出版社・発行者** Weidmannsche Buchhandlung（ヴァイドマン書店）※ベルリンの Japaninstitut（日本研究所）と東京の Japanisch-Deutsches Kultur-Institut（日独文化研究所）で編集。

**発行・刊行年** 1935 年

**巻号** 2

**頁数** 前半は 16 頁(91～106 頁)、後半は 20 頁(145～164 頁)

### 序文・解説の内容と概略

*Nippon: Zeitschrift für Japanologie* 1 巻 2～3 号に所収。モーアが 1916 年 12 月から 1917 年 1 月にかけて久留米で書いた短い序文がある。久留米俘虜収容所に通訳者として勤めた島田昌三は、日本人の大学生向けの教材として『竹取物語』をドイツ語に訳し、それをモーアが原文を参考しながら読みやすい文章に改めた。そもそも教材として作られたので、できるだけ原文に忠実な翻訳であって、ドイツ語なら更に短く表現するような所でも「日本語の回りくどい表現法」（「die umständliche japanische Ausdrucksweise」、91 頁）のままにしたという。しかし、ドイツ語訳で 9 行に連なる阿部の右大臣の歌と、10 行に連なる中納言石上麻呂足の歌は過

剰な長さで目立つ（104 頁、152 頁）。また、モーアによると『竹取物語』はおそらく当時の風俗の批判として書かれた。「長年の平和で柔弱になって」（「durch einen langen Frieden verweichlicht」、91 頁）、貴族は酒や女と歌だけに溺惑していたとする。ただし、それにも関わらず、9 世紀から 10 世紀への変わり目に日本文学が最も盛んになっていたと続ける点は矛盾と思われる。翻訳者の平和についての否定的な発言は第一次大戦の頃の世界観によるものか。

**翻訳に用いた底本情報** —

**翻訳内容の構成、章立** 原文のドイツ語訳

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 冒頭の「いまは昔」をドイツ語のメルヘンに頻出する「Es war einmal ...」という表現に訳す（1936 年のプッチェル・伊東の翻訳も同様）。

## ***Die Geschichte von Taketori*** (独訳「竹取物語」)

(竹取の物語)

翻訳者 Dr. Chlothilde Putscher (クロチルデ・プツチエル)、  
Tutomu Itô (伊東勉)

出版地 東京市 (日本)

出版社・発行者 大学書林

発行・刊行年 1936 年

巻号 1

頁数 115 頁

### **序文・解説の内容と概略**

1936 年の 10 月に書かれた日本語の「序言」と同年 11 月に成立したドイツ語の「Vorwort」がある。「序言」「Vorwort」にふたりの翻訳者の名前が載り、ドイツ語のまえがきの後に「Kagosima/Kôti」と書いてあるので、当時プツチエルが鹿児島に、伊東が高知に滞在したということかと推察される。

「序言」から、この翻訳はドイツ語学習者向けに作られたことが明確である。それに対してドイツ語の序文には、ドイツ人と日本人の青年の間で『竹取物語』が人気になることの期待を述べている。日本のことを「Nippon」と称し、『竹取物語』が日本の全国民にとって新鮮で喜ばしい物語であり続ける理由を、「weil sich die Seele des ganzen Stammes darin ausspricht」(その中に部族全ての魂が現わになる)としてする。伊東は原文を忠実に訳しながら、プツチエルは読みやすいドイツ語にした。そのために Gustav Schwab (グスターフ・シュヴァープ) が語る *Die deutschen Volksbücher* (『ドイツ民譚集』) を手本にしたという。

### **翻訳に用いた底本情報**

「序言」に「原文の解釈は主として本物語注釈書中、最も



定評あり、最も詳密、精確な田中大秀著『竹取翁物語解』に拠つた」とあるので、それを底本としたと考えられる（『竹取翁物語解』は江戸時代後期の注釈書で文政13年版（松屋善兵衛）のほか、「日本文学古註大成」などでの刊行がある）。

## 翻訳内容の構成、章立

10章に分け、原文とドイツ語訳が対照されている。ドイツ語のまえがきで『竹取物語』を「Geschichte vom Bambusfäller」と訳す一方で、タイトルと翻訳の中では「竹取」はそのままに翁の名前としている。この本は『竹取物語』を物語性が高く、テンポよく読みやすい文章に訳している。原文の「女」という言葉を近代では差別語になっている「Weib」（11頁）と訳し、「御志」を中世語である「Minne」（13頁）とする。しかし、これらは『ドイツ民譚集』などの言葉に合わせていると思われる。また、一神教の傾向を表すところがあり（「und beteten zu Gott（祈をし）」（9頁）、「Betet sogleich zu Gott!（はや神に祈り給へ）」（55頁）、「Gottes Hilfe（神の助）」（57頁）など）、「高き山とも頼め」を「wie dem eines Heiligen glauben」に訳すことによって、キリスト教の聖人を浮かばせる。ドイツ語が『ドイツ民譚集』などと同様にフラクトゥールという活字で表記する。つまり、現代に作るような日本古典文学の翻訳と比べると、注釈などを少なくして原文をドイツ文学に合わせ、できるだけ文学性の高い言葉に翻訳している。

最後の3頁で、1頁が『語学四週間叢書』という諸言語の教科書シリーズ、2頁がドイツ語の教材になっていることは、「序言」に述べたとおり、ドイツ語を学習する者のために作られた翻訳であることを示す。

**図版、挿絵の有無** 表紙には暗い富士山の上に、雲の上に満月

に向かっている行列が描かれている。かぐや姫は馬が引く輿に座り、振り返りながら袖を上げている。また、本の中には竹藪でかぐや姫を見つけた翁のイラストがある。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

語学の教科書を専門にする大学書林は「高等独逸語参考書」として語学書の他に翻訳も宣伝する。その中にマルクスの『賃労働と資本』もある。ハイデッガーのナチズムに関して肯定的な『独逸大学の自己主張』、そして Gottfried Feder (ゴットフリート・フェーダーあるいはフェーデル) 著 *Das Programm der N.S.D.A.P. und seine weltanschaulichen Grundgedanken* (『ナチス綱領』) まで載ることに注目。

2004 年にこの本は K. G. Saur という出版社で、Markus Koller と Max Spindler が編集した叢書 *Deutschsprachige Schriften zu Japan 1477 bis 1945* (『日本に関してのドイツ語文献：1477 年から 1945 年まで』) の中にマイクロフィッシュとして発表された。

なお、奥付に翻訳者を「伊藤勉」と記載するのは誤りであり、奥付の「プッチェル」も表記の統一を欠く。

---

## ***Die Jungfrau vom geschmeidigen Bambus: Altjapanisches Märchen***

---

(しなやかな竹の処女：古代日本のメルヘン)

翻訳者 Johanna-Maria Schwarz-Okuno (ヨハンナ＝マリア・  
シュワルツ＝奥野)

出版地 Stuttgart (シュトゥットガルト／ドイツ)

出版社・発行者 Reclam-Verlag (レクラム出版社)

発行・刊行年 1953 年

巻号 1

頁数 74 頁

### **序文・解説の内容と概略**

Hanns Maria Lux (ハンス・マリア・ルックス) のあとがきがある (69 ～ 74 頁)。『竹取物語』は講談や紙芝居の題材になっている (ルックスは 1920 年代に来日している)。メルヘンと見なし、題名を「Erzählung vom Bambusfäller」と訳す。大陸のモチーフ、仏教の影響、歌の意義などを説明する。

**翻訳に用いた底本情報** —

**翻訳内容の構成、章立** 原文の翻訳

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

### **メモ**

まえがきによると、シュワルツ＝奥野の翻訳をルックスが改訂した。しかし、ドイツ語の文章は原文からかなり離れている。青年向けの作家としても活躍したルックスの手による補足と思われる所が非常に多い。つまり、この本は翻訳というより、『竹取物語』を基にした近代小説、あるいは他国語への「現代語訳」といってもよいであろう。以下、その例を

ひとつ挙げて、日本語訳を加える。

原文:「あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。」(『新日本古典文学大系 17』 3 頁)

„Das zaubrische Licht schimmerte unmittelbar über der Wurzel; das war so wunderbar, daß es ihn mit voller Macht anzog. Wie er sich dem Leuchten näherte, wurde das goldene Feuer durchsichtig wie klares Wasser, und jetzt neigte sich ihm die Flamme geschmeidig entgegen.“ (3 頁)  
(神秘的な光は根の真上に微かに輝いており、彼を力強く惹くほどの不思議さであった。輝きに近づくとともに、黄金の火が澄んだ水のように透明になり、今は炎が彼のほうにしなやかに傾いた。)

あとがきに続く 4 頁において、レクラム出版社の 1867 年に創立した格安の Universal-Bibliothek (世界叢書) の歴史を掲載する。この『竹取物語』は「世界叢書」の第 7800 巻である。この本は 1953 年の後に、1954 年、1957 年、1959 年と 1963 年にも刊行された。

---

## ***Die Jungfrau vom geschmeidigen Bambus (Takatori-monogatari): Altjapanisches Märchen***

---

(しなやかな竹の乙女 (竹取物語) : 古代日本のメルヘン)

翻訳者 Johanna-Maria Schwarz-Okuno (ヨハンナ＝マリア・  
シュワルツ＝奥野)

出版地 Stuttgart (シュトゥットガルト／ドイツ)

出版社・発行者 Reclam-Verlag (レクラム出版社)

発行・刊行年 1963 年 ※初版は 1953 年

巻号 1

頁数 78 頁

### **序文・解説の内容と概略**

ヨハンナ＝マリア・シュワルツ＝奥野による『竹取物語』のドイツ語訳。本書は Universal-Bibliothek (レクラム文庫) の 7800 番にあたる。解説はない。Hanns Maria Lux (ハンス・マリア・ルックス) によるあとがきでは、『竹取物語』の登場人物、平安時代の概要、『源氏物語』の紫式部について述べる。

### **翻訳に用いた底本情報 —**

**翻訳内容の構成、章立** 本文は『竹取物語』の全訳で 10 章 (3 ~ 71 頁) に分ける。和歌は会話文中に続けて特に形式を持たない。

### **図版、挿絵の有無 —**

### **参考文献の有無 —**

### **索引の有無 —**

### **メモ**

出版社のレクラムは、Anton Philipp Reclam (アントン・フィリップ・レクラム) による出版社。1867 年にゲーテの『ファウスト』を第 1 冊として創刊したシリーズのレクラム文庫は、

日本の岩波が文庫を刊行するにあたって、これを範としている。そのため、レクラム文庫は岩波文庫とほぼ同じ大きさで、薄茶色の装幀となっている。森鷗外は、よくこれを愛読していた。創刊以来 15,000 点以上を刊行したレクラム文庫は、世界文庫という名の通り、ドイツのみならず世界各国の人文科学、社会科学、自然科学など広いジャンルのタイトルを揃えていて、収録内容の厳選と厳密な校訂には定評がある。

---

## ***Die Geschichte vom Bambussammler und dem Mädchen Kaguya***

---

(竹を集める人と少女かぐやの物語)

**翻訳者** Hisako Matsubara (松原久子)

**出版地** Hamburg (ハンブルク／ドイツ)

**出版社・発行者** Langewiesche-Brandt (ランゲヴィーシェ＝ブランド)

**発行・刊行年** 1968 年

**巻号** 1

**頁数** 72 頁

**序文・解説の内容と概略** —

**翻訳に用いた底本情報** 阪倉篤義・大津有一・築島裕・阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系 9 竹取物語・伊勢物語・大和物語』(岩波書店、1957 年)

### **翻訳内容の構成、章立**

後記では、『竹取物語』の概要、5 人の貴公子に出された難題の解釈について詳述。また、陰陽五行思想を用いて解説する。翻訳に際して、ほぼテキストを全訳する。ただし、各求婚譚の末尾にある語源の説明的な部分などは、ドイツ人読

者にはわかりにくいため割愛する。さらに、「思ふ」という語について、かぐや姫の言葉におけるこの語の機能が、『竹取物語』全体を理解する鍵とみて、この翻訳では、「wünschen（願う）」「lieben（愛する）」「leiden（苦しむ）」の3通りに訳す旨を記す。

**図版、挿絵の有無** 紙や挿絵は、訳者の姉妹である版画家の松原直子による。ほぼ見開きごとに、緑、赤、黒、青の単色、又はそれらの色を組み合わせた多色の版画の挿絵がある。版画の構図を考慮してか横長である。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

翻訳者の松原久子は、京都府生まれ。国際基督教大学卒業後、アメリカのペンシルベニア大学、ドイツのゲッティンゲン大学に留学した。日欧比較文化史において博士号取得している。スタンフォード大学フーバー研究所特別研究員を経たのち、著作に専念した。著書に『日本の知恵ヨーロッパの知恵』（三笠書房、1985年）、『和魂の時代』（同、1988年）があり、ドイツ語による著書も多数存在する。

## *Die Geschichte vom Bambussammler*

(竹取の物語)

**翻訳者** Nelly Naumann (ネリー・ナウマン)、Wolfram

Naumann (ヴォルフラム・ナウマン)

**出版地** München (ミュンヘン/ドイツ)

**出版社・発行者** Carl Hanser Verlag (カール・ハンザー出版社)

**発行・刊行年** 1973 年

**巻号** 1

**頁数** 『竹取物語』は 29 頁 (43 ~ 71 頁)。

**序文・解説の内容と概略**

*Die Zauberschale: Erzählungen vom Leben japanischer Damen, Mönche, Herren und Knechte* に所収。日本文学史についてのあとがきがある。『竹取物語』を「メルヘン的な物語」(märchenhafte Erzählung) とする (379 頁)。5 人の貴公子の風刺的な要素、帝への敬意、人物間の会話としての歌にも触れる。本の後半に、注解 (その中では『竹取物語』に関するものがひとつのみ) とアルファベット順に並ぶ語釈がある。ほかに日本語の発音と暦などの説明、底本と画像の出典リストがある。

**翻訳に用いた底本情報** 阪倉篤義・大津有一・築島裕・阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系 9 竹取物語・伊勢物語・大和物語』(岩波書店、1957 年)

**翻訳内容の構成、章立** 翻訳を 10 章に分けている。

**図版、挿絵の有無** 『年中行事絵巻』から弓を持つ武士達の場面を載せている。令制国の地図、平安京とその周辺の地図と内裏の図も記載されている。

**参考文献の有無** —



## 索引の有無 —

### メモ

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）によって振興されたアジア文学の翻訳叢書の本である。また、1975 年と 1982 年にも Hanser（ハンザー）出版社から刊行、1990 年と 1995 年にミュンヘンの dtv、2009 年に Köln（ケルン）の出版社 Anaconda（アナコンダ）からの刊行である。

---

### ***Klassisches Japanisch VI Taketorimonogatari: die Erzählung vom Bambussammler***（竹取物語要解）

---

（「中古日本語 VI - 竹取物語」：竹を集める人の物語）

翻訳者 Horst Arnold-Kanamori（ホルスト・アーノルド＝カナモリ）

出版地 München（ミュンヘン／ドイツ）

出版社・発行者 Langewiesche-Brandt（ランゲヴィーシェ＝ブランド）

発行・刊行年 2003 年

巻号 1

頁数 245 頁

#### 序文・解説の内容と概略

『竹取物語』の対訳・注釈書（初版）。まえがき（7～9 頁）は翻訳者自身による。ここでは竹取の翁という人物が『万葉集』巻 16 の 3791 番の長歌に既に見えることを取り上げ、その詞書のみ漢文・書き下し文・ローマ字表記・独訳を併記して紹介する。続いて Bruno Lewin（ブルーノ・レヴィン）による解説（10～11 頁）で『竹取物語』の作者・成立年代、難題譚について、『竹取物語』の文体と本文系統について述

べる。

### 翻訳に用いた底本情報

阪倉篤義・大津有一・築島裕・阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系 9 竹取物語・伊勢物語・大和物語』（岩波書店、1957 年）を用い、現代日本語訳は三谷栄一著『竹取物語要解』（有精堂、1964 年）を参考にしたとある（ただし後者の出版年は 1984 年の誤りかと思われる）。

### 翻訳内容の構成、章立

本文（13～220 頁）は底本の大系に従い、全体を 10 の章段に分ける。各章段は幾つかに区切り、本文・注・現代語訳を掲載。原則的に一文ずつ日本語原文・原文ローマ字表記・独訳を併記する。注は語意や文法に関する事柄を中心に引き上げる。

### 図版、挿絵の有無 図説（235～238 頁）

### 参考文献の有無 参考文献一覧（243～245 頁）

**索引の有無** 重要語句索引（221～230 頁）・文法語句索引（231～234 頁）や図説（235～238 頁）・活用表などの文法説明（239～242 頁）がある。全て日本語の記述のみで、ドイツ語による補足説明はない。

### メモ

表紙は扇を持つ女房の絵で、引目鉤鼻に描かれている。翻訳者アーノルド＝カナモリはブレーメンの音楽学校で学んだ後、Freie Universität Berlin（ベルリン自由大学）で社会学と日本語を学習。1989 年から 1994 年までチュービンゲン大学補習高等専門学校の日本語と地域研究の講師、1995 年以降はウルム大学の言語センターにて日本語及びトルコ語の講師を務める。現代及び古代日本語に関する多くの書物を刊行。

# 伊勢物語

---

## *Liebesgeschichten des japanischen Kavaliers Narihira aus dem Ise-monogatari: Mit 14 farbigen Wiedergaben nach den Sôtatsu zugeschriebenen Bildern*

---

(『伊勢物語』の日本の紳士業平の恋愛譚：

宗達仮託図絵の14枚色刷り影印付き)

翻訳者 Oscar Benl (オスカー・ベーネル)

出版地 München (ミュンヘン／ドイツ)

出版社・発行者 Carl Hanser Verlag (カール・ハンザー出版社)

発行・刊行年 1957年

巻号 1

頁数 47頁

### 序文・解説の内容と概略

『伊勢物語』の和歌、題名、在原業平の惟喬親王や藤原高子との関係、そして平安時代における男女関係について記す、『伊勢物語』の世界を紹介するオスカー・ベーネルのまえがきの後に、Dietrich Seckel (ディートリッヒ・ゼッケル) の芸術史的な序文もある。宗達は墨絵の影響を受け、初めて大和絵に垂らし込みという技法を利用したとゼッケルが書き(12頁)、表紙に載せられた富士山の絵にも使用されたのが明白である。ただし、本当に宗達によるものかは確認されていない。

### 翻訳に用いた底本情報 —

翻訳内容の構成、章立 俵屋宗達仮託の絵に合わせた『伊勢物語』の12話の翻訳。

## 図版、挿絵の有無

藤本韶三の許可で、造形芸術社の『宗達伊勢物語図帖』（東京、1949年）に所収されている絵の影印を載せる。実物の絵の大きさは23×21センチ、この本のために少し縮小してある。大和絵の上に書かれている和歌は皆同じ手によるものではない、とゼッケルがまえがきを書く（12頁）。第5話（普段は第8話）において富士山を見る場面の絵は、表紙にも貼られている。

## 参考文献の有無 —

## 索引の有無 —

## メモ

表紙に『宗達伊勢物語図帖』という題簽を貼る。通草紙が袋綴じのように二重になっており、宗達仮託の大和絵がまた別の紙に印刷され貼られている。翻訳の後に注解が多少ある。ベネルは「をとこ」を「Kavalier」（紳士、または宮廷人という意もある）と訳している。しかし、1981年に『伊勢物語』を完全にドイツ語に訳した Siegfried Schaarschmidt（ズィークフリート・シャルシュミット）もこの言葉を使う。

---

## *Ise-monogatari*

---

(『伊勢物語』)

翻訳者 Oscar Benl (オスカー・ベーネル)

出版地 München (ミュンヘン／ドイツ)

出版社・発行者 Nymphenburger Verlagshandlung (ニンフェンブルク出版社)

発行・刊行年 1965 年

巻号 1

頁数 『伊勢物語』は 13 頁 (15 ～ 27 頁)。総頁数は 454 頁。

序文・解説の内容と概略 *Der Kirschblütenzweig: Japanische Liebesgeschichten aus tausend Jahren* に所収。ドイツ語訳で収録されている文学や作家を紹介する序文がある。

翻訳に用いた底本情報 —

翻訳内容の構成、章立 12 話を載せている。しかし、『伊勢物語』の順番と一致しない。

図版、挿絵の有無 新吉原にある巴屋の豊里を描く、鈴木春信の版画を白黒で載せる。

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

この翻訳でも、ベーネルは「をとこ」を「Kavalier」と訳す (1957 年「*Liebesgeschichten des japanischen Kavaliers Narihira*」の項目を参照)。この本は、国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) の UNESCO-Sammlung repräsentativer Werke: Japanische Reihe (ユネスコ代表的作品集: 日本叢書) の所収である。また 1 回限りの特別版として、19 の出版社が協力して作った叢書 *Die Bücher der Neunzehn* (19 の本) の第 132 巻でもある。1982 年にも同じ出版社から刊行した。

翻訳の後に注解と図版リストがある。

---

## ***Das Ise-monogatari: Kavaliersgeschichten aus dem alten Japan***

---

(『伊勢物語』：古い日本の騎士物語)

**翻訳者** Siegfried Schaarschmidt (ズィークフリート・シャルシュミット)

**出版地** Frankfurt am Main (フランクフルト・アム・マイン／ドイツ)

**出版社・発行者** Insel (インゼル)

**発行・刊行年** 1981 年

**巻号** 1

**頁数** 144 頁

### **序文・解説の内容と概略**

シャルシュミットによる『伊勢物語』ドイツ語訳(初版)。Irmtraud Schaarschmidt-Richter (イルムトゥラウト・シャルシュミット＝リヒター)によるドイツ語の挿絵解説がある。副題は「古い日本の騎士物語」の意。表紙は説明文によれば、最終段「つひに行く」の段(125段)、裏表紙は「渚の院」の段で惟喬親王に酒を供する場面(82段)である。タイトルや翻訳者の情報等を帯に記す。

### **翻訳に用いた底本情報** —

**翻訳内容の構成、章立** 本文(7～107頁)は『伊勢物語』全125段のドイツ語訳。挿絵が全部で13枚。各々に場面を紹介する説明文が付く。和歌は5行書きに統一。

**図版、挿絵の有無** 巻末に簡単な注釈(110～125頁)、系図(天皇家及びその子孫の系図、天皇の生年及び在位年の表、藤原

氏の系図) (126 ~ 127 頁) を付す。

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

翻訳者のシャルシュミットは詩人、エッセイストとしても活躍。川端康成、三島由紀夫、安部公房、大江健三郎といった作家の翻訳も多く、井原西鶴の武家物や宮本武蔵『五輪書』等も手がける。シャルシュミット＝リヒターは、著書に *Japanese modern art: painting from 1910 to 1970*, Edition Stemmle, 2000、*Der japanische Garten: ein Kunstwerk*, Office du Livre, 1979 (森蘊共著『日本庭園』) 等がある。出版社のインゼルは 1899 年創業のドイツの老舗出版社。

## 堤 中 納 言 物 語

---

*Tsutsumi-chunagon-monogatari*

---

(『堤中納言物語』)

翻訳者 Oscar Benl (オスカー・ベーネル)

出版地 München (ミュンヘン/ドイツ)

出版社・発行者 Nymphenburger Verlagshandlung (ニンフェンブルク出版社)

発行・刊行年 1965 年

巻号 1

頁数 『堤中納言物語』は 28 頁 (101 ~ 128 頁)。総頁数は 454 頁。

## 序文・解説の内容と概略

*Der Kirschblütenzweig: Japanische Liebesgeschichten aus tausend Jahren* に所収。ドイツ語訳で収録されている文学や作家を紹介する序文がある。『堤中納言物語』の趣向において、『源氏物語』の世界を引きずりながら、皮肉的な距離を保っているとされる（9頁）。

## 翻訳に用いた底本情報 —

### 翻訳内容の構成、章立

『堤中納言物語』の3話の翻訳である。「Der Shosho bricht Kirschblüten」（「花桜折る少将」）、「Der Gon-Chunagon kommt über den Berg nicht hinweg」（「逢坂越えぬ権中納言」）、「Der Aschenpuder」（「はいずみ」）。

**図版、挿絵の有無** 喜多川歌麿の男女の愛撫、磯田湖竜斎の三味線を弾く女性、歌麿の嫉妬の場面を描く版画を一枚ずつ白黒で載せる。

## 参考文献の有無 —

## 索引の有無 —

## メモ

この本は国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の UNESCO-Sammlung repräsentativer Werke: Japanische Reihe（ユネスコ代表的作品集：日本叢書）の所収である。また、1回限りの特別版として19の出版社が協力して作った叢書 Die Bücher der Neunzehn（19の本）の第132巻でもある。1982年にも同じ出版社から刊行された。翻訳の後に注解と図版リストがある。



# とりかへばや物語

---

## *Das Torikaebaya-Monogatari*

---

(『とりかへばや物語』)

翻訳者 Michael Stein (ミヒャエル・シュタイン)

出版地 Wiesbaden (ヴィースバーデン／ドイツ)

出版社・発行者 Otto Harrassowitz(オットー・ハラソヴィッツ)

発行・刊行年 1979 年

巻号 1

頁数 339 頁

### 序文・解説の内容と概略

本書は、シュタインによる『とりかへばや物語』の研究書、及びドイツ語訳である。内容は、A. 解説 (1～2 頁)、B. 現今の『とりかへばや物語』物語成立の調査 (3～13 頁)、C. 『とりかへばや物語』の翻訳 (14～165 頁)、D. 主要な典拠からの抜粋 (166～72 頁)、E. 『とりかへばや物語』の内容と意義 (173～241 頁)、F. 『とりかへばや物語』の評価 (242～249 頁)、G. 注記、H. 付録からなる。B では、現存する作品の原本について及び『今とりかへばや』の成立年代、著者、現存する諸本についてなど細目に分けて述べる。

### 翻訳に用いた底本情報 -

### 翻訳内容の構成、章立

本書をもとに、1994 年に Insel (インゼル) 社より *Die vertauschten Geschwister* とタイトルを変えて書籍版として出版。C. の翻訳では、内容を 4 部に分ける。主要登場人物については『源氏物語』にならい、作品中の言葉から女大將を「Surigoromo」、男尚侍を「Susukinoho」、宮の宰相を

「Tsukikusa」とそれぞれ命名する。本文中では、日本文では省略されがちな主語を( )内に入れて補う。和歌は5行書きで、ローマ字とドイツ語訳を並記する。D. では、『無名草子』・『拾遺百番歌合』・『風葉和歌集』における『とりかへばや物語』の記述を翻訳している。

図版、挿絵の有無 -

参考文献の有無 -

索引の有無 -

メモ

E. から研究編として、歴史的背景をはじめ、物語文学、『とりかへばや物語』における仏教的世界観、先行文学の影響として、『狭衣物語』、『浜松中納言物語』、そして『源氏物語』からの影響関係について論ずる。

---

***Die vertauschten Geschwister (とりかへばや物語) :  
Ein höfischer Roman aus dem Japan des 12.  
Jahrhunderts***

---

(取り違えられた姉弟：12 世紀日本の王朝ロマン)

翻訳者 Michael Stein (ミヒャエル・シュタイン)

出版地 Frankfurt am Main (フランクフルト・アム・マイン  
／ドイツ)

出版社・発行者 Insel (インゼル)

発行・刊行年 1994 年

巻号 1

頁数 269 頁

序文・解説の内容と概略

本書は、ミヒャエル・シュタインによる『とりかへばや物語』

のドイツ語訳である。本体は紫色のハードカバー。表紙カバーは、Hermann Michels に（ヘルマン・ミヒェルス）による。濃いピンクの背景に男女一對の童人形の写真を掲載。下辺部に出版社名「Insel」とその意味の「島」とを丸抜きで記す。内容は、解説（5～15 頁）、巻 1（19～81 頁）、巻 2（83～120 頁）、巻 3（121～193 頁）、巻 4（195～261 頁）、注（263～267 頁）、翻訳者による後記（269～270 頁）からなる。解説では、『無名草子』での記述や『とりかへばや物語』の評価が低かったことなどに触れる。

**翻訳に用いた底本情報** 底本は、鈴木弘道著『とりかへばや物語の研究』（笠間書店、1973 年）による。

### **翻訳内容の構成、章立**

翻訳に際して、各主要登場人物を「Susukinoho」（女大将）、「Surigoromo」（男尚侍）、「Tsukikusa」（宮の宰相）とする。1979 年版に比べ、主語を補う（ ）を省き、読みやすくしている。また和歌もローマ字表記は割愛して煩雑さを避ける。ドイツ語訳のみを 1 行あけて 5 行書きにし、語句など多少の修正を行っている。なお、巻の分け方は、三谷栄一・今井源衛編『堤中納言物語・とりかへばや物語』（角川書店、1976 年）に従う。

**図版、挿絵の有無** -

**参考文献の有無** -

**索引の有無** -

**メモ**

注では、笛の説明や陰陽思想の解説の他、主に本文中の引歌の出典とその和歌のドイツ語訳を付すのみに留めている。

# 今昔物語集

## *Konjaku: Altjapanische Geschichten aus dem Volk zur Heian-Zeit*

(今昔：平安時代の人々に由来する古代日本の物語集)

翻訳者 Satoshi Tsukakoshi (塚越敏)

出版地 Zürich (チューリッヒ／スイス)

出版社・発行者 Max Niehans Verlag (マックス・ニーハンス  
出版社)

発行・刊行年 1956 年

巻号 1

頁数 243 頁

### 序文・解説の内容と概略

塚越敏による『今昔物語集』のドイツ訳、初版。副題は、「平安時代の人々に由来する古代日本の物語集」の意である。日本語タイトルの書は堀桂琴による。巻末に翻訳者自身による解説(237～238頁)がある。撰者とする説のある源隆国の人となりについて解説し、『今昔物語集』の美が自然であり、隆国が人々の真実の生活をリアルに力強く描写することに成功している、と評価する。ただし、源隆国が撰者とする説(国学者の井澤長秀著『考訂今昔物語』が出典、現在では否定説が有力)は仮説であることを補足する。大学の同僚、長野嘗一の功績についても触れる。

### 翻訳に用いた底本情報 ー

### 翻訳内容の構成、章立

本文(9～234頁)は『今昔物語集』の抄訳。本朝部より42話を抜粋。収録話及び収録順は以下の通り。

巻 25：11 話、巻 22：7 ～ 8 話、巻 23：15 話・19 話、  
巻 24：5 話・13 話・23 話・21 話・50 話、  
巻 25：5 話・12 話、巻 26：3 話・5 話・19 話・21 話、  
巻 27：24 話・41 話、巻 28：1 ～ 2 話・18 話・31 話・38  
話・42 話・44 話、巻 29：4 話・9 話・10 話・12 ～ 13 話・  
17 話・23 話・25 ～ 26 話・32 話、巻 31：22 話、  
巻 29：35 話・37 話、巻 23：16 話、巻 30：5 話・8 話、  
巻 31：33 話

また、注に準じる「個人的な書き込み」(239 ～ 243 頁)と  
称するメモを付す。

**図版、挿絵の有無** 挿絵を 10 枚挿入する。

**参考文献の有無** ー

**索引の有無** ー

**メモ**

翻訳者の塚越敏はドイツ文学者。リルケの研究・翻訳のほか、ルー・アンドレアス・ザロメやニーチェも翻訳する。慶応義塾大学名誉教授・日本翻訳家協会理事。著書に芸術選奨文部大臣賞を受賞した『リルケとヴァレリー』（青土社、1994 年）。同出版社で井原西鶴の *Koshokumono*（『好色一代女』），1957 の翻訳も手がける。塚越の専門はリルケを中心としたドイツ語圏文学である。

## *Erzählungen des alten Japan: Aus dem Konjaku-Monogatari*

(古い日本の物語：『今昔物語』)

翻訳者 Ingrid Schuster (イングリット・シュースター)、  
Klaus Müller (クラウス・ミュラー)

出版地 Stuttgart (シュトゥットガルト／ドイツ)

出版社・発行者 Reclam (レクラム)

発行・刊行年 1979 年 ※初版は 1965 年

巻号 1

頁数 80 頁

### 序文・解説の内容と概略

翻訳者シュースターとミュラーによる『今昔物語集』のドイツ語訳。編集者の Horst Hammitzsch (ホルスト・ハミツチュ) による解説 (3～9 頁) では、説話物語といわれる形式が日本に特有の文学形態であり、それが伝説・おとぎ話・奇談の口承伝承から収集された点で重要であると指摘する。

**翻訳に用いた底本情報** 「発音及び翻訳の注記」の項に、山田孝雄・山田忠雄・山田俊雄・山田英雄校注『日本古典文学大系 22～26 今昔物語集 1～5』(岩波書店、1959～1963 年) を底本にしたとある。

### 翻訳内容の構成、章立

本文 (11～68 頁) は『今昔物語集』抄訳。本朝部より 23 話を抜粋。巻 20：11 話・18 話、巻 22：4 話、巻 23：18 話、巻 24：9 話、巻 25：2 話、巻 26：10 話、巻 27：8 話・16 話、巻 28：20 話、巻 29：11 話・38 話、巻 30：13 話、以上 13 話をシュースターが担当。

巻 17：26 話、巻 20：15 話、巻 23：17 話、巻 24：57 話、巻 27：15 話・44 話、巻 28：28 話・33 話、巻 29：36 話、

巻 30：11 話、以上 10 話をミュラーが担当。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 参考図書年譜（78 頁）

索引の有無 —

メモ

巻末に注釈（69～76 頁）、発音及び翻訳の注記（77 頁）、参考図書年譜（78 頁）、目次（79～80 頁）を付す。  
編集者ハミツチュ、翻訳者シュースターには *Japanische Volksmärchen*, Fritz Rumpf und Ingrid Schuster, Diederichs, 1964（フリッツ・ルンプフとの共著）がある。

## 古 今 和 歌 集

---

### *Die vier Jahreszeiten: Gedichte aus dem Kokin Wakashū*

---

（四季：『古今和歌集』からの歌）

翻訳者 Peter Ackermann（ペーター・アッカーマン）、

Angelika Kretschmer（アンゲーリカ・クレッチマー）

出版地 Frankfurt am Main（フランクフルト・アム・マイン  
／ドイツ）

出版社・発行者 Insel（インゼル）

発行・刊行年 2000 年

巻号 1

頁数 264 頁

## 序文・解説の内容と概略

『古今和歌集』のドイツ語訳（初版）。表紙に見える「島」の文字は、出版社名「Insel」の邦訳である。カバー袖の文章及び序文は『古今和歌集』についての概説。序文（7～10頁）では、和歌の構造（たとえば5－7－5－7－7といった）の紹介もある。

## 翻訳に用いた底本情報 —

### 翻訳内容の構成、章立

本文（11～197頁）は『古今和歌集』のなかで四季を詠んだ和歌342首のドイツ語訳。巻末に和歌の注釈及びコメント（199～239頁）、歌人の伝記的事項（240～246頁）、あとがき（247～264頁）が付く。あとがきは「『古今和歌集』の構造と内容」、「『古今和歌集』の詩的動向」、「『古今和歌集』の構成」、「『古今和歌集』の文化的背景」、「『古今和歌集』の伝統」、そしてまとめとして「『古今和歌集』の四季の詩」という6つの観点から記す。

## 図版、挿絵の有無 —

**参考文献の有無** 窪田空穂著『古今和歌集評釈 上巻』（東京堂出版、1960年）を、1976年に新しく出版したものを参考書に掲げる。

## 索引の有無 —

**メモ** 翻訳者アッカーマンはスイス、ベルン生まれ。元エアランゲン・ニュルンベルク大学日本学科教授。和楽に関する造詣が深い。組唄についての著作がある。インゼル社は1899年創業のドイツの老舗出版社である。



# 枕草子

## *Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon*

(女房清少納言の『枕草子』)

翻訳者 Mamoru Watanabé (渡辺護)

出版地 Zürich (チューリッヒ／スイス)

出版社・発行者 Manesse (マネッセ)

発行・刊行年 1952 年

巻号 1

頁数 307 頁

### 序文・解説の内容と概略

渡辺護による『枕草子』のドイツ語訳であり、Manesse Bibliothek der Weltliteratur (マネッセ世界文学文庫) シリーズの 1 冊である。本体は紺色のハードカバー。表紙カバーは、黄色を基調とし、岩田正巳による平安時代の女性を描いた絵を上部に配す。表紙見返しには『枕草子』や清少納言の紹介を載せる。解説(7～22 頁)では、跋文の部分から書き起こし、『枕草子』の位置づけから清少納言の略歴や中宮定子との関係、平安時代の概要などについて触れる。

### 翻訳に用いた底本情報 ー

### 翻訳内容の構成、章立

内容は、翻訳者による解説(7～22 頁)、翻訳(25～299 頁)、挿絵について(300～303 頁)、注(304～307 頁)からなり、巻末に目次を付す。翻訳では、初段「春は曙」から始まり 135 段分を訳す。ヨーロッパ人に馴染みがなく、理解しにくい内容の章段は割愛する。また、類従的章段において事項を列挙する場合、改行 1 字下げをするなど工夫がみ

られる。

## 図版、挿絵の有無

表紙カバーと同じ絵を、モノクロの挿絵としても掲載する(24 頁)。解説の最後では、本文中の挿絵について、岩田正巳が本書のために製作したものである旨を述べる。内容に即した絵というよりは、当時の人々の生活の雰囲気を感じ取るものとして、人物の他に硯や薬玉、火桶なども余白に挿入する。

## 参考文献の有無 —

## 索引の有無 —

**メモ** 巻末の挿絵の説明(300～303 頁)では、岩田正巳の略歴に触れ、近代大和絵を確立した松岡映丘に師事し、藤原氏の宮廷社会や鎌倉武士の世界をテーマとして据えたと紹介する。

---

## *Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon*

---

(清少納言の『枕草子』)

**翻訳者** Helmut Bode (ヘルムート・ボーデ)

**出版地** Frankfurt am Main (フランクフルト・アム・マイン  
／ドイツ)

**出版社・発行者** Insel (インゼル)

**発行・刊行年** 1975 年

**巻号** 1

**頁数** 115 頁

**序文・解説の内容と概略** —

**翻訳に用いた底本情報** —

## 翻訳内容の構成、章立

1944年にミュンヘンの Ernst Heimeran (エルンスト・ハイメラン) 社から出版したものを、フランクフルトのインゼル社より、Insel-Bücherei 998 として 1975 年に出版した。ハードカバーである。

内容は、本文 (7～103 頁)、翻訳者による後記 (104～109 頁)、香廬峰の段 (110 頁)、挿絵についての覚書 (111～112 頁)、参考文献紹介 (113 頁)、目次 (115～116 頁)。訳された章段は 53 段分。章段は翻訳者が取捨選択し、自由に配置する。例えば、本書は「宮にはじめて参りたるころ」から始まる。「清涼殿の丑寅の隅の」は、「Blühende Kirschzweige und Gedichte (咲き誇る桜の枝と和歌)」 「Die kluge Prinzessin (賢い姫君)」と内容により二分され、「社は」では、「Der Aritoshi-Schrein」と題し、社を列挙する部分は省いて「蟻通し明神」の部分のみを訳す。また、後記の後に香廬峰の段を置く。章段全文を訳した後、出典の漢詩をドイツ語に翻訳し、翻訳者の評言を付す形でまとめる。後記では、清少納言の略歴、同時代の女流歌人のこと、『紫式部日記』の清少納言評などに触れる。

## 図版、挿絵の有無

挿絵についての覚書は、Irmtraud Schaarschmidt-Richter (イルムトウラウト・シャルシュミット＝リヒター) による。本書の挿絵は『西本願寺本三十六人家集』の下絵から写し取った菊・藤・松・柳などの植物であることを述べ、日本の装飾紙にも言及する。

**参考文献の有無** 参考文献紹介 (113 頁)

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は黄緑色で南瓜らしき模様をあしらう。

## ***Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon***

(清少納言の『枕草子』)

**翻訳者** Helmut Bode (ヘルムート・ボーデ)

**出版地** Zürich (チューリッヒ／スイス)

**出版社・発行者** Pendo (ペンド)

**発行・刊行年** 1984 年

**巻号** 1

**頁数** 123 頁

**序文・解説の内容と概略** —

**翻訳に用いた底本情報** —

**翻訳内容の構成、章立**

『枕草子』のドイツ語訳である。1961 年にミュンヘンの Heimeran (ハイメラン) 社から出版したものを、1984 年にスイスのペンド社から再版した。ちなみに、1961 年のハイメラン社版は、1944 年同社出版の新装版であると思われる。ハードカバーで、内容は 1975 年版と同じである。ただし、頁の組み方が異なる。そのため、巻末にあった Irmtraud Schaarschmidt-Richter (イルムトウラウト・シャルシュミット＝リヒター) の覚書は省略している。また、収録する章段数は同じだが、1975 年版とは順序が入れ替わっている箇所がある。

**図版、挿絵の有無** 1975 年版とは挿絵が異なる。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は鈴木春信『座鋪八景 あんとうの夕照』で、背景はピンク色に加工している。裏表紙には、「随筆」というジャンルと清少納言についての説明を載せる。

# 土左日記

---

## *Elegische Heimreise: Ein japanisches Tagebuch aus dem Jahre 935*

---

(悲しき帰郷の旅：935 年からの日本の日記)

翻訳者 Peter Olbricht (ペーター・オルブリヒト)

出版地 Frankfurt am Main (フランクフルト・アム・マイン  
／ドイツ)

出版社・発行者 Insel Verlag (インゼル出版社)

発行・刊行年 2001 年

巻号 1

頁数 61 頁

序文・解説の内容と概略 翻訳者オルブリヒトによる解説（5  
～9 頁）では、紀貫之その人を中心に、定型詩としての和歌  
の略説などを行う。

翻訳に用いた底本情報 ー

翻訳内容の構成、章立

オルブリヒトによる『土左日記』のドイツ語訳である。ハードカバー。奥付の頁に、原題として *Tosa no niki* とある。本書は同シリーズ Nr.1222 である。

奥付、オルブリヒトによる本編（12～52 頁）、Irmela Hijiya-Kirschner (イルメラ・日地谷＝キルシュネライト) による跋文（53～61 頁）、さらなる手引き（I. H.-K と署名）からなる。

本編の和歌は、5 行書きで訳したものが多く、3 行、4 行などもみえる。跋文では作者紀貫之にふれたのち、「真実の旅行記か？ 架空の日記か？」、「散文と抒情詩」、「女性らし

さと男性らしさ」について立項する。日本文学における「私」を語る文学の文脈のなかに『土左日記』を置く。

**図版、挿絵の有無** 挿絵は見開きで2葉（10～11、32～33頁）。由井、奥津などの浜を描いた日本画。印刷はモノクロ。

**参考文献の有無** さらなる手引きと題された末尾の文章は、『土左日記』に関する関連文献（テキストならびに参考文献）の紹介。

**索引の有無** ー

**メモ**

表紙及び裏表紙には、花を咲かせる植物の図柄を用いる。確認した本には栞が挟まれており、本書の内容紹介、同シリーズから刊行されている書籍6種の紹介を印刷する。日地谷＝キルシュネライトは元ドイツ日本研究所所長である。研究者、翻訳者。専門は日本近現代文学、著書に『私小説自己暴露の儀式』（平凡社、1992年）がある。

# 蜻蛉日記

---

## *Kagerô-Nikki: Tagebuch einer japanischen Edelfrau ums Jahr 980*

---

(蜻蛉日記：980年頃の日本貴族女性の日記)

翻訳者 Satoshi Tsukakoshi (塚越敏)

出版地 Zürich (チューリッヒ／スイス)

出版社・発行者 Max Niehans (マックス・ニーハンス)

発行・刊行年 1955年

巻号 1

頁数 301頁

### 序文・解説の内容と概略

解説は、まず翻訳者の塚越敏・今泉忠義・ニーハンスの3人により、本書全体について、当時の京都の歴史的背景、貴族の生活、権門藤原氏のこと、宗教、結婚制度、写本のことを概略する。その中で『蜻蛉日記』作者は、自身を「かげろふ」と呼んでいたとし、現在一般的にいわれる「藤原道綱母」、「藤原倫寧女」という呼称の言及はない。

**翻訳に用いた底本情報** 喜多義勇校訂『岩波文庫 蜻蛉日記』(岩波書店、1942年)、喜多義勇校註『日本古典全書 蜻蛉日記』(朝日新聞社、1949年)

### 翻訳内容の構成、章立

本書は、塚越による『蜻蛉日記』のドイツ語訳である。ハードカバー。共同作業者として今泉、ニーハンスの名があり、Niehansが和歌のドイツ訳表現を担当する。

内容は、第1部(5～84頁)、第2部(85～180頁)、第3部(181～275頁)、解説(277～301頁)からなる。

本文は Es war einmal eine Frau (= Once upon a time there was a woman) ～ と昔話の口調で始まって適当に段落を切り、大段落の第一字は物語風に 2 行どりとした読みやすいドイツ語で、しかも努めて正確な訳を心がける。和歌は各行の音節数を 5－7－5－7－7 とした 5 行（長歌は 5－7 の繰返し）とし、人名・地名や修辞・風習・制度その他に関する事項については、かなり詳しい注を末尾に付す。

**図版、挿絵の有無** 大内裏、御所の図を掲載。最後に挿絵の解説をする。挿絵は、長谷章久が『年中行事絵巻』、『石山寺縁起絵巻』、『春日権現験記絵』などから撮影したものを 10 枚挿入する。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙には男性貴族の絵を用いる。本体は黒で、金文字で「かけるふの日記」と右上部に記す。表紙見返しには作品の内容紹介と初のドイツ語訳である旨を述べる。翻訳の協力者である今泉忠義は、愛知県生まれ。1923 年國學院大学文学部卒業、國學院大学名誉教授。著書に『源氏物語語法編』（桜楓社）などがある。長谷章久は東京生まれ。東京大学大学院修了後、埼玉大学教授を経て放送大学教授に就任した。日本風土文学会会長を務めた。



---

## ***Kagerô-Nikki: Tagebuch einer japanischen Edelfrau ums Jahr 980***

---

(かげろうの日記：980 年頃の日本貴族女性の日記)

**翻訳者** Satoshi Tsukakoshi (塚越敏)

**出版地** Frankfurt am Main、Berlin、Wien (フランクフルト・アム・マイン／ドイツ、ベルリン／ドイツ、ウィーン／オーストリア)

**出版社・発行者** Ullstein Taschenbuch (ウルシュタイン・タッシェンブーフ)

**発行・刊行年** 1981 年

**巻号** 1

**頁数** 294 頁

**序文・解説の内容と概略** —

**翻訳に用いた底本情報** 喜多義勇校訂『岩波文庫 蜻蛉日記』(岩波書店、1942 年)、喜多義勇校註『日本古典全書 蜻蛉日記』(朝日新聞社、1949 年)

### **翻訳内容の構成、章立**

塚越敏による『蜻蛉日記』のドイツ語訳。ペーパーバック。1955 年に Max Niehans (マックス・ニーハンス) 社から出版されたものを 1981 年に Ullstein Buch Nr. 30115 として再版したものである。Ursula Schröder 編 Die Frau in der Literatur の 1 冊として収録。翻訳者の他に、共同作業者として今泉忠義、マックス・ニーハンスの名があり、ニーハンスが和歌のドイツ訳表現を担当する。

内容は、第 1 部 (5～84 頁)、第 2 部 (85～180 頁)、第 3 部 (181～275 頁)、解説 (277～301 頁) からなる。

1955 年版と同じく、本文は Es war einmal eine Frau (=

Once upon a time there was a woman) ～ と昔話の口調で始まって適当に段落を切り、大段落の第一字は物語風に 2 行どりとした読みやすいドイツ語で、しかも努めて正確な訳を心がける。和歌は各行の音節数を 5－7－5－7－7 とした 5 行（長歌は 5－7 の繰返し）とし、人名・地名や修辞・風習・制度その他に関する事項については、かなり詳しい注を末尾に付す。

**図版、挿絵の有無** ー

**参考文献の有無** ー

**索引の有無** ー

**メモ** 表紙は鳥居清長による『東風俗略十種香』である。裏表紙の内容紹介では、自身を「Kagerô」と名づけたと記述があるものの、内題では「Fujiwara-mo 〈ママ〉 Michitsuna no haha」とする。

# 和泉式部日記

---

## *Erklärung des Tagebuches Idzmi-Siki-Bu*

---

(『和泉式部日記』の説明)

翻訳者 August Pfizmaier (アウグスト・プフィッツマイアー)

出版地 Wien (ウィーン／オーストリア)

出版社・発行者 Carl Gerold's Sohn (カール・ゲーロルド・ゾーン)

発行・刊行年 1885 年

巻号 1

頁数 98 頁

**序文・解説の内容と概略** 『和泉式部日記』のドイツ訳。本文に先立つ1頁弱の解説(見出しは立てない)で作者と伝来についてごく簡単に述べる。

**翻訳に用いた底本情報** 『扶桑拾葉集』の写本(詳細は不明)。

### **翻訳内容の構成、章立**

本文は原文を細かく段落に分け(和歌は1首で1段落とする)、段落ごとに原文(漢字交じり片仮名文を頁の進行と直角に短い縦書に組む)とその読み(ドイツ語式ローマ字)そして訳文を記す。主人公は一人称(ich)とし、和歌は極力句の順を守った5行。枕詞や修辞、風習などについて、いくつか脚注で説いたものがある。なお、本文は末尾近く(鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基校注『日本古典文学大系 20 土左日記・かげろふ日記・和泉式部日記・更級日記』(岩波書店、1957年)の「シハシカシコニアラン〜クルシウ覚エ玉フランニトノ給ニ」(445頁中程)までで、訳者はその後に、そこに帥宮と東宮妃との交渉の一部始終が短く説かれていたと

の推測を付記している。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 翻訳者はオーストリア帝室科学アカデミー会員で、日本古典について多数の翻訳と研究がある。出版社はアカデミーの委託を受けたもの。

---

### *Das Tagebuch der Izumi Shikibu*

---

(和泉式部の日記)

翻訳者 Oscar Benl (オスカー・ベーネル)

出版地 München (ミュンヘン／ドイツ)

出版社・発行者 Nymphenburger Verlagshandlung (ニンフェンブルク出版社)

発行・刊行年 1965 年

巻号 1

頁数 『和泉式部日記』は 73 頁(28～100 頁)。総頁数は 454 頁。

序文・解説の内容と概略

*Der Kirschblütenweig: Japanische Liebesgeschichten aus tausend Jahren* に所収。ドイツ語訳で収録されている文学や作家を紹介する序文がある。和泉式部は大胆ながら内気で傷つきやすく、『和泉式部日記』は「いつまでも満たされがたい憧憬の哀歌のよう」(「wie ein Klagelied kaum je gestillter Sehnsucht」、9 頁) だとする。

翻訳に用いた底本情報 —

翻訳内容の構成、章立 62 段に分けられている。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

この本は国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の UNESCO-Sammlung repräsentativer Werke: Japanische Reihe（ユネスコ代表的作品集：日本叢書）に収録したもの。また、1 回限りの特別版として 19 の出版社が協力して作った叢書 Die Bücher der Neunzehn（19 の本）の第 132 巻でもある。1982 年にも同じ出版社から刊行された。翻訳の後に注解と図版リストがある。

## 更 級 日 記

---

### *Sarashina-nikki: Tagebuch einer japanischen Hofdame aus dem Jahre 1060*

---

（『更級日記』：1060 年の日本の女官の日記）

翻訳者 Ulrich Kemper（ウルリヒ・ケンパー）

出版地 Stuttgart（シュトゥットガルト／ドイツ）

出版社・発行者 Reclam（レクラム）

発行・刊行年 1966 年

巻号 1

頁数 87 頁

序文・解説の内容と概略 ケンパーによる『更級日記』のドイツ語訳である。本書は、Reclam Universal-Bibliothek（レクラム世界叢書）の 1 冊で、8996 番。序文（3～10 頁）は

翻訳者自身による。

### 翻訳に用いた底本情報

翻訳に関しては、鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・更級日記』（岩波書店、1957 年）、玉井幸助校注『日本古典全書 更級日記』（朝日新聞社、出版年不明）、Annie Shepley Omori（大森安仁子）と Kochi Doi（土居光知）による『更級日記』、『紫式部日記』、『和泉式部日記』の英訳 (*Diaries of court ladies of old Japan*, Houghton Mifflin, 1920) を参考にしたとある。

**翻訳内容の構成、章立** 本文（13～85 頁）は全訳。和歌は 5 行書き。「むらさき草について」など日本独自の植物や文化・人物名などに関する詳細な脚注がある。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 底本に使用した本とともに、アストン、フローレンツ、グンデルトによるその他の日本文学史 5 点をあげている。

**索引の有無** —

**メモ** 翻訳者のケンパーは本書のほか、天台宗、俳句、『新古今和歌集』、茶道などの翻訳・研究書も出版している。

# 増基法師集

---

## *Zôki: Schilderung der Reise nach Kumano*

---

(増基：熊野への旅の叙述)

翻訳者 Emiko Araki、Rudi Henning (ルディ・ヘニング)

出版地 Bochum (ボーフム／ドイツ)

出版社・発行者 Studienverlag Dr. Norbert Brockmeyer (研究  
出版社ドクター・ノルベルト・ブロックマイヤー)

発行・刊行年 1986 年

巻号 1

頁数 『増基法師集』 19 頁 (287 ~ 305 頁)。

序文・解説の内容と概略 *Bochumer Jahrbuch zur*

*Ostasienforschung* 9 巻に所収する。主に作者と成立に触れる序文がある。

### 翻訳に用いた底本情報

『群書類従 第 18 輯 日記部 紀行部』(続群書類従完成会、1928 年) 348 ~ 360 頁の他に、岸上質軒編校訂『続帝国文庫 第 37 編 紀行文集 続々』(博文館、1901 年) 41 ~ 48 頁も使用した(後者には「熊野紀行」のみ掲載されている)。

翻訳内容の構成、章立 『熊野紀行日記』の翻訳 (291 ~ 298 頁)。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 有

索引の有無 —

メモ 数多くの注解がある (298 ~ 304 頁)。日記ともされる作品である。翻訳者は主人公に三人称を使う。

# ロシア語

Russian





# 竹 取 物 語

## *Две старинные японские повести*

英語文字表記：Dve starinnye iaponskie povest'

(古代日本の物語 2 作)

**翻訳者** Вера Маркова (Vera Markova / ヴェーラ・マルコワ)

**出版地** Мос к в а (Moskva / モスクワ / ロシア)

**出版社・発行者** Художественная литература  
(Khudozhestvennaia literatura / フドージェストヴェンナヤ・リテラトゥーラ)

**発行・刊行年** 1976 年 ※初版は 1962 年

**巻号** 1

**頁数** 348 頁

### 序文・解説の内容と概略

解説・あとがき (315 ～ 337 頁) は翻訳者自身による。解説では、『落窪物語』の作者源順説、マルコ・ポーロ、奈良・平安時代の説明、平安の女流歌人・作家として小野小町、清少納言、紫式部、和泉式部をあげる。

### 翻訳に用いた底本情報 ー

### 翻訳内容の構成、章立

『竹取物語』、『落窪物語』のロシア語訳。翻訳は、日本語からの直訳であることを最後に強調する。

『竹取物語』の本文の題名は、「Povest' O Starike Taketori (竹取老人の物語)」。10 章 (7 ～ 54 頁) に分ける。

- 1 「まるで奇跡のように誕生したかぐや姫」
- 2 「高貴な求婚者たちの求婚」

- 3 「仏の石の鉢」
- 4 「蓬萊のふもとの真珠の小枝」
- 5 「火鼠の毛の衣」
- 6 「竜の高価な宝石」
- 7 「燕の効き目のある（健康によい）貝」
- 8 「帝の求婚」
- 9 「天からの鳥の羽の衣」
- 10 「不死の山—富士」

7 は「Kauri（子安貝）」という単語をあえて使わずに、「健康によい貝」と訳出する。

『落窪物語』は章立てがなく、巻1～4に分ける（55～314頁）。巻3の中納言の七十の賀の最後の和歌「八十坂を越えよと伐れる杖なれば…」だけを太字で示し、「杖」を「Dorozhnyi posokh（旅のための長い杖）」と訳す。『竹取物語』、『落窪物語』も和歌は5行書き。『竹取物語』の和歌では、「ないし」と「石」、「鉢」と「血」等の掛詞にも注意を払って訳す。巻末に『竹取物語』、『落窪物語』の注を載せる（338～348頁）。

**図版、挿絵の有無** 挿絵は2枚。ひとつは『竹取物語』から竹かごの中のかぐや姫を取り出す翁と嫗の姿。2つ目は『落窪物語』から落窪の君。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙・挿絵は、N. Krylov による。表紙は落窪の君、裏表紙は道頼である。扉絵は『落窪物語』の落窪の君と道頼が寄り添う姿。翻訳者マルコフは本書の他、『西行』（ギペリオン、1997）、松尾芭蕉『奥の細道』（Kristall、1999）の直訳、『日本日本民話集』（Seriia Chereda、1994）などを翻訳。出版

社フドーjestヴェンナヤ・リテラトゥーラは、本書の他、  
開高健『日本三文オペラ』（初版 1959 年）のロシア語訳（1971  
年）を出版している。

（カーシャ・ガンデルスカ）

## 竹 取 物 語 ・ 落 窪 物 語 ・ と は ず が た り

### *Повесть о прекрасной Отикубо старинные японские повести*

英語文字表記：Povest' o prekrasnoi Otikubo: Starinnye iaponskie  
povesti

（素晴らしい落窪についての物語：古代日本の物語）

翻訳者 Вера Маркова（Vera Markova／ヴェー  
ラ・マルコワ）、И. Львова（I. L'vova／I・リヴォ  
ワ）、Александр Аркадьевич Долин（Aleksandr  
Arkad'evich Dolin／アレクサンドル・アルカディエヴィチ・  
ドーリン）

出版地 М о с к в а（Moskva／モスクワ／ロシア）

出版社・発行者 Художественная литература  
（Khudozhestvennaia literatura／フドーjestヴェンナヤ・  
リテラトゥーラ）

発行・刊行年 1988 年

巻号 1

頁数 492 頁

## 序文・解説の内容と概略

序文（5～20頁）では、物語文学の歴史や成立について述べ、『竹取物語』、『落窪物語』の素材となった伝説を概略的に紹介する。『竹取物語』、『落窪物語』を「日本最初の小説」と位置づける。さらに『落窪物語』をより詳しく紹介する。「落窪」という名の意味をロシア語で「衣装の汚い人」と訳し、内容はグリム兄弟の『シンデレラ』やペローの『ロバの皮』という童話に相当すると述べる。『落窪物語』が頻繁に読まれていた時期には、世界初の長編小説『源氏物語』があり、その人気は「セルバンテスの『ドン・キホーテ』と同じように現代まで変わらずに続いている」とも指摘する。続いて、11世紀までの優れた物語作品の成立を論じ、4世紀まで遡り、日本の歴史や日本文学史についても触れる。また、『落窪物語』、『竹取物語』を『源氏物語』、『宇津保物語』と比較し、平安朝物語の概略を論じる。

## 翻訳に用いた底本情報 ー

### 翻訳内容の構成、章立

本書は、第1部と第2部に分かれる。第1部は、マルコワによる『落窪物語』、『竹取物語』のロシア語訳。翻訳部分は『竹取物語』（21～56頁）、『落窪物語』（57～245頁）である。和歌は5行書き。第2部は、リヴォワ（本文訳・解説）とドーリン（和歌の訳）による『とはずがたり』のロシア語訳。『とはずがたり』を「日記」ではなく、「小説」と規定し、当時の文学史上における位置づけをする。『とはずがたり』の内容と作者である二条の人生との関連性も紹介する。翻訳部分は『とはずがたり』（253～468頁）である。和歌は5行書き。

## 図版、挿絵の有無 ー

## 参考文献の有無 ー

## 索引の有無 —

メモ Biblioteka Iaponskoi Literatury (日本文学文庫) シリーズの1冊。翻訳者リヴォフは、本書のほか、同じ出版社から *Povest' o dome Taira* (『平家物語』), 1982 などを翻訳。

## 宇津保物語

Повесть о дупле (Уцухо-моногатари)

英語文字表記: Povest' o duple (Utsuho-monogatari)

(空洞についての物語 (ウツホーモノガタリ))

翻訳者 Владислав Ираклиевич Сисаури (Vladislav Iraklievich Sisauri / ウラジスラフ・イラクリエヴィチ・シサウリ)

出版地 Москва, Санкт-Петербург (Moskva, Sankt-Peterburg / モスクワ及びサンクト・ペテルブルク / ロシア)

## 出版社・発行者

モスクワ: Издательство «Наталис» (出版社「ナタリス」)、Издательство «Риполклассик» (出版社「リポル・クラシック」)、Санкт-Петербург: Издательство «Петербургское востоковедение» (出版社「ペテルブルグの東洋学」)

発行・刊行年 2004 年

巻号 1、2

頁数 1 巻は 511 頁。2 巻は 509 頁。

## 序文・解説の内容と概略

最初に『宇津保物語』、10世紀の文学の記念碑的作品」と題する、翻訳者シサウリによる序文がある。それは「製作時期。作品のジャンル」、「宗教的・哲学的小説。仏教的天国の音楽のテーマ」、「迷いと煩悩の世界」、「文学作品としての小説の起源」、「作者の問題」、「小説が形成される段階。その文体」というセクションからなる。

注目される記述を挙げると、まず「日本の研究者は本物語が、音楽と結びついている俊蔭・仲忠の第1の話、正頼・貴宮及び美しい女性をめぐる恋のエピソードの第2の話からなっている。しかし、作者はこの2つを納得できるような形で統合させることに成功していないと考えている。その上、2つのうちどちらが主要な話なのかについて意見が分かれている」ことに対して、翻訳者シサウリは「日本の研究者は、仲忠が菩薩であり、本作品が彼の偉業の話として展開している事実を重視していないように思われる」と述べている。

最も興味深い人物のひとりとして、シサウリは三春高基を挙げる。ヨーロッパ文学でも吝嗇な人物は、ギリシャ・ローマ文学に遡ることのできる、よく見られる人物だという。ただ、ヨーロッパ文学では吝嗇な人物は老人であるのに対し、高基は若くて賢く、勇ましくもあり、大臣にもなる優れた行政官でもある、という相違点を指摘している。

仲忠が蛇に遭遇する場面に、河野多麻が中国の話との類似を見出しているのに対し、シサウリはインドの叙事詩『マハーバーラタ』からの影響を考えている。『マハーバーラタ』のビーマセーナが大蛇に捕らえられた時、大蛇に兄弟や母の話をしたように、仲忠も熊に母の話をして同情心を起こそうとしたのである。また『宇津保物語』には、仏像を作るために琴を

壊そうとしても壊れず、突然雷が鳴り雨も降り出して、琴が空に消えて行くという場面がある。『マハーバーラタ』でもガトートカチャを殺したカルマの槍が空に消えるし、ラーヴァナとの戦いに勝利したラーマが乗っている馬車も空に消えるのである。

結論としてシサウリは、作品の主要な思想の深さ、社会生活の描写の広さの点で、この物語は東洋のみならず世界の中世文学の著名な作品と肩を並べることができると評価する。構成の不備や文体の不統一といった欠点はある。しかし、それは作者が、当時の文学の様々な文体を初めて統合し、筋を叙述する長編の物語という全く新しいジャンルを創出したことに起因するのである。

### 翻訳に用いた底本情報

河野多麻校注『日本古典文学大系 10～12 宇津保物語』（岩波書店、1961～1962年）を底本とし、宮田和一郎校注『日本古典全書 宇津保物語』全5巻（朝日新聞社、1954～1965年）も参照した。

### 翻訳内容の構成、章立

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 巻： 第Ⅰ章「俊蔭」    | 第Ⅱ章「忠こそ」    |
| 第Ⅲ章「藤原の君」       | 第Ⅳ章「嵯峨院」    |
| 第Ⅴ章「梅の花笠」       | 第Ⅵ章「吹上（上）」  |
| 第Ⅶ章「吹上（下）」      | 第Ⅷ章「祭の使」    |
| 第Ⅸ章「菊の宴」        | 第Ⅹ章「あて宮」    |
| 第Ⅺ章「初秋」         |             |
| 2 巻： 第Ⅻ章「田鶴の群鳥」 | 第ⅩⅢ章「蔵開（上）」 |
| 第ⅩⅣ章「蔵開（中）」     | 第ⅩⅤ章「蔵開（下）」 |
| 第ⅩⅥ章「国譲（上）」     | 第ⅩⅦ章「国譲（中）」 |
| 第ⅩⅧ章「国譲（下）」     | 第ⅩⅨ章「樓上（上）」 |



第XX章「樓上（下）」

このように分けたのは専ら出版上の必要性である、と序文でことわっている。各章末に注を付した箇所の説明がある。

図版、挿絵の有無 扉に絵はあるが、挿絵はなし。

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ —

## 伊勢物語・方丈記

---

### *Исэ моногатари*

---

英語文字表記：Ise monogatari

(伊勢物語)

翻訳者 Николай Иосифович Конрад (Nikolai Iosifovich Konrad / ニコライ・イオシフォヴィチ・コンラッド)

出版地 Москва (Moskva / モスクワ / ロシア)

出版社・発行者 Наука (Nauka / ナウカ)

発行・刊行年 1979年 ※初版は1923年

巻号 1

頁数 286頁

序文・解説の内容と概略 『伊勢物語』、『方丈記』のロシア語訳。

まず「校訂」(5～38頁)と題して、翻訳における苦労と、『伊勢物語』、『方丈記』、『源氏物語』、『古今和歌集』等について述べる。

**翻訳に用いた底本情報** 窪田空穂著『評釋伊勢物語』(角川書店、1912 年)

### 翻訳内容の構成、章立

初版は 1923 年で、本版はその再版本。初版は『伊勢物語』のみの翻訳書である。本文は、

- 1 「『伊勢物語』」(39～172 頁)
  - 2 「追加 鴨長明『方丈記(草庵で生活する人の日記)』」(173～259 頁)
  - 3 「付録」(260～286 頁)
- に大別する。

1 の『伊勢物語』(39～128 頁)は、定家本と同じ 125 段の全段翻訳。

1 章(1 段)、2 章(2～14 段)、3 章(15 段・16 段)、4 章(17～21 段)、5 章(22～23 段)、6 章(24～38 段)、7 章(39 段・40 段)、8 章(41～56 段)、9 章(57～63 段)、10 章(64～66 段)、11 章(67～74 段)、12 章(75～84 段)、13 章(85～92 段)、14 章(93～105 段)、15 章(106～116 段)、16 章(117 段)、17 章(118～125 段)の 17 章に分ける。和歌は 5 行書き。本文全訳の後に、翻訳者自身による『伊勢物語』各段の注釈(129～155 頁)と伊勢についての論文(156～172 頁)がある。

2 の『方丈記』は、「序文」(173～207 頁)、「『方丈記』の翻訳」(208～230 頁)、「注釈」(231～237 頁)、「長明の作品」(238～259 頁)の順に章立て。「長明の作品」では、『方丈記』の世の無常観の思想が、『平家物語』や『源平盛衰記』に影響を与えていると述べる。

3 「付録」では、「本文解釈者 N. I. Konrad に関して」とあり、本書以前に出版された『伊勢物語』(ナウカ、1923)などを

挙げる。

図版、挿絵の有無 ー

参考文献の有無 ー

索引の有無 ー

メモ コンラッドは、レニングラード東洋専門学校に勤務し、  
ネフスキーと日露辞典の編纂に取り組んだ。

## 伊 勢 物 語

---

### *Исе моногатари. Японская лирическая повесть начала X века*

---

英語文字表記：Ise monogatari: Iaponskaia Liricheskaia

Povest' Nachala X Veka

(伊勢物語：10 世紀はじめの日本の抒情的物語)

翻訳者 Николай Иосифович Конрад (Nikolai  
Iosifovich Konrad / ニコライ・イオシフォヴィチ・コンラッ  
ド)

出版地 Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンク  
ト・ペテルブルグ / ロシア)

出版社・発行者 Наука (Nauka / ナウカ)

発行・刊行年 2000 年 ※初版は 1923 年

巻号 1

頁数 319 頁

序文・解説の内容と概略 『伊勢物語』のロシア語訳。5～28  
頁に序文がある。

**翻訳に用いた底本情報** 窪田空穂著『評釋伊勢物語』(角川書店、1912 年)

### **翻訳内容の構成、章立**

4 段、14 段、31 段、33 段、36 段、39 段、41 段、55 段、59 段、98 段を抜粋して再度掲載し、これらが 1923 年の初版本とは異なり、一部改訂されていることを示すこと (300 ～ 312 頁) と、後ろに章立ての目次があること (313 ～ 319 頁)。本文 (29 ～ 216 頁)、本文注 (217 ～ 251 頁)、『伊勢物語』についての翻訳者の論文 (252 ～ 299 頁) が掲載されている。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は挿絵と同じく I. G. Mosin による。江戸時代の浮世絵画。内題の左頁の人物絵は在原業平。Malaia Seriiia シリーズの 1 冊。本書の他、同シリーズには『枕草子』がある。

# 大和物語

---

## *Ямато-моногатари*

---

英語文字表記：Iamato-monogatari

(大和物語)

**翻訳者** Людмила Михайловна Ермакова (Liudmila Mikhailovna Ermakova / リュドミーラ・ミハイロヴナ・エルマコーワ)

**出版地** Москва (Moskva / モスクワ / ロシア)

**出版社・発行者** Наука (Nauka / ナウカ)

**発行・刊行年** 1982 年

**巻号** 1

**頁数** 230 頁

### 序文・解説の内容と概略

本書は、1「古代の文学作品としての『大和物語』」(9～96 頁)、2「『大和物語』の翻訳」(97～189 頁)、3「『大和物語』の注釈」(190～222 頁)、末尾に「登場人物索引」、英語で『大和物語』の要約(サマリ)を付す。1「古代の文学作品としての『大和物語』」は、さらに、「物語文学の成立の中の『大和物語』」「『大和物語』という韻文(歌物語)」「逸文との相互関係と本文の限界の問題」に分けて述べる。

**翻訳に用いた底本情報** 武田祐吉・水野駒雄著『大和物語詳解』(湯川弘文社、1936 年)、阪倉篤義・大津有一・阿部俊子・築島裕・今井源衛校注『日本古典文学大系 9 竹取物語・伊勢物語・大和物語』(岩波書店、1969 年) ※初版は 1957 年

**翻訳内容の構成、章立** 『大和物語』全 173 話のロシア語に翻訳したものである。和歌は 5 行書きで、ロシア語のローマ字

表記とロシア語の意味の和歌を併記している。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

翻訳者エルマコーワは、神戸市外国語大学教授である。本書のほか、『東洋古文献シリーズ 97 祝詞・宣命—ロシア語訳・注釈と研究』（ナウカ、1991）、『神々の言葉と人々の歌』（ナウカ、1995）、『日本古典文学シリーズ 古事記 中巻』（シャル、1995）、『日本古典文学シリーズ 日本書紀』巻1～16（ギペリオン、1997）、『日本の神の道』「倭姫命世紀」下巻（ギペリオン、2002）などのロシア語訳を多数出版している。

# とりかへばや物語

---

## *Торикаэбая моногатари, или Путаница*

---

英語文字表記：Torikaebaia monogatari, ili Putanitsa

(とりかへばや物語：あるいは取り違い)

翻訳者 Мария Торопыгина (Mariia Toropygina / マリア・トロピギナ)

出版地 Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンクト・ペテルブルグ / ロシア)

出版社・発行者 Гиперион (Giperion / ギペリオン)

発行・刊行年 2003 年

巻号 1

頁数 349 頁

**序文・解説の内容と概略** 解説は翻訳者自身による。「日本の歴史・文化の文脈における取り違い」と題して述べる。平安後期の物語、宇治・吉野の土地、『無名草子』についての概略を記す。

**翻訳に用いた底本情報** 大槻修・森下純昭・今井源衛・辛島正雄校注『新日本古典文学大系8 とりかへばや物語』（岩波書店、1992 年）※底本は陽明文庫本である。

**翻訳内容の構成、章立** 『とりかへばや物語』のロシア語訳

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 「日本古典文庫」の1冊。翻訳者のトロピギナは、『サンクト・ペテルブルグ大学 有栖川コレクション解説目録（ロシア語訳）』（勉誠出版、1998 年）も手がける。

# 大鏡

## ***О:кагами: великое зеркало***

英語文字表記：O:kagami: velikoe zertsalo

(『大鏡』：大きな鏡)

**翻訳者** Елена Михайловна Дьяконова (Elena Mikhailovna D'iakonova / エレーナ・ミハイロヴナ・ジャーコノワ)

**出版地** Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンクト・ペテルブルグ / ロシア)

**出版社・発行者** Гиперион (Giperion / ギペリオン)

**発行・刊行年** 2000 年

**巻号** 1

**頁数** 287 頁

### **序文・解説の内容と概略**

序文(5～34頁)は冒頭の解説は「オーカガミー大きな鏡。その(＝当時の)最も主要な活動家の伝記叙述に見る中世日本の歴史」と題し、「時代、作者、資料」、「諸本について」、「芸術作品としての『大鏡』」(「記念碑的構成」、「伝記叙述の諸型」、「歴史性と抒情性の相関」)の3節を立てる。「抒情性」とは主に物語的で特に和歌を含むことを言う)、「『大鏡』の世界」(「家と個人」、「個人の生涯、事態」、「空間」、「美術と神々」、「鏡像」、「時代」、「美意識」)の節を立て詳述)の章に分かって概説する。平安時代の文学作品『伊勢物語』、『大和物語』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』について触れる。

**翻訳に用いた底本情報** 松村博司校注『日本古典文学大系 21 大鏡』(岩波書店、1960 年)



## 翻訳内容の構成、章立

本文（37～188頁）は全文の翻訳。翻訳の底本には東松本を基にした日本古典文学大系本によったと解説末尾にある。しかし、実際にはH・マッカラの英訳（Helen Craig McCullough, *Okagami, the Great mirror: Fujiwara Michinaga (966-1027) and his times: a study and translation*, Princeton University Press / University of Tokyo Press, 1980）を参照したことが、巻1～6巻までの分け方という全く同じ章立てなどから明らかである。和歌は長短不定5行のロシア語訳を示すだけとしている。本文の後にまとめた注（189～262頁）は、マッカラ訳よりも細かく詳しい。

## 図版、挿絵の有無

末尾の「文献目録」と「付録」として「人名地名索引」、「歴代天皇在位年代及び年号一覧」、平安京図（一条、二条など、日本語をそのままキリル文字に当てはめたものがあり、その下に括弧書きでロシア語訳付）、大内裏図、内裏図とその説明を付すのも底本である大系本によるものである。大内裏図には56ヶ所、内裏図には44ヶ所の門の名称を掲載している。英文抄録（282～285頁）も添えている。

## 参考文献の有無 —

**索引の有無** 「人名地名索引」（263～276頁）を載せる。

**メモ** 表紙と中扉には「大鏡」の漢字も入れ、表紙には『松崎天神縁起絵巻』の一場面（後醍醐天皇の出家）をカラーで載せ、右下には紫の字で「大鏡」の文字が入る。「古代日本文学遺産」シリーズの1冊。

# 古今和歌集

## *Кокинвакасю: собрание старых и новых песен Японии*

英語文字表記: Kokinwakasui: Sbranie starykh i novykh pesen Iaponii

(古今和歌集:「日本の古今の和歌の集」)

**翻訳者** Александр Аркадьевич Долин (Aleksandr Arkad'evich Dolin / アレクサンドル・アルカディエヴィチ・ドーリン)

**出版地** Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンクト・ペテルブルグ/ロシア)

**出版社・発行者** Радуга (Raduga / ラードウガ)

**発行・刊行年** 1995 年 ※初版は 1981 年

**巻号** 第 1 ～ 3 巻の 3 冊セット本

**頁数** 1 巻は 270 頁、2 巻は 342 頁、3 巻は 229 頁

**序文・解説の内容と概略** まえがき (5 ～ 7 頁) は新藤協三 (国文学研究資料館名誉教授) による。序文 (8 ～ 37 頁) は翻訳者自身による。

**翻訳に用いた底本情報** 佐伯梅友校注『日本古典文学大系 8 古今和歌集』(岩波書店、1958 年)

### 翻訳内容の構成、章立

『古今和歌集』のロシア語訳。ラードウガから 3 巻とも同年に出版した。「題しらず」は「Bez nazvaniia」、「よみ人しらず」は「Neizvestnyi avtor (作者不明)」と正確に明記している。掲載の形は、詞書・和歌・作者名の順。和歌は 5 行書きである。第 1 巻は、仮名序 (38 ～ 48 頁)、1 ～ 342 番歌 (51 ～ 263 頁) を掲載。裏表紙には、平貞文の 279 番歌を

載せる。第2巻は、賀歌 343 番歌～哀傷歌 862 番歌を掲載（7～340 頁）。2 巻は、賀歌 343 番歌～哀傷歌 862 番歌を掲載（7～340 頁）。裏表紙には、小野小町の 658 番歌を載せる。第3巻は、雑歌上 863 番歌～墨滅歌 1111 番歌、真名序を掲載（7～195 頁）。巻末には短歌についての翻訳者のあとがき（198～214 頁）、『古今和歌集』の作者一覧（215～228 頁）を記す。裏表紙は、紀貫之の 919 番歌を載せる。

**図版、挿絵の有無** 1 巻は部立ての表紙に作者の人物の絵をそれぞれ掲載。3 巻すべて表紙の人物絵と裏表紙の和歌の人物を一致させている。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙は、第1巻は平貞文、第2巻は小野小町、第3巻は紀貫之の人物絵である。小野小町の絵は、田村將軍堂が販売する「小倉百人一首 常盤かるた」の図柄と同じ。

翻訳者ドーリンは国際教養大学教授。本書の他に、『現代詩』（ナウカ、1984）、『日本の近代詩と西洋文学』3冊（ナウカ、1978/1984/1990）、『Kokinwakasui』（ギペリオン、2001）を翻訳。『約束の地の奴隷（終焉のソビエト社会論）』（中央公論社、1991 年）、『生け贄の都モスクワ（ペレストロイカ以降の社会論）』（山手書房新社、1993 年）等の著書も手がけ、日本古典・近代詩歌集等のロシア語訳を 10 冊以上翻訳している。

## ***Кокинвакасю: собрание старых и новых песен Японии***

英語文字表記：KOKINVAKASIU:Sobranie starykh i novykh pesen Iaponii

(古今和歌集：「日本の古今の和歌の集」)

**翻訳者** Александр Аркадьевич Долин (Aleksandr Arkad'evich Dolin /アレクサンドル・アルカディエヴィチ・ドーリン)

**出版地** Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg /サンクト・ペテルブルグ/ロシア)

**出版社・発行者** Гиперион (Giperion /ギペリオン)

**発行・刊行年** 2001 年 ※初版は 1995 年で Raduga からの出版である。

**巻号** 1

**頁数** 428 頁

**序文・解説の内容と概略** 『古今和歌集』の全訳。序文（8～40 頁）は翻訳者による。

**翻訳に用いた底本情報** 佐伯梅友校注『日本古典文学大系 8 古今和歌集』（岩波書店、1958 年）

### **翻訳内容の構成、章立**

初版と異なるのは、2つの部立てをまとめて1章と簡略化していることである。さらに、巻末に翻訳者による注（385～410 頁）が掲載されている。仮名序は 41～54 頁、本文は 55～378 頁、真名序は 379～382 頁となっており、初版の頁数とはやや異なる。それは、本の装丁の違いによるものである。内容に違いはない。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** —

## メモ

表紙は L. E. Miller による。フリーア美術館蔵の土佐光吉筆『若菜・帚木図屏風』のうち「若菜」を用いている。なお、出版社ギペリオンは、1995 年にサンクト・ペテルブルグで設立された日本文化関係専門の出版社である。『源氏物語』を含むシリーズ「日本古典図書」のほかに、『日本書紀』『紫式部日記』『大鏡』『保元物語』や与謝蕪村、小林一茶、二葉亭四迷、正岡子規、芥川龍之介、川端康成、太宰治、三島由紀夫、安部公房などの作品を、「日本文学図書 20 世紀」というシリーズで多数出版している。

## 新撰和歌集

---

### *Синсэн вакасю: вновь составленное собрание японских песен*

---

英語文字表記: SINSENVAKASIU: Vnov' sostavlennoe sobranie  
iaponskikh pesen

(新撰和歌集: 新たに編纂された日本の和歌集)

翻訳者 Ирина Александровна Боронина (Irina Aleksandrovna Boronina / イリーナ・アレクサンドロヴナ・ボローニナ)

出版地 Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンクト・ペテルブルグ / ロシア)

出版社・発行者 Гиперион (Giperion / ギペリオン)

発行・刊行年 2001 年

巻号 1

頁数 253 頁

### 序文・解説の内容と概略

まず、『新撰和歌集』の概略を述べる。醍醐天皇の命令で 930 年頃に成立した和歌集であり、『古今和歌集』に続く 2 つ目の勅撰和歌集である旨を説明する。紀貫之による和歌集として優れた文学作品であり、360 首の和歌が収録され、8 ～ 10 世紀にかけて詠まれた優れた歌のみを集めた歌集であると述べる。

続くまえがき（5 ～ 24 頁）は、翻訳者自身による。『新撰和歌集』の成立をめぐる状況（平安の文化やその独特な文学的環境）において成立した和歌集である旨を説明しつつ、この和歌集の社会的な位置づけをする。なお、日本の和歌の種類を（主に短歌を中心に）紹介し、その特徴を論じる。和歌の性質からその作成をめぐる問題へと移行し、「歌合」の説明、さらに「和歌の時代」（訳者の表現）の特徴として、「色好み」（ロシア語から再訳すれば「恋愛を好む」「恋愛へのあこがれ」）や「物のあはれ」（「物の魅力」）を取りあげ、それぞれ解説する。ここでボローニナが「あはれの現象」と仏教の「無情」との関係を指摘し、特に恋歌によく見られる心の「変わりやすさの表現」と仏教の「無情のあはれ」（「はかなさの魅力」）とのつながりを強調する。さらに、「短歌」（ここでは和歌を、長歌に対して短歌と強調する）における「あはれ」の思想は、歌の「ことば」と歌の「こころ」を調和させる働きがあると説く。なお、和歌の特徴として「見立て」という表現方法を挙げる。いくつかのメタファー（例えば「涙」を「雫」「白玉」に喩えるなど）を挙げつつ、その使い方の例として、小野小町、紀貫之等の和歌を挙げる。和歌の修辞法として、本歌取

り・枕詞・掛詞・縁語等を取り上げ、和歌の方法論を指摘する。最後に和歌の歴史に触れながら、『万葉集』や『古今和歌集』の成立について語り、それらの関わりや本書の主題となる『新撰和歌集』との関わりを短く解説する。

#### **翻訳に用いた底本情報** —

#### **翻訳内容の構成、章立**

本文は全歌翻訳（29～162頁）。翻訳者による注釈（163～210頁）をつける。最後に本集の和歌の作者についての短い説明、本書全体に使用されている日本語のターム（あはれ・屏風歌・枕詞・序詞など）を詳しく解説する小辞典（211～252頁）がある。

#### **図版、挿絵の有無** —

#### **参考文献の有無** —

#### **索引の有無** —

**メモ** 最初の頁の絵の下に、『新撰和歌集』収録の恋の歌-346番歌「恋こひて枕さだめむかたもなしいか寝し夜か夢にみえけむ（よみ人しらず）」を掲載。この和歌は本書では本文には収録されていない。

# 寛平御時后宮歌合

## *Диалоги японских поэтов о временах года и любви: поэтический турнир, проведённый в годы Кампё (889-898) во дворце императрицы*

英語文字表記：Dialogi iaponskikh poetov o vremenakh goda i liubvi:  
poeticheskii turnir, provedyonnyi v gody Kampyo (889-898) vo dvortse  
imperatritsy

(日本の歌人による季節と恋についての対話：)

寛平時代 (889-898) に皇后の宮殿で行われた詩的競技)

翻訳者 Александр Николаевич Мешеряков

(Aleksandr Nikolaevich Meshcheriakov / アレクサンドル・ニコラエヴィチ・メシェリャコフ)

出版地 Москва (Moskva / モスクワ / ロシア)

出版社・発行者 Наталис (Natalis / ナタリス)

発行・刊行年 2002 年

巻号 1

頁数 210 頁

序文・解説の内容と概略

『寛平御時后宮歌合』のロシア語訳。まえがき (5～14 頁) は翻訳者自身による。日本の和歌とヨーロッパの詩との社会的機能を比較しつつ、政治的な詩歌の流れが日本でも存在していたと指摘する。和歌だけでなく俳諧・散文・日本の古典文学 (記紀) とヨーロッパ (主にロシア) の文学との社会的機能をも比較し、概略的に論じる。その論は日本の和歌には他に類のない「歌合」の成立へと展開する。「歌合」全体の短い説明 (主題の指示、左右に分けることなど) の後に、本



書の『寛平御時后宮歌合』に関して解説する。『寛平御時后宮歌合』は、主題が「四季及び恋」であり、歌が春から冬へ、恋人の出会いから別れへの構成であることを指摘する。本書掲載の和歌には、日本の和歌の4つの特徴、「歌の短さ」、「驚くほどの内容の豊かさ」、「人生を出会いとしてではなく別れとして感じる心」、「自分が生きている世の中における消極的な立場（もどかしさ）」があると述べる。

#### **翻訳に用いた底本情報** —

#### **翻訳内容の構成、章立**

本文の和歌（15～209頁）は『寛平御時后宮歌合』の採録で194首。ロシア語で歌合は「歌の競技」と訳している。歌人を登場順にあげる。紀友則、源当純、素性法師、藤原興風、在原棟梁、伊予千里（大江千里）、紀貫之、紀秋岑・壬生忠岑、小野美材、藤原菅根、凡河内躬恒、菅野忠臣。このほか、よみ人しらずの和歌（約100首）がある。

#### **図版、挿絵の有無** —

#### **参考文献の有無** —

#### **索引の有無** —

#### **メモ**

表紙は硯の絵。表紙の内側には、山部赤人の歌碑『万葉集』巻8：1427番歌「明日からは若菜つまむとしめし野に昨日も今日も雪は降りつつ」を載せる。

メシェリャコフは、ロシア国立人文大学東洋文化古典古代研究所教授。専門は、歴史（古代史）・文化人類学・宗教学・哲学・文学。歴史博士。著書には、『古代日本における宗教混合問題：神道と仏教』（ナウカ、1987）、『古代日本：文化と書物』（ナウカ、1991）、翻訳にL. M. Ermakovaと共訳の『日本書紀』（ギペリオン、1997）、『紫式部日記』（ギペリオ

ン、1997)、『奈良時代の文化と情報』(国際日本文化研究センター、1997年)『日本の風俗』(Natalis、1999)なども手がける。

## 弁 顕 密 二 教 論 ・ 般 若 心 經 秘 鍵 ・ 秘 蔵 宝 鑰 ・ 即 身 成 仏 義 ・ 声 字 実 相 義 ・ 吽 字 義

*Кукай: избранные труды (с приложением  
очерка истории развития эзотерического  
буддизма)*

英語文字表記：Kukai: izbrannye trudy

(s prilozheniem ocherka istorii razvitia ezotericheskogo buddizma)

(空海：選集(密教の発展史の概要を含む))

翻訳者 Андрей Г. Фесюн (Andrei G. Fesiun / アンドレイ・  
G・フェシュン)

出版地 Мос к в а (Moskva / モスクワ / ロシア)

出版社・発行者 Серебряные нити (Serebrianye Niti / セ  
レブリャヌエ ニーチ)

発行・刊行年 1999 年

巻号 1

頁数 213 頁

序文・解説の内容と概略

密教の成立や歴史に関する論文集(5～73頁)では、密教の歴史を詳細に解説。「インド」に関する章では、「仏教の

歴史」「仏教のパンテオンや思想家」「密教のタントラやタントラ仏教」と題し、5～8世紀の密教及びタントラ仏教の成立・初期思想を論じる。「中国」に関する章では「浸透とその創始者」「初期の密教の経」「HueiGo（慧可）」と題し、8～9世紀までの密教の歴史を述べる。最後の「日本」に関する章では、「弘法大師（空海）とその時代」「真言の教え」と題し、9～10世紀にかけての真言・密教等と日本社会との関わりに注目しながらその歴史を論じている。

**翻訳に用いた底本情報** —

**翻訳内容の構成、章立** ロシア語による、空海の著書『弁顕密二教論』『般若心経秘鍵』『秘蔵宝鑰』『即身成仏義』『声字実相義』『吽字義』の全訳（74～213頁）を収録する。翻訳者による詳しい注釈を付す。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** —

# 枕草子

## *Записки у изголовья*

英語文字表記：ZAPISKI U IZGOLOV'IA

(枕辺の手記)

**翻訳者** Вера Маркова (Vera Markova / ヴェーラ・マルコワ)

**出版地** Москва (Moskva / モスクワ / ロシア)

**出版社・発行者** Художественная литература  
(Khudozhestvennaia literatura / フドージェストヴェンナヤ・リテラトゥーラ)

**発行・刊行年** 1975 年

**巻号** 1

**頁数** 333 頁

### 序文・解説の内容と概略

まえがきは翻訳者自身による。『枕草子』の構造の複雑さ、主題の複数性等を論じ、『枕草子』が、当時の生活に関する情報（平安時代の文化や日常の生活像、当時の政治的な状況、海外との交流状況など）の源としての役割を果たしていたことを強調する。清少納言が「自分のために」書いたものであり、読者を意識して書かれた物語とは異なり、周辺への客観的な評価と描写に豊かな作品であることを指摘する。さらに、「創作の天才」である清少納言が書いた『枕草子』中には、物語もあり、悲しい出来事も書いてあると指摘する。つまり『枕草子』は、「各楽器が、各個性に合うリズムを維持しつつ、すばらしい合奏ができるオーケストラ」のようなものであると論じる。最後に清少納言の伝記を紹介、『枕草子』の内容

と関連する事件等を解説する。

**翻訳に用いた底本情報** 池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔校注『日本古典文学大系 19 枕草子・紫式部日記』（岩波書店、1958 年）

**翻訳内容の構成、章立** 本文は全文訳である。巻数を付す。翻訳者による注釈では、日本語や日本文化特有のものをわかりやすく解説する。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 表紙の内側は、『源氏物語絵巻』『宿木(二)』と「鈴虫(一)」を加工した画像である。

---

## *Записки у изголовья*

---

英語文字表記：ZAPISKI U IZGOLOV'IA

(枕辺の手記)

**翻訳者** Вера Маркова (Vera Markova / ヴェーラ・マルコワ)

**出版地** Москва (Moskva / モスクワ / ロシア)

**出版社・発行者** Толк (Tolk / トルク)

**発行・刊行年** 1983 年

**巻号** 1

**頁数** 365 頁

**序文・解説の内容と概略**

1975 年版と同じ内容である。まえがきは翻訳者自身による。『枕草子』の構造の複雑さ、主題の複数性等を論じ、『枕草子』が、当時の生活に関する情報（平安時代の文化や日常の生活像、当時の政治的な状況、海外との交流状況など）の

源としての役割を果たしていたことを強調する。清少納言が「自分のために」書いたものであり、読者を意識して書かれた物語とは異なり、周辺への客観的な評価と描写に豊かな作品であることを指摘する。さらに、「創作の天才」である清少納言が書いた『枕草子』中には、物語もあり、悲しい出来事もあると指摘する。つまり、『枕草子』は、「各楽器が、各個性に合うリズムを維持しつつ、すばらしい合奏ができるオーケストラ」のようなものであると論じる。最後に清少納言の伝記を紹介、『枕草子』の内容と関連する事件等を解説する。

**翻訳に用いた底本情報** 池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔校注『日本古典文学大系 19 枕草子・紫式部日記』（岩波書店、1958 年）

**翻訳内容の構成、章立** 本文は全文訳で、序文と同様に 1975 年版と同じ内容である。巻数を付す。翻訳者による注釈では、日本語や日本文化特有のものをわかりやすく解説する。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は筆をもつ宮廷女房の後ろ姿。『源氏物語絵巻』「東屋（一）」のうち、宇治の中君の髪を梳く女房の姿を加工したものか。なお、この本は 1995 年に再版されている。

---

## ***Записки у изголовья***

---

英語文字表記：ZAPISKI U IZGOLOV'IA

(枕辺の手記)

翻訳者 Вера Маркова (Vera Markova / ヴェーラ・マル  
コワ)

出版地 Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンク  
ト・ペテルブルグ / ロシア)

出版社・発行者 Азбука (Azбука / アズブカ)

発行・刊行年 1999 年

巻号 1

頁数 302 頁

序文・解説の内容と概略 —

翻訳に用いた底本情報 池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔校注『日  
本古典文学大系 19 枕草子・紫式部日記』(岩波書店、1958 年)

翻訳内容の構成、章立 本文は全文訳である。異なるのは、ま  
えがきや注釈をなくし、本文のみをロシア語に訳した点であ  
る。本文に元々あった注の番号や翻訳者がつけた各段の題名  
を省く。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 表紙は歌川国貞の『集女八景 洞庭秋月』。出版社アズ  
ブカは、ナボコフ、フロイト、マキアヴェリ、モーパッサン  
などの「クラシック文学」シリーズ、「有名推理小説」、SF  
シリーズなどの本や雑誌を出版している。

# 蜻蛉日記

## *Дневник эфемерной жизни: Кагэрō никки*

英語文字表記：Dnevnik efemernoi zhizni: Kagero nikki

(はかない人生の記：蜻蛉日記)

**翻訳者** Владислав Никанорович Горегляд (Vladislav Nikanorovich Goregliad / ウラディスラフ・ニカノロヴィッチ・ゴレグリャード)

**出版地** Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンクト・ペテルブルグ／ロシア)

**出版社・発行者** Петербургское Востоковедение (Peterburgskoe Vostokovedenie / ペテルブルグスコエ・ヴォストコヴェデニエ)

**発行・刊行年** 1994 年

**巻号** 1

**頁数** 346 頁

### 序文・解説の内容と概略

まず最初に、清少納言『枕草子』の跋文から「この草子、目に見え、心に思ふことを、人やは見むとすと思ひて、つれづれなる里居のほどに書き集めたる」という『枕草子』の成立事情を記す部分を掲載する。また、藤原定家の引用もある。

まえがき（5～26 頁）は、「豊かな 10 世紀（平安時代を語るまえがき）」と題する。平安京、平安時代の特徴、家庭に於ける女性の位置、当時の家庭制度を紹介する。藤原氏の歴史にも触れ、藤原氏を中心に 7 世紀に遡って日本の歴史の概略を述べる。『蜻蛉日記』の著者、「藤原倫寧女・道綱母」は、



平安時代の有名歌人のひとりで、私家集『道綱母集』があり、美女としても有名であったと述べる。著者の創作活動には歌人であった父親や兄弟の影響も見られると指摘する。『蜻蛉日記』は、主に道綱に関する出来事等を集中的に書いていると論じる。

続いて、『蜻蛉日記』の当時の日本文化の情報源としての役割を論じ、その中に見られる仏教の影響などにも触れる。日本文化では、五節句やそれに関わる習慣の解説のほか、例えば節分「鬼は外、福は内」のような年中行事も紹介する。「そのような『蜻蛉日記』中の詳しい日本文化の描写によって、平安時代の日本を近代の読者がより詳しく知ることができるのである」と指摘する。さらに、『蜻蛉日記』が描く 21 年間（954～974 年）の様々な事件や出来事は全てフィクションではなく、事実であると強調する。なお、『蜻蛉日記』は平仮名（著者がいう「音節形成音」）を用いて、日記の成立時期が 970～995 年の間と記されているという。巻の分け方などについても論じる。

最後に、作品名の『蜻蛉日記』の「かげろう」は一日の命しかない生物であると指摘し、そこでロシア語に訳した際「はかない人生の記」と題をつけたと説明する。なお、『蜻蛉日記』の自筆原稿は応仁の乱の際に失われ、現存するものはそれ以後に写された写本、そしてさらに写本からまた書き写されたものしかないとも主張する。

**翻訳に用いた底本情報** 鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土佐日記・かげろふ日記・和泉式部日記・更級日記』（岩波書店、1957 年）の図版が 1 頁掲載されているため、この版からの訳である可能性が高い。

**翻訳内容の構成、章立** 『蜻蛉日記』のロシア語訳。本文は全

文訳（31～335頁）。翻訳者による注釈（336～347頁）  
を掲載。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ —

## 和 泉 式 部 日 記 ・ 紫 式 部 日 記 ・ 更 級 日 記

### Дневники придворных дам древней Японии

英語文字表記：Dnevniki pridvornyykh dam drevnei Iaponii

（古代日本の宮廷婦人の日記）

翻訳者 和泉式部日記：Т. Л. Соколова-Делюсина（Т. L. Sokolova-Deliusina / Т・L・ソコロワ＝デリユーシナ）

紫式部日記：Александр Николаевич Мещеряков  
（Aleksandr Nikolaevich Meshcheriakov / アレクサンドル・  
ニコラエヴィチ・メシェリャコフ）

更級日記：Ирина В. Мельникова（Irina V. Mel'nikova  
／イリーナ・V・メリニコワ）

出版地 Минск（Minsk / ミンスク / ベラルーシ）

出版社・発行者 Харвест（Kharvest / ハルヴェスト）

発行・刊行年 2002 年

巻号 1

頁数 319 頁

**序文・解説の内容と概略** 『和泉式部日記』、『紫式部日記』、『更級日記』のロシア語訳。解説は日記に関する概略を述べる。

**翻訳に用いた底本情報** Annie Shepley Omori and Kochi Doi, *Diaries of court ladies of old Japan*, Houghton Mifflin, 1920

**翻訳内容の構成、章立**

本文は、『和泉式部日記』（3～87頁）、『紫式部日記』（88～203頁）、『更級日記』（204～312頁）の全翻訳。本文の和歌は2～4行書き。付録で旧暦の月と季節の説明がされている。付録に日記関連年表を掲載。

**図版、挿絵の有無** 挿絵に、菱川師宣『衝立のかげ』、喜多川歌麿『ねがひの糸ぐち 第7図』、懷月堂度辰『立美人図（女方図）』（サントリー美術館蔵）などの浮世絵を13枚掲載。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は3人の女性が梅の描かれた掛け軸を見ている絵で、裏表紙は3人の男女が火鉢を囲む絵である。本書は2001年創刊「東洋文学文庫」の1冊。

# 更級日記

## *Сарасина никки: одинокая луна в Сарасина*

英語文字表記：SARASINA NIKKI: odinokaia luna v Sarasina

(更級日記：更級での孤独な月)

翻訳者 Ирина В. Мельникова (Irina V. Mel'nikova /  
イリーナ・V・メリニコワ)

出版地 Санкт-Петербург (Sankt-Peterburg / サンク  
ト・ペテルブルグ／ロシア)

出版社・発行者 Гиперион (Giperion / ギペリオン)

発行・刊行年 1999 年

巻号 1

頁数 221 頁

### 序文・解説の内容と概略

『更級日記』のロシア語訳。序文(5～38頁)は「夢想到迷う」と題して述べる。作者の菅原孝標女や交流のあった源資通のこと、佐々木信綱・玉井幸助による「定家自筆御物本」の調査(1924年)などに関して述べる。

### 翻訳に用いた底本情報 —

### 翻訳内容の構成、章立

章立てはないものの、本文(39～182頁)は全訳であり、和歌は5行書きとする。随所に挿絵を配す。そのあとの注釈(183～214頁)では、和歌を左にローマ字読みでキリル文字を載せ、右にロシア語でキリル文字を表記する。『更級日記』の冒頭「あづま路の道のはてよりも」が、『古今和歌六帖』の紀友則の和歌「あづま路の道のはてなる」を引歌としているという注から始まり、以下詳細に説明する。

**図版、挿絵の有無** 巻末の付録（215～221頁）には、『更級日記』の行程地図などを載せ、詳しくロシア語で地名を示す。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

本書は、『同志社外国文学研究』第77号（1997.3〈島田尚一教授退職記念号〉）、第78号（1998.1）に収録したもの。「日本古典文庫」シリーズの第8号である。同シリーズは1号 小林一茶、2号『紫式部日記』、3号 西行、4～6号 和歌集、7号 与謝蕪村である。

扉絵には、すすきと月を配し、『更級日記』中の菅原孝標女の和歌、「年はくれ夜はあけがたの月かげの袖にうつれるほどぞはかなき」を掲載する。メリニコワは、同志社大学グローバル地域文化学部教授である。上田秋成作『春雨物語』『二世の縁』『同志社外語大学研究』第80号（1998.3〈終刊記念号〉掲載）などの翻訳もしている。

# イタリア語

Italian





# 竹 取 物 語

## *Storia di un tagliabambù*

(竹取物語)

翻訳者 Adriana Boscaro (アドリアーナ・ボスカロ)

出版地 Venezia (ヴェネチア／イタリア)

出版社・発行者 Marsilio Editori (マルシリオ出版社)

発行・刊行年 1994 年

巻号 1

頁数 101 頁

### 序文・解説の内容と概略

『竹取物語』のイタリア語訳(初版)。見返して『竹取物語』について簡単に紹介し、梗概を記す。また、多声的な語りによって登場人物に心理学的な性格付けがなされている点や、物語の個々のエピソードが絡み合って一枚の織物になっている点等いくつかの特徴を挙げ、9世紀の偉大な古典であり、普遍的な文学作品であるとも述べる。解説(11～32頁)で背景や成立過程等まで詳細に説明している。

### 翻訳に用いた底本情報

片桐洋一校注／訳『日本古典文学全集8 竹取物語』(小学館、1989年)51～108頁 ※初版は1972年12月、阪倉篤義・大津有一・築島裕・阿部俊子・今井源衛校注『日本古典文学大系9 竹取物語・伊勢物語・大和物語』(岩波書店、1970年)29～67頁 ※初版は1957年10月、野口元大校注『新潮日本古典集成 竹取物語』(新潮社、1979年)

**翻訳内容の構成、章立** 本文(39～87頁)の和歌は2～4行書きで文字のポイントを下げる。巻末に本文の注(89～



95 頁)、用語集 (固有名詞、官職名等) (97 ~ 101 頁) を付す。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 『竹取物語』の翻訳文献について記す (33 ~ 38 頁)

索引の有無 —

メモ 翻訳者ボスカロはヴェネチア大学教授である。16、18 世紀の日本文学、日本文化史、キリスト教の影響、平賀源内、戯作を専門とする。谷崎潤一郎の翻訳が多数ある。マルシリオ出版社は 1961 年の創業である。

## 落 窪 物 語

---

### *Storia di Ochikubo (Ochikubo monogatari)*

---

(落窪物語)

翻訳者 Andrea Maurizi (アンドレア・マウリッツィ)

出版地 Venezia (ヴェネチア／イタリア)

出版社・発行者 Marsilio Editori (マルシリオ出版社)

発行・刊行年 1992 年

巻号 1

頁数 292 頁

序文・解説の内容と概略

『落窪物語』イタリア語訳 (初版)。翻訳者自身による解説 (9 ~ 29 頁) では、『落窪物語』を、様式や用語法を鑑みて、平安時代前期の大勢の貴族たちの想像力が結実したものだといい、内容をシンデレラストーリーとして紹介、昔の日本を

知るにあたり重要な作品だと述べる。続く「作者と年代」(31～34頁)の項では『竹取物語』、『宇津保物語』の作者とも言われる源順が作者に擬せられる旨を記す。明証はない旨を断りつつ『落窪物語』の歌中の直喩と『拾遺和歌集』中の源順作の歌のそれとの類似に論拠を求める。さらに、作者を漢学の素養が見受けられる点から男性とみなし、漢籍が源流にある可能性に言及するなど、詳細に解説する。また九条公爵家旧蔵本、賀茂真淵校本、最初の木版本について、それぞれの年代を記す。

**翻訳に用いた底本情報** 松尾聡・寺本直彦校注『日本古典文学大系 13 落窪物語・堤中納言物語』(岩波書店、1957年)

**翻訳内容の構成、章立** 本文(37～269頁)は『落窪物語』のイタリア語訳。和歌の行数は不統一。81項目の注(271～279頁)が付く。巻末に主要登場人物紹介(281～285頁)と有職故実等に関する用語解説(287～292頁)を付記。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** Wilfrid Whitehouse, Eizo Yanagisawa (柳沢栄蔵), *Ochikubo monogatari: the tale of the Lady Ochikubo*, Hokuseido, 1965

**索引の有無** —

**メモ**

表紙は、俵屋宗達の大和絵『伊勢物語芥川図』の人物部分である。見返しに『落窪物語』の簡単な紹介がある。翻訳者マウリッツィはローマ大学〈ラ・サピエンツァ〉で日本語・日本文学を学び、さまざまな作品を翻訳している。手がけた翻訳には、井原西鶴の『男色大鑑』をイタリア語に翻訳した、*Il grande specchio dell'omosessualità maschile: la tradizione dell'amore per i ragazzi del Giappone*, Frassinelli, 1997、比

留間久夫の『Yes, yes, yes (イエス・イエス・イエス)』(河出書房新社、1989 年) のイタリア語訳 (1997 年) がある。

## 堤中納言物語

---

### *Le concubine floreali: storie del consigliere di mezzo di Tsutsumi*

---

(花のような恋人：堤中納言の物語)

翻訳者 Yoko Kubota (久保田洋子)

出版地 Venezia (ヴェネチア／イタリア)

出版社・発行者 Marsilio Editori (マルシリオ出版社)

発行・刊行年 1995 年 ※初版は 1989 年で、本書は第 2 版

巻号 1

頁数 199 頁

#### 序文・解説の内容と概略

『堤中納言物語』のイタリア語訳。解説(9～41 頁)は翻訳者自身による。全体を9項目に区切り、平安時代の概説、政治と宮廷、貴族社会、宗教、平安社会の男性像と女性像、娯楽と文化、平安女性の境遇、男性と女性の関係、平安時代の美的感覚について述べる。続いて「作品の主題と構造」(43～49 頁)、「原作者及び時代推定の問題」(51～57 頁)と題する解説を載せる。

翻訳に用いた底本情報 松尾聰・寺本直彦校注『日本古典文学大系 13 落窪物語・堤中納言物語』(岩波書店、1957 年)

## 翻訳内容の構成、章立

各編はイタリア語訳のタイトルを記した頁から始まり、次の頁では縦書きした日本語表記のタイトルの下にローマ字表記を併記、更に次の頁から本文が始まる。和歌の部分はイタリア語訳（2行書き、3行書き、4行書きと不統一）の下にイタリック体のローマ字書きも併記。注は全編分をまとめて末尾に収録（165～181頁）。巻末には平安文学に関連する人物・作品・地名・事項を説明した「用語解説」（183～199頁）がある。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 表紙は浮世絵師の鳥文斎栄之（ちょうぶんさい えいし）による、鎌倉時代初期に活躍した歌人嘉陽門院越前の姿絵。

# 本朝神仙伝

---

## *Il dio incatenato: Honchō shinsen den di Ōe no Masafusa*

---

(縛られた神：大江匡房による本朝神仙伝)

翻訳者 Silvio Calzolari (シルビオ・カルゾラーリ)

出版地 Firenze (フィレンツェ／イタリア)

出版社・発行者 Sansoni Editore (サンゾーニ出版)

発行・刊行年 1984 年

巻号 1

頁数 204 頁

### 序文・解説の内容と概略

複数の序文／解説が添えられている。

- ① Fosco Maraini (フォスコ・マライーニ) による序文。

平安時代の歴史的背景及び当時の芸術の事情について記されている。その中では「崇り」の概念についての説明やそのコンセプトにまつわるエピソードが書かれている。

- ② Franco Cardini (フランコ・カルディーニ) による序文。

「仙人」の概念について説明をし、ヨーロッパの民話やフォークロアの共通点について論じている。

- ③カルゾラーリによる解説。

①と②と異なり、翻訳者による解説は本書と本書の作者の大江匡房に特化している。作品の構造や日本語の歴史を知る上での重要さ、そして作者の生い立ちと現在知りうる情報について書かれている。後半は現在存在している『本朝神仙伝』の様々なバージョンの紹介とそれぞれの信憑性について論じられている。

**翻訳に用いた底本情報** 大東急記念文庫蔵本と呼ばれる手稿  
(南北朝時代の写本)

### 翻訳内容の構成、章立

底本をそのままイタリア語に翻訳したものである。翻訳者がわかりやすくするために追加しているテキストはブラケット〔 〕で囲まれ、わかるようになっている。また、仏教関連の用語及び日本歴史についての説明が必要なときに注釈が追加され、該当箇所の下に説明が加わっているスタイルになっている。

**図版、挿絵の有無** 各セクションに関連の挿絵（白黒）が用いられている。また、本文の後に仏教関連の芸術作品のカラー写真がある（計 24 点）。カラー写真ひとつずつ解説がついている。

### 参考文献の有無

参考資料は 4 つのセクションに分かれている：

- ①注釈の中で言及されている日本古文のタイトルをイタリア語 / 日本語でリストとして挙げられている
- ②複数の解釈がありうるくだりの解説
- ③『本朝神仙伝』の手稿のリスト
- ④『本朝神仙伝』の中に言及されている時代の区分と簡単な歴史的背景

上記のセクションに加えて、参考資料のリスト（195 ～ 202 頁）も記載されている。参考文献は、ヨーロッパ言語で書かれているものとヨーロッパ以外の言語で書かれているものの、2 つのグループに分かれている。

**索引の有無** —

**メモ** —

# 今昔物語集・宇治拾遺物語・ 古今著聞集・十訓抄

---

## *Memorie della luna: storie e leggende dell'antico Giappone*

---

(月の記憶：古代日本の物語と伝説)

翻訳者 Irene Iarocci (イレーネ・イアロッチ)

出版地 Milano (ミラノ／イタリア)

出版社・発行者 Teadue (テアドゥエ)

発行・刊行年 1998 年

巻号 1

頁数 267 頁

### 序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』、『宇治拾遺物語』、『古今著聞集』、『十訓抄』のイタリア語訳。1991 年に Ugo Guanda Editore (ウーゴグダイダ出版) から出版されたものの再版 (ペーパーバック) である。まえがき (7～27 頁) は翻訳者自身による。説話文学成立の背景、4 作品の著者・成立年代・内容に関する説明、翻訳の方針などを述べる。まえがきの最後では「発音に関する解説」として、ローマ字表記してある日本語の固有名詞を発音する際の注意点、及び「-ji (～寺)」「-san, -zan (～山)」のような名称に頻出する接尾辞的な語について簡単に説明する。

### 翻訳に用いた底本情報

山田孝雄・山田忠雄・山田英雄・山田俊雄校注『日本古典文学大系 22～26 今昔物語集 1～5』(岩波書店、1959～

1963 年)、渡邊綱也・西尾光一校注『日本古典文学大系 27 宇治拾遺物語』(岩波書店、1960 年)、永積安明・島田勇雄校注『日本古典文学大系 88 古今著聞集』(岩波書店、1966 年)、永積安明校訂『岩波文庫 十訓抄』(岩波書店、1942 年)

### 翻訳内容の構成、章立

本文(29～257 頁)は『今昔物語集』36 話、『宇治拾遺物語』11 話、『古今著聞集』7 話、『十訓抄』3 話の計 57 話を収録する。『今昔物語集』に関しては、「天竺部」「震旦部」が各 1 話、「本朝仏法部」が 10 話で、残る大部分は「本朝世俗部」から採用している。各説話は、イタリア語のタイトルを掲げ、その下に訳文と出典を載せる。人名・地名その他に関する注は 1 話ごとにその末尾に置く。全 57 話は出典・巻に関係なく配列され、その基準は特に認められない。

### 図版、挿絵の有無 —

**参考文献の有無** 巻末には参考文献(259～261 頁)を底本・日本語文献・西洋語文献に分類して収録。

### 索引の有無 —

### メモ —



# 作庭記

---

## *Sakuteiki: Annotazioni sulla composizione dei giardini*

---

(作庭記：庭園に関するメモ書き)

翻訳者 Paola di Felice (パオラ・ディ＝フェリーチェ)

出版地 Firenze (フィレンツェ／イタリア)

出版社・発行者 Casa Editrice Le Lettere (レ・レッテレ出版社)

発行・刊行年 2001 年

巻号 1

頁数 219 頁

### 序文・解説の内容と概略

序文、解説、あとがきがある。詳細は以下の通り：

① Fosco Maraini (フォスコ・マライーニ) による序文。

自然と共存する道を選ぶ日本人と、自然を支配するヨーロッパ人が作る庭園の違いについて述べられている。ヨーロッパの庭園は幾何学形態にはめ込んだものが基本になっており（つまり、自然自体を人工物化し）、これを平面幾何学式庭園という。一方、日本の庭園は池泉回遊式などと言われ、池や山の中に人工物（建築物など）が埋没し、人がその中を徘徊しながら自然を楽しむというものが多い（つまり自分も自然の一部）。

② 翻訳者による序文。

『作庭記』という作品が選ばれた経緯及び本書の翻訳に携わった人たちへの感謝の気持ちを述べる。

③ 解説に添えられた翻訳者の言葉。

日本とヨーロッパの庭園のイメージやコンセプトの違い

に加えて、現在に伝わっている『作庭記』の様々なバージョンの違いと背景について述べる。

#### ④翻訳者による解説。

『作庭記』を正しく理解するために必要だと思われる歴史的背景と文化的背景を説明する。また、庭園作りの要素と宗教との関係及び日本庭園の歴史に見られる中国の文化の影響について詳しく述べる。

#### ⑤本文の翻訳の後「コメント」というセクションがあり、その中では『作庭記』という作品に特化した解説がある。

**翻訳に用いた底本情報** 林屋辰三郎校注『日本思想体系 23 古代中世芸術論』（岩波書店、1973 年）に収録のものをベースに日本語から翻訳する。田村剛著『作庭記』（相模書房、1964 年）、武居次郎著『作庭記と陰陽五行説』（日本庭園学会、1998 年）、森蘊著『「作庭記」の世界：平安朝の庭園美』（日本放送出版協会、1986 年）による現代語訳も参考としている。

**翻訳内容の構成、章立** 底本として用いられていたものと同じ構成にしている。さらに、本書にはよりわかりやすくするために、参考資料及び注釈が追加されている。

**図版、挿絵の有無** 序文の中にカラー写真 15 点を用いる。

#### 参考文献の有無

ヨーロッパ言語で書かれた参考文献と、日本語の参考文献と、2つのセクションに分ける。

**索引の有無** 日本語の用語リストとそれに対する発音（ローマ字）が 193 ～ 212 頁にある。

#### メモ

国際交流基金（Japan Foundation）より出版援助助成を受けて出版された。また、参考文献リストのほかに以下がある。

- ・日本歴史の簡単な年譜

- ・平安時代における「寝殿造り」の説明
- ・風水や中華文化の主なコンセプトの紹介

## 古今和歌集

### *Kokin Waka shū: raccolta di poesie giapponesi antiche e moderne*

(古今和歌集：古代と現代の詩の日本コレクション)

翻訳者 Ikuko Sagiya (鷺山郁子)

出版地 Milano (ミラノ／イタリア)

出版社・発行者 Ariele Lapislazzuli (アリエール・ラピスラズリ)

発行・刊行年 2002 年 ※初版は 2000 年、この本は第 2 版

巻号 1

頁数 686 頁

#### 序文・解説の内容と概略

まえがき（6～8 頁）及び解説（9～30 頁）は翻訳者自身による。まえがきでは、平安時代の官職、天皇の在位期間と年号の対照表なども収録。続く解説では、冒頭、藤原俊成『古来風躰抄』から『古今和歌集』について論じた一節を引用する。解説本文は 6 つの項目を立て、『古今和歌集』成立以前の和歌の状況と時代背景、編纂の状況、巻の構成・内容と歌の配列の基準（巻 15：765～768 番歌を例に解説）、主要な作者の紹介、仮名序に示される歌論について、枕詞・掛詞などの修辞法について説明する。

翻訳に用いた底本情報 小島憲之・新井栄蔵校注『新日本古典

文学大系 5 古今和歌集』(岩波書店、1989 年)

### 翻訳内容の構成、章立

本文(37～667 頁)は全訳。和歌の部分は、日本語表記を縦書きで載せ、横に歌番号・作者(ローマ字表記)・イタリア語訳した詞書を掲載。その下に和歌をローマ字表記で 5 行書きし、右側に対訳でイタリア語を記す。さらに歌の背景を解説。一部の巻の最終頁に梅や萩など植物のイラストがある。仮名序・真名序には脚注を施し、巻末には簡単な人物紹介を付した作者索引(668～678 頁)と初・二句索引(679～686 頁)を収める。

**図版、挿絵の有無** 序文の中にカラー写真 15 点も用いる。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

### メモ

翻訳者鷺山郁子はフィレンツェ大学教授である。論文に、*Immagine del fiore di ciliegio nella poesia classica giapponese (Dal Manyoshu al Kokinshu (和歌における桜のイメージ：万葉から古今まで))*, 1997、*Formazione delle immagini convenzionali nella poesia classica giapponese: il concetto sama nel kanajo (Prefazione giapponese) del Kokinshu (和歌における伝統的イメージの形成—『古今和歌集』「仮名序」における「さま」の概念)*, 1998 などがある。

# 枕草子

---

## *Note del guanciale*

---

(枕草子)

翻訳者 Lidia Origlia (リーディア・オリーリア)

出版地 Milano (ミラノ／イタリア)

出版社・発行者 Longanesi & C. (ロンガネーシー)

発行・刊行年 1968 年

巻号 1

頁数 483 頁

### 序文・解説の内容と概略

本文に入る前に、アイヴァン・モリスによる序文と翻訳者による解説がある。モリスによる文章は、同氏の『枕草子』の英訳 *The Pillow Book of Sei Shonagon*, Oxford University Press 出版（出版年は不明）の序文から抜粋された内容のイタリア語訳である。主に清少納言の生い立ちや『枕草子』の特徴について書かれている。タイトルの由来の説明の中で、晩唐の漢詩人である李商隠（リ・ショウイン）の作品と清少納言の随筆が比較されており、『枕草子』という特有な構造は漢詩人の作品の影響を受けている可能性について言及している。

翻訳者による解説は本作品よりも日本の歴史を中心に書かれている。読者がより深く清少納言の作品を理解できるように、縄文時代から平安時代までの歴史の概要が簡単に記載されている。

**翻訳に用いた底本情報** 本書は 1229 年の『枕草子』のバージョン（安貞二年奥書本と言われる三巻本のこと）で翻訳したと、

本文の後（409 頁）に記載がある、しかし、それ以外の情報は見当たらない。

### 翻訳内容の構成、章立

底本をそのままイタリア語に翻訳したものである。412 頁以降は、断片的なもの及び正しい配置が不明なテキストが収録されている。その構造が底本に即しているのか、それとも編集者の判断によるものなのかどうかは不明である。

**図版、挿絵の有無** 4 枚の図版を収録されている。平安朝の家具などが対象となっている。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** —

---

## *Note del guanciale*

---

(枕草子)

**翻訳者** Lidia Origlia (リーディア・オリーリア)

**出版地** Milano (ミラノ／イタリア)

**出版社・発行者** SE Studio Editoriale s.r.l (セ・ストオディオ・エディトリアーレ出版)

**発行・刊行年** 2002 年

**巻号** 1

**頁数** 326 頁

### 序文・解説の内容と概略

翻訳者によるあとがきがある。その内容は 1968 年に出版された『枕草子』のイタリア語訳の解説と同一のものである。その解説に加えて、作者である清少納言の紹介（323 ～ 325 頁）が追加されており、清少納言の生い立ちと彼女の晩年に

ついて記載がある。

**翻訳に用いた底本情報** 本書は 1229 年の枕草子のバージョン（安貞二年奥書本と言われる三巻本のこと）に基づいて翻訳された（259 頁）。しかし、それ以外の情報は見当たらない。

**翻訳内容の構成、章立** 底本として用いられている『枕草子』をそのまま翻訳されている。本文の後に、どこに配置されているかが定かではない雑記を紹介する。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** —

## 枕草子・和泉式部日記・ 紫式部日記・更級日記

---

### *Diari di dame di corte nell'antico Giappone*

---

（古代日本の宮廷婦人の日記）

**翻訳者** Giorgia Valensin（ジオルジャ・ヴァレンシン）

**出版地** Torino（トリノ／イタリア）

**出版社・発行者** Einaudi（エイナウディ）

**発行・刊行年** 1990 年

**巻号** 1

**頁数** 210 頁

**序文・解説の内容と概略**

『枕草子』、『和泉式部日記』、『紫式部日記』、『更級日記』

のイタリア語訳。1946年、1970年(第4版)、1981年(1976年の増刷)にも出版された。解説(7～21頁)は、翻訳者自身による。「宮廷女房日記は、『源氏物語』を実在しない架空の物語として信じない私たち(イタリア人)に対して、その世界に光をさすものである」と述べる。中扉裏に作者の家系・略伝・成立時期・特質(李商隠(リ・ショウイン)の「雑纂」にも言及)を解説する。

**翻訳に用いた底本情報** Arthur Waley, *The Book of Sei Shonagon*, (出版社、出版年とも不明)

### 翻訳内容の構成、章立

本文は『枕草子』以外は全訳。作品のタイトルは、『枕草子』は「清少納言の日記、枕の本」となっている。その他は作品名そのままの表記である。『枕草子』の章段のタイトルは特にない。例えば、第23段は「Primavera 994 (春994年)」と記し、その段が正暦五年の春の出来事であることがわかる。年と季節を明示するに留まる。『枕草子』(3～62頁)、『和泉式部日記』(63～100頁)、『紫式部日記』(101～156頁)、『更級日記』(157～210頁)。和歌は行分けが不統一である。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

### メモ

翻訳者のヴァレンシンは、本書のほか、*Findina Library: Liriche cinesi (1753A.C.-1278D.C)*, Einaudi, 1952 を出版している。『更級日記』は本書のほか、カタルーニャ語などにも翻訳されている。出版社エイナウディは、イタリアのトリノにあり、60年以上の歴史を誇る。トリノの知識人社会の一大中心といえる。なお、この本はエイナウディの「駝鳥叢



書」375である。表紙は、重要文化財である「絹本着色 細川幽斎像・幽斎夫人像」（南禅寺天授庵蔵）から、幽斎夫人である沼田麿香の肖像画を切り取ったものである。上部には、徳川家康に仕えた金地院崇伝の賛がある。

## 土 左 日 記

---

### *Il Tosa Nikki di Ki-no-Tsurayuki*

---

（紀貫之による『土左日記』）

翻訳者 Mario Scalise（マリオ・スカリス）

出版地 Roma（ローマ／イタリア）

出版社・発行者 IsMEO（イタリア中亜極東協会）※現在の  
IsIAO（アフリカ東洋研究所）

発行・刊行年 1966 年

巻号 1

頁数 57 頁

#### 序文・解説の内容と概略

やや長文（16 頁）の「解説（Introduzione）」は、貫之の略歴と『古今和歌集』に至る和歌史の概略、『古今和歌集』序の解説（構成の箇条書と冒頭部ローマ字原文との対訳を含む）、『土左日記』の史的位置（谷崎潤一郎の『鍵』や『瘋癲老人日記』に至る日記文学の始祖であることも）や内容と問題点そして諸本（主要 4 本）の略説を展開する。

翻訳に用いた底本情報 —

翻訳内容の構成、章立

本文は「前置き」「出発」「別れの杯（注、うまのはなむけ）」～「桂川を赤い月に渡る」「都に帰って幸せ」と細かく分けて見出しを立て、詳しい脚注を付して忠実に訳した、学問的な作業である。和歌はその意味を正確に伝えようと、2～4行程度の散文としている。それを補うために「付録『土左日記』の和歌」として、ある程度短ー長ー短ー長ー長の5行としてローマ字書きの原文と対訳にしたものを添えている。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ Il Giappone 第6号掲載の翻訳である。ただし、国際交流基金の図書館では単行書扱いになっているので採録した。

## 紫式部日記

### *Diario e Memorie Poetiche*

（日記と詩的回顧録）

翻訳者 Alfredo Giuliani（アルフレード・ジュリアーニ）

出版地 Milano（ミラノ／イタリア）

出版社・発行者 Feltrinelli（フェルトリネッリ）

発行・刊行年 1984年

巻号 1

頁数 221頁（別途12頁）

序文・解説の内容と概略

「紫式部」の日記と家集のイタリア語訳。ただし、バウリ

ング訳の初版の全文をイタリア語訳して、『源氏物語』、『紫式部日記』、そして『枕草子』『更級日記』などと、それらのイタリア語訳について解説した、翻訳者ジュリアーニの短い（6頁）「イタリア語版の序」を冠したものである。

**翻訳に用いた底本情報** Richard Bowring, Murasaki Shikibu,  
*her diary and poetic memoirs: a translation and study*,  
Princeton University Press, 1982

### **翻訳内容の構成、章立**

本文はバウリングによる英訳版の「序」から「引用文献」まで全文の翻訳、特にその第1部の終までは脚注もすべて残している。しかし、第2～3部の「解説」では文献についての脚注など若干省略したものがある。第1部の左頁の詳しい注解は脚注として多くを残し、第2部の各歌の後の注もそのまま訳している。両部を通じて和歌をローマ字書きの原文と訳とを各5行に対比して示す方式も原著のままである。ただし、第1部の「付録」中、1の「海漫々」の訳と2「(人物一覧)」、第2部の「付録」では「詞書の異同」だけが省かれ、「引用文献」もいくつかを削除する。イタリアの読者（日本文学の専門家と愛好家）の理解度と文献の充足状況とを勘案したものか。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** —

# スペイン語

Spanish





# 竹 取 物 語

## *El cuento del cortador de bambú*

(竹を切る人の物語)

翻訳者 Kayoko Takagi (高木香世子)

出版地 Madrid (マドリッド／スペイン)

出版社・発行者 Trotta S.A. (トロッタ)

発行・刊行年 2002 年 ※初版は 1998 年

巻号 1

頁数 115 頁

### 序文・解説の内容と概略

『竹取物語』のスペイン語訳。「解説」(9～39 頁)は翻訳者自身による。まず、仮名で書かれた物語文学について解説し、『竹取物語』を日本文学史における物語の夜明けの作品と位置づけ、次に『竹取物語』前後の文学作品を概略する。構造と主題の項では、物語のあらすじ、羽衣説話や求婚譚、文体や和歌の掛詞などの技法について言及し、人物呼称の方法や言霊信仰を紹介する。また、中国文学の影響関係から作者と作品の成立背景を示唆する。翻訳上の問題では、特に日本語の母音や、苗字と名前で成り立ち、「-no」で結合する日本の人物呼称についてとりあげる。

**翻訳に用いた底本情報** 野口元大訳『新潮日本古典集成 竹取物語』(新潮社、1979 年)

### 翻訳内容の構成、章立

翻訳部分(45～111 頁)は、かぐや姫の誕生と 5 人の求婚者達への難題譚、及び帝との交流と昇天までの物語を全 10 章に分けて訳す。和歌は 4 行分かち書き、下句は 2 字下げ。

脚注に語釈や出典、また巻末の参考文献等をもととした注釈を載せる。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ

このシリーズは、ユネスコ代表作コレクション（UNESCO の Colección UNESCO de Obras Representativas）として UNESCO ISBN: 92-3-303432-1 を持つ。2016 年には第 5 版を出版する。

表紙は『佐竹本三十六歌仙 小大君』（大和文華館蔵）。翻訳者である高木香世子は、公立マドリッドアウトノマ大学に勤務している。

なお、『竹取物語』翻訳部分は、2004 年に Cátedra(カテドラ)社から出版された Letras universales, 370 シリーズの同名の書でも収録する。本書では 177 頁に及ぶ研究解説と後記付録として、文学史上『竹取物語』に言及されている、あるいは関連が認められる 10 作品（『丹後国風土記』から『古今和歌集序聞書』まで）の該当部分の翻訳、さらにチベットの民話「斑竹姑娘」のあらすじまで（243 ～ 263 頁）を掲載する。

)

# 伊勢物語

## *Cantares de Ise, Traducción, presentación y epílogo de Antonio Cabezas García*

(伊勢の歌、アントニオ・カベサス・ガルシアによる翻訳、紹介、後書)

**翻訳者** Antonio Cabezas García (アントニオ・カベサス・ガルシア)

**出版地** Madrid (マドリッド／スペイン)

**出版社・発行者** Ediciones Peralta (ペラルタ出版社)

※ Poesía Hiperión 17 (イペリオン詩コレクション 17)

**発行・刊行年** 1979 年

**巻号** 1

**頁数** 168 頁

### 序文・解説の内容と概略

(1) 解説 25 頁 (7～31 頁) …… 簡単な出生、ジャンル、外国語への翻訳紹介がある。池田亀鑑の解説に基づく。ただし、通読を希望するスペイン語を母語とする読者のために必要な情報の提供に止めるとする。6つのテーマについて解説する。

第1のテーマは翻訳を問題とし、日本の古典詩歌は翻訳不可能という意見があることを挙げ、これは幻覚に過ぎないと言う。その上で、翻訳でも韻をふむリズムが望ましいとし、5—7—5—7—7の5つの句のリズムはスペインの民謡ジャンルであるジプシーのセギディージャと良く似ていることから、これをモデルとして翻訳することができるとする。よく問題とされる掛言葉、序詞はほぼ全てスぺ



イン語に翻訳可能だとも言う。

第2のテーマは9世紀の日本社会、第3は作品の歴史性で、奈良時代から平安初期にかけての中国文明の影響に言及する。これに対して、藤原氏の台頭と『源氏物語』を生んだ女性の活躍が日本固有の伝統を守ったとする。平安時代の性生活の説明や、十二支、衣食住などを交え、その後、業平の生立ちや伝説的な歴史的人物としてのエピソードを記する。

第4のテーマは地理、場面で、作品に舞台となった地名と共に京都とその周辺の簡単な説明がある。

第5は出生、著者、タイトルについて。「在五中将の日記」との関連、実在した女性たちとの関係、なぜ『伊勢物語』と命名されたのかという疑問について述べる。

第6のテーマは編集された内容の時間系列を説明し、サイクル、場面の展開があるとする。全体を7つのサイクルに分割し、これを通して高子への愛が全作品を通したメインテーマであるとする。作品は一見統合性がないように見えるものの、編者の様々な意図からこれらのサイクルが並べられ、結合されているという。

- (2) メタクリティカルなエピローグ…… 19頁(141～158頁) 作品を業平の詩歌と著者編者の仕事に分け、業平の和歌の分析をする。思想・感情・表現法の3つの要素から分析。「月やあらん…」の和歌の7名の翻訳を比較(Aston, 日本文化振興会、F.Vos, Miner & Brower, Helen Craig, 本多平八郎、Jay Harrys のものを紹介)、表現法では掛言葉、枕詞、頭韻、リズムを藤原定家の批評に言及しつつ分析。著者編者については、時間系列と構成に問題があるという、これまでの外国人研究者の意見に反対を記す。

(3) 歴史付録 10 頁 (159 ~ 168 頁) …… 桓武天皇から始まる業平をめぐる家系図の説明を加え、『伊勢物語』の内容がいかに実在の人物を題材にしているかを示す。紀貫之と『古今和歌集』にも言及する。桓武から宇多に至る皇室系図と、藤原高子の系図、紀貫之の系図を載せる。

**翻訳に用いた底本情報** 嵯峨本『伊勢物語』(1608 年)

### **翻訳内容の構成、章立**

全体を7つのサイクルに分け、この中に前奏曲、五つの間奏曲、最終章が組み込まれる。第1サイクルは前奏曲に当たる「業平の元服」に続き、「高子との恋と業平の追放」という副題を付ける。第2サイクルは「業平の恋愛」、第3は「愛とは何か」(場面1「失望」、場面2「恋と友情」、場面3「愛の増幅と孤独」)、第4は「皇后高子」、第5「伊勢斎宮恬子内親王」、第6「宮廷」(場面1「友の心」、場面2「愛人の心」、高子の面影」、場面3「心のみ」) 第7「歴史上の業平と伝説上の業平」、最終章となる。

**図版、挿絵の有無** 嵯峨本『伊勢物語』(1608 年)の装幀から16図を使用。

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** ー

### **メモ**

スペイン語圏の一般の読者を意識した解説、翻訳であり、構成上の副題などは必ずしも古典文学のオーソドックスな翻訳とは離れている印象がある。ただし、スペイン語への初めての翻訳であり、日本語から直接翻訳された意義は大きい。しかし、和歌の翻訳についての翻訳者の意見はこの後様々な批評を生み出した。特に、和歌の韻律をジプシーの民謡のリズムになぞって考える意見には反対の意見も多い。

1988年に、Hiperión（イペリオン）社から再版されている。

---

***Cuentos de Ise (Prólogo de Jorge Luis Borges,  
Jorge Luis Borges Biblioteca Personal)***

---

（伊勢物語、（ホルヘ・ルイス・ボルヘスの序文、  
ホルヘ・ルイス・ボルヘス個人図書館））

翻訳者 Jorge N. Solomonoff（ホルヘ・N・ソオモノフ）

出版地 Barcelona（バルセロナ／スペイン）

出版社・発行者 Hyspamérica Ediciones Argentina（イスパメ  
リカ出版アルゼンチン社）※バルセロナの Paidós Ibérica 社より  
提供。Ediciones Orbis（オルビス社、バルセロナ）のための独占版。  
ホルヘ・ルイス・ボルヘス個人図書館第 15 巻

発行・刊行年 1987 年

巻号 1

頁数 187 頁

**序文・解説の内容と概略**

序文：Jorge Luis Borges（ホルヘ・ルイス・ボルヘス）による。  
日本文芸は歴史叙事詩の前に自然、愛をテーマにした作品を  
生み出した。「評論家の加藤周一がドン・フアンと比較でき  
るとするが賛成できない。カトリックの道徳に支配されたド  
ン・フアンの世界は未だ道教や仏教の影響で善悪の厳しい規  
範を持っていなかった業平の時代とは異なっている」とする。  
『伊勢物語』の内容は事実を元に上手に脚色されていること  
を示唆する。

G. Renondeau（G・ルノンドー）のフランス語版へのコメ  
ント：1926年に能 31 曲をフランス語へ翻訳しそれがきっ  
かけで『伊勢物語』の翻訳を目指した。しかし 1957 年に出

版されたVos(フォス)の*A Study of the Ise monogatari* によって大きな助けを受けたことを明記する。

G・ルノンドーによる序文：『伊勢物語』の日本文芸における重要性。作者と完成年についてのコメントあり。

**翻訳に用いた底本情報** *Contes d'Ise*, Unesco, 1969 年（フランス語版は伝定家筆本を底本とすると明記されている）。ただし、在原業平についての歴史的解説が追加されている。

**翻訳内容の構成、章立** 125 章

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** 冊後部に3頁にわたって索引がある。

**メモ**

フランス語訳からの重訳である。ユネスコの世界傑作文学コレクションに入ったものと考えられる。注釈はフランス語の翻訳者であるルノンドーが言うように、フォスの研究を元に行っているとされる。ただし、原本へのレファレンスはない。ユネスコの文書に下記のリストがある。

(<http://unesdoc.unesco.org/images/0006/000681/068108so.pdf>)

*Cuentos de Ise (Ise Monogatari)*. Traducción de Jorge N.Solomonoff a partir de la versión francesa (*Contes d'Ise*) del original japonés. Barcelona y Buenos Aires, Ediciones Paidós, 1980. ( *Cuentos de Ise* (伊勢物語)、ホルヘ・ソオモノフ訳。フランス語 *Contes d'Ise* からの翻訳で、フランス語訳は日本語からの直訳。バルセロナ、ブエノス・アイレス、パイドス出版社、1980 年)

なお、オルビス社は現在存在しない。

---

## ***Cuentos de Ise, (Traducción directa del japonés y edición de Jordi Mas López)***

---

(伊勢物語、(ジョルディ・マス・ロペスによる日本語からの翻訳と解説))

**翻訳者** Jordi Mas López (ジョルディ・マス・ロペス)

**出版地** Madrid (マドリッド／スペイン)

**出版社・発行者** Editorial Trotta, Colección Pliegos de Oriente, Serie Lejano Oriente (トロッタ社、プリエゴス・デ・オリエンテ・コレクション、極東シリーズ)

**発行・刊行年** 2010 年

**巻号** 1

**頁数** 194 頁

### **序文・解説の内容と概略**

- (1) 解説 22 頁 (9～30 頁) …… 『古今和歌集』にも見えるように詞書と和歌が切り離せない形で書かれている点に触れ、歌物語の特異性を解説する。

副題「日本文学の(再)隆盛」で、かいつまんだ日本文学の始まりを説明する。『古事記』、『日本書紀』、『万葉集』までを日本文学の黎明期とし、『竹取物語』、『古今和歌集』、『伊勢物語』が日本語で書かれた叙述文学と詩文学の頂点として生まれたとする。中国の六朝文学の影響と独自の詩的才能によって、在原業平や小野小町といった詩人が現れる。当時好んで詩作に用いられた枕詞、掛言葉、序詞などの重要性を説明。さらに、仮名文字の普及による女流文学の発展への流れを説明する。

- (2) 副題「平安社会の発展と女性の働き」 …… 平安文化の洗練度とその狭い周辺社会が女性の手になる『枕草子』や『源氏物語』によく表現されているとする。『伊勢物語』の各章に現れるエピソードを理解するためには、書かれた

社会の説明が必要である。宮廷における藤原氏の独占的支配と貴族の婚姻習慣に触れ、娘たちの教育は文芸を含めた諸芸と美的感覚に秀でることが必要だったと説明。これは平安時代、宮廷の貴族社会における婚姻政策と密接な関連性があるとする。天皇家との婚姻が藤原氏の発展を約束したように、貴族階級の娘はより高い地位の確保に使用された。宮廷社会の掟や約束ごとが『伊勢物語』の底辺となっている。これを破る形で夢が和歌の中で使用されている。

(3) 副題『伊勢物語』…… 日本文学の再確認としての作品である。実在した在原業平と『伊勢物語』の関係について考察する。作者は平安京に流布していた業平の風評とその和歌を材料とし、また一方で当時の和歌の大集成であった『古今和歌集』を土台としている。さらに仮名文字を用いることによって、すでにあった書物を書き直した人物がひとり以上複数いたのではないかとする。その理由としては、構成に2つの態度が見受けられること。まず時系列を追うものとテーマごとに物語を構成していく2つの方法がとられている。『伊勢物語』の特異性は和歌自体の優秀性だけではなく、場面にふさわしい詩作法、詩作の規範マニュアルとして読まれた可能性を示唆する。

(4) 副題「翻訳について」…… 歌物語の本質である叙述と詩作の緊張感を意識する。和歌はその技法から二通り、三通りまで解釈ができるがこれをすべて翻訳することは詩作としては不可能であるため、文学的翻訳を目指す。ただし、5—7—5—7—7のシラブルに従うことは断念した。しかし、できる限り各句が奇数のシラブル数で構成されるように試みた。通読にふさわしくない注はなるべく避けることとする。歴史的人物名、草木動物名、時刻、カレンダー

は読み手の知識に沿ってなるべく近似の表現を用いた。人物名は日本語の順序に従った。

**翻訳に用いた底本情報** 片桐 洋一・高橋 正治・福井 貞助・清水 好子校注／訳『日本古典文学全集 8 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』（小学館、1991 年）※底本の初版は 1972 年、また底本については Tamasuke reizei という人名と定家本であるという説明がある。

**翻訳内容の構成、章立** 125 章の後に 19 章。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** 195 ～ 198 頁に冊後部に索引がある。

**メモ** 底本情報に書かれている Tamasuke reizei が注釈者の冷泉家を指していると思われる。しかし、「たますけ」という名前には疑問がある。為和あるいは為輔の写し間違いまたは誤植か。

# 今昔物語集

## *Konjaku monogatari y otros textos*

(『今昔物語』と他のテキスト)

**翻訳者** Jorge González de León (ホルヘ・ゴンザレス・デ・レオン)

**出版地** México (メキシコ)

**出版社・発行者** Editorial Trillas (トリラス出版社)

**発行・刊行年** 1986 年

**巻号** 1

**頁数** 65 頁

### 序文・解説の内容と概略

『今昔物語集』と和歌のスペイン語訳。解説は、翻訳者自身による。『今昔物語集』の解説では、日本の歴史・時代区分、口承文芸の説明。和歌の解説では、短歌・俳句、宇宙的なものの(愛・死・夜・月・来世等)が和歌に詠み込まれていることを述べる。

**翻訳に用いた底本情報** Susan Wilbur Jones, *Ages Ago: Thirty-Seven Tales from the Konjaku Monogatari Collection*, Harvard University Press, 1959

### 翻訳内容の構成、章立

『今昔物語集』の本文(11～49頁)は、本朝説話中の世俗説話のみを掲載する。37話中から15話(巻23:19話・22～23話、巻24:4～5話・8話・20話・26話、巻26:7話・11話、巻27:5話、巻28:34話、巻29:32話、巻31:9話・27話)を抜粋したもの。Antología de Textos Japoneses (= Anthology of Japanese Texts)として、紀貫之、



文屋朝康、壬生忠岑、紫式部、和泉式部、藤原定家、藤原公経などの和歌（50～65頁）を、作者未詳歌・神楽歌を含め42首を掲載。4・5行書きなど不統一。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙は、Raul Herrera（ラウル・エレーラ）による巻24：8話「女、医師の家に行きて瘡を治して逃ぐる語」の挿絵の抜粋である。老典薬頭が欲念する美女の姿。出版社トリラスは、プエルトリコ、ベネズエラ等にもある。本書は12冊からなる、年少者向けの絵入本「(世界) 古典文学」シリーズ (Los Clásicos de la literatura, Japón, Sigro XI, 4) の第4冊である。このシリーズは、世界各国の古典叙事詩、日本の出雲大社や伊勢神宮の建築美術に関する本も出版している。ちなみに中国は『紅樓夢』、イタリアは『神曲』地獄篇第三歌、ドイツは『ニーベルンゲン』を収める。

# 古今和歌集

## *Poesía clásica japonesa: Kokinwakashū*

(日本の昔の詩：古今和歌集)

翻訳者 Torquil Duthie (トウークル・ダシー)

出版地 Madrid (マドリッド／スペイン)

出版社・発行者 Trotta (トロッタ)

発行・刊行年 2005 年 ※再版は 2008 年

巻号 1

頁数 176 頁

### 序文・解説の内容と概略

序文は翻訳者であるダシーによる。まずはじめに、『古今和歌集』が平安時代の醍醐天皇の治世中に紀貫之らにより作られたこと、及び和歌の規則について述べる。ついで「1 『古今和歌集』をとりまく社会・文化的背景」(「貴族社会」、「結婚と男女の関係」、「教育」)、「2 政治的状况」(「律令」、「藤原氏」、「醍醐天皇」)、「3 和歌の前後関係(『古今和歌集』前後の和歌や漢詩)」、「4 『古今和歌集』における歌の形式とテーマ別の特徴」(「韻律」、「修辞技法」、「対象と歌の配列などのきまり」、「新旧」、「歌の価値」)と『古今和歌集』が成立した背景について詳細な解説がある。

**翻訳に用いた底本情報** 小島憲之・新井栄蔵校注『新日本古典文学大系 5 古今和歌集』(岩波書店、1989 年)

### 翻訳内容の構成、章立

『古今和歌集』の中から 100 個の歌を選んで翻訳する。スペイン語に翻訳された詞書、5 行書きの和歌、5-7-5-7-7 にあわせてスラッシュを入れたローマ字表記にした和

歌を載せる。適宜、脚注で歌や周辺知識についての解説がある。

また、本文の後ろに『古今和歌集仮名序』の翻訳と掲載された歌の作者（アルファベット順）に関する解説がある。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** 和歌の題ごとに、上の句から歌の検索ができるような索引がついている。

**メモ**

見開きには、Pliegos de Oriente シリーズから出版されている書籍の紹介を掲載する。『竹取物語』、『風姿花伝』、『心中天網島』、『雨月物語』などである。

## 枕 草 子

---

### *“El libro de la Almohada” de Sei Shonagon*

---

(清少納言の“枕草子”)

**翻訳者** Iván Augusto Pinto Román, (イヴァン・アウグスト・ピント・ロマン) Oswaldo Gavidia Cannon (オズワルド・ガビディア・カノン)、Hiroko Izumi Shimono (下野泉)

**出版地** Lima (リマ／ペルー)

**出版社・発行者** Pontífica Universidad Católica (カトリカ大学出版部)

**発行・刊行年** 2002 年

**巻号** 1

頁数 535 頁

## 序文・解説の内容と概略

『枕草子』のスペイン語訳（初版）。「まえがき（Prefacio）」（13～23 頁）は下野による。清少納言と『枕草子』の解説、4 種の伝本に関する説明、章段の 3 分類などに触れている。続いてピントによる「巻頭言（Nota Liminar）」（25～26 頁）と「序言（Prólogo）」（27～42 頁）が付される。

**翻訳に用いた底本情報** 金子元臣著『枕草子評釈』（明治書院、1923 年）

**翻訳内容の構成、章立** 目次は 301 の章段全てにおいてローマ字書きになっている。本文中の見出しでは、ローマ字書きにスペイン語訳を併記している箇所もある。固有名詞等は脚注で解説する。

## 図版、挿絵の有無

巻頭には、東京国立博物館蔵『百人一首画帖』から清少納言像を掲載する。また所々に『枕草子絵巻』から該当する場面の図版を収める。巻末には付録（Addendum、485～535 頁）として平安京の見取図、平安京の宮殿について、古代日本の暦について、日本語（発音その他）についての説明と人物や官職に関する解説、10 世紀から 11 世紀における皇室と藤原家との関係系図を収録する。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

Colección Orientalia のひとつ。底本の他に、三条西家旧蔵（学習院大学蔵）の能因本も参照したとある。翻訳者ピントは日本文化史の研究者でカトリカ大学教員である。1993 年よりカトリカ大学東洋研究センターに在籍。翻訳者カノン

はカトリカ大学の教授であり、1996 年より 1997 年まで韓国・檀国大学客員教授である。

## 土 左 日 記

---

### *Diario de Tosa de Ki No Tsurayuki*

---

(紀貫之の土左日記)

翻訳者 Iván Augusto Pinto Román (イヴァン・アウグスト・ピント・ロマン)、Hiroko Izumi Shimono (下野泉)

出版地 Lima (リマ／ペルー)

出版社・発行者 Pontificia Universidad Católica (カトリカ大学出版部)

発行・刊行年 2004 年

巻号 1

頁数 87 頁

#### 序文・解説の内容と概略

『土左日記』の完訳。本文の前に翻訳者の下野による、紀貫之という人物に関する説明と、『土左日記』の作品の歴史、及び貫之が編者のひとりである『古今和歌集』に関する解説がおかれる。また、あとがきでは翻訳者のピントにより、『土左日記』の享受史が説明されており、最後に「大和歌は人の心を糧として」という『古今和歌集仮名序』の冒頭部分が、ローマ字とスペイン語により書かれている。

翻訳に用いた底本情報 鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土左日記 かげろふ日記

和泉式部日記 更級日記』(岩波書店、1979年)※初版は1957年、品川和子校注／訳『講談社学術文庫 全訳注 土佐日記』(講談社、1983年)

### 翻訳内容の構成、章立

本文は原文をローマ字にしたものとスペイン語訳を上下に配置し、対訳させた構成となっている。冒頭の「男もすなる日記といふものを女もしてみんとてするなり」の箇所をあげてみると、

「Wotoko mo su naru, niki to iu mono wo, wonna mo shite min tote, suru nari」

というローマ字で表記した原文の下に、

「Hombre son los que escriben los llamados diarios, una mujer lo intenta hacer ahora.」

となっている。

なお、題名も「Hatsuka-amari-futsuka/Vigésimo Segundo día」のように、ローマ字とスペイン語で表記されている。和歌は5-7-5-7-7の形式をとりつつ、ローマ字とスペイン語で表記されている。また、適宜、脚注がついている。

### 図版、挿絵の有無

冒頭には、鎌倉時代の似絵で重要文化財である『佐竹本三十六歌仙断簡 紀貫之像』が使われている。また挿絵として、菊池容斎筆『土佐日記絵巻』2巻(1874年)のうち、「門出」、「国衙での別れの宴」、「入京の許し」、「帰京」の場面が使われている。なお、「国衙での別れの宴」は12月26日の内容であるものの、1月20日の記事の後に絵が置かれており、「帰京」の場面を描いた絵の最後には「明治十九年七月上浣 小川古尋 臨(印)」という書写識語がある。

**参考文献の有無** あとがきの中に紹介されている。

索引の有無 —

メモ Centro de Estudios Orientales, 10 (カトリカ大学東洋研究所シリーズ) の1冊である。

## 蜻蛉日記

---

### *Apuntes de una efímera: (Kagerô nikki)*

---

(かげろうの記録)

翻訳者 Iván Augusto Pinto Román (イヴァン・アウグスト・ピント・ロマン)、Hiroko Izumi Shimono (下野泉)

出版地 Lima (リマ／ペルー)

出版社・発行者 Asociación Peruano Japonésa (ペルー日本人協会)

発行・刊行年 2008 年

巻号 1

頁数 279 頁

#### 序文・解説の内容と概略

スペイン語に訳された『蜻蛉日記』の全訳。翻訳者の下野による、日本文学史の概要と日記文学・随筆についての解説がある。また、序文・解説の最後には、学習院大学教授の諏訪春雄への謝辞がある。あとがきでは翻訳者ピントによる、『蜻蛉日記』と作者・藤原道綱母について、及び『蜻蛉日記』の研究史についての解説がある。与謝野晶子・堀辰雄のような歌人・小説家による訳や、Edward G. Seidensticker(エドワード・G・サイデンステッカー) 訳及び Sonja Arntzen (ソーニャ・

アンツェン) 訳のような海外での翻訳についても触れている。  
**翻訳に用いた底本情報** 重訳ではなく、『蜻蛉日記』本文からの翻訳である。

### 翻訳内容の構成、章立

原文にあわせて「上 (Previo)」「中 (Medio)」「下 (Postrero)」の3章からなる。翻訳者による小見出しなどはない。序文にあたる、「かくありし時過ぎて～さてもありぬべきことなむ多かりける」の部分は斜字体の表記となっている。和歌は5－7－5－7－7の5行書きの体裁ではないものの、上の句と下の句を分けて書いている。また詳細な脚注がある。

### 図版、挿絵の有無

歌川国芳・歌川広重・歌川豊国（三代）作『小倉擬百人一首 53 右大将道綱母（藤屋伊左エ門）』、狩野探幽筆『新古百人一首手鑑 右大将道綱母』、田山敬儀註釈『百人一首図会』（1807 年）、『躰方百人一首・女訓宝文庫』など。

**参考文献の有無** あとがきの中に紹介されている。

### 索引の有無 —

**メモ** Colección Sakura シリーズのひとつ。



# 更級日記

---

## *Dama Sarashina: sueños y ensoñaciones de una dama de Heian*

---

(更級夫人(菅原孝標女)：平安女性の夢と白昼夢)

翻訳者 Akiko Imoto (井本晶子)、Carlos Rubio (カルロス・ルビオ)

出版地 Girona (ジローナ／スペイン)

出版社・発行者 Atalanta (アタランタ)

発行・刊行年 2008 年

巻号 1

頁数 161 頁

### 序文・解説の内容と概略

翻訳者ルビオにより「平安時代の社会と文学」、「習慣と信仰」、「作者(菅原孝標女)について」、「日記文学の概要と『更級日記』の構成など」についての解説がある。

**翻訳に用いた底本情報** 西下経一校注『岩波文庫 更級日記』(岩波書店、1963 年)、原岡文子訳注『角川ソフィア文庫 更級日記：現代語訳付き』(角川書店、2003 年)

### 翻訳内容の構成、章立

スペイン語による『更級日記』の全訳。詳細な脚注で、旧国名や古典特有の語についての説明がなされている。和歌は 3 行書きで斜字体となっており、本文中に登場する物語の名前も斜字体になっている。

### 図版、挿絵の有無

本文の後ろに、菅原孝標女の年表と村上天皇～後三条天皇に至る皇室の系図と藤原氏の系図を載せる。挿絵は元禄 17

(1704) 年に刊行された『絵入 さらしなの日記』から引用されており、絵の下にスペイン語で説明がある。

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

表紙は『北野天神絵巻（弘安本断簡乙巻）』女房狂乱の場面（東京国立博物館蔵）、裏表紙は土佐光吉筆『源氏物語絵色紙帖』「野分」（京都国立博物館蔵・重要文化財）である。表から裏にかけて見返しに、Ivan Morris（アイヴァン・モリス）による『更級日記』の解説、及び2人の翻訳者の略歴が書かれる。

翻訳者のルビオはマドリッドにある Centro de Estudios Superiores Felipe II の教員で、『古事記』、『古今和歌集』、『平家物語』の翻訳を行っている。同じく翻訳者の井本は、バルセロナにあるプンペウ・ファブラ大学の教員で、三島由紀夫の『剣』や永井荷風の『腕くらべ』の翻訳を行っている。また、出版社のアタランタは、Jordi Fibla（ホルディ・フィブラ）の翻訳による *La Historia de Genji*（『源氏物語』）を2005年、2006年を出版した。



# 中国語

Chinese





# 枕草子

## 枕草子

(枕草子)

翻訳者 林文月（リン・ブンゲツ）

出版地 台北（タイペイ／中華民国）

出版社・発行者 洪範出版社

発行・刊行年 2000 年

巻号 1

頁数 326 頁

### 序文・解説の内容と概略

台湾で出版された『枕草子』の中国語訳。序文（1～14 頁）は翻訳者自身による。「洪範新版序」（1～4 頁）には、翻訳の縁起と周作人（シュウ・サクジン）訳『枕草子』の和歌の翻訳との比較などを載せる。「清少納言與枕草子—「中外文学」版代序」（5～14 頁）には、清少納言の家系、略伝、人物（紫式部の評）及び随筆形態と李義山（リ・ギザン）「雜纂」との関係、内容などを概説する。

**翻訳に用いた底本情報** 松尾聰・永井和子校注／訳『日本古典文学全集 11 枕草子』（小学館、1974 年）

### 翻訳内容の構成、章立

本文（3～326 頁）は、段ごとに番号と題の訳は全集によるもの。固有名詞や官職・年中行事等の有職故実、引歌等の修辞、本文の問題のある箇所などについての注は、左頁の左端に簡潔に記す。本文の冒頭の「春は、あけぼの。」は「春、曙為最。」となっている。書中の「をかし」は「有意思」、「有情趣的」、「可賞愛的」、「奇妙透頂的」、「滑稽可笑的」などそ

の場に応じて訳出を変えている。和歌の翻訳は、林文月独特の方法で、3行（7－7－8字の形式）で、1行目と3行目に韻を踏む。例えば、20段の和歌「年経ればよはひは老いぬしかはあれど花をし見れば物思ひもなし」は、「既經年兮又添齡、吾身漸老遂減喜、見花忘憂兮愛芳馨」となっている。

**図版、挿絵の有無** カラーで「定子皇后宮圖」「天子行幸圖」、『枕草子』手抄本の部分を載せる。

**参考文献の有無** 石田穰二訳『角川文庫 新版枕草子』（角川書店、1984年）、萩谷朴校注『新潮日本古典集成 枕草子』（新潮社、1985年）、Ivan Morris, *The Pillow Book of Sei Shonagon*, ColumbiaUniversityPress, 1967

**索引の有無** —

**メモ**

表紙の題字と絵は林文月の夫で画家の郭豫倫（カク・ヨリン）による。折り込みには、清少納言像（『枕草子絵詞』）と翻訳者の写真を掲載する。本書は「洪範訳叢」の7号である。翻訳者・林文月は、1985年の秋冬、奨助金によってヨーロッパ・アメリカ・日本の大学を訪問旅行中、欧米と日本の『枕草子』の訳本・評論を読む機会に恵まれ、『枕草子』の翻訳を開始する。1986年7月から1988年4月まで、台湾大学外国語文学科の月刊誌『中外文学』に22期連載する。1989年に修訂して『中外文学』により出版。2000年に修訂再版、洪範書店より出版。出版社洪範書店は、主に哲学、心理学、文学分野を中心に出版している。

## 枕草子

(枕草子)

**翻訳者** 周作人 (シュウ・サクジン)

**出版地** 台北 (タイペイ／中華民国)

**出版社・発行者** 木馬文化出版社

**発行・刊行年** 2003 年

**巻号** 1

**頁数** 374 頁

### 序文・解説の内容と概略

台湾で出版された『枕草子』の中国語訳。周作人訳の『枕草子』(簡体字版)は、中国大陸ではすでに『日本古代随筆選』(人民文学出版社、1988 年)、『枕草子』(中国对外翻訳公司、2001 年)などとして出版している。台湾での初版は本書が初。序文(3～6 頁)は翻訳者自身による。

**翻訳に用いた底本情報** 北村季吟『枕草子春曙抄』(1674 年以降成立)

### 翻訳内容の構成、章立

本文(11～374 頁)の冒頭の「春は、あけぼの。」は「春天是破曉的時候[最好]」と訳す。文中の「をかし」はすべて「有意思」或は「非常有意思」と訳出する。和歌の翻訳は、周作人独特の 3 行形式の白話詩である。例えば、20 段の和歌「年経ればよはひは老いぬしかはあれど花をし見れば物思ひもなし」は、「年歳過去身體雖然衰老、但看著花開、便沒有什麼憂思了」とある。底本以外の本を参照する時や、訳文の固有名詞や有職故実、引歌・出典、本文に問題のある箇所などには簡潔な脚注を付すとある。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —



## 索引の有無 —

### メモ

翻訳者・周作人は中国浙江省紹興県の人。魯迅（ロジン）の弟である。1901年に南京の江南水師学堂に入学した。1906年に来日、法政大学・立教大学に学ぶ。1911年辛亥革命後に帰国し、1917年に北京大学文科教授となる。「新青年」に寄稿し、人道主義的な文学を提唱した。1923年頃から魯迅と不和になり、国民革命の挫折後はしだいに虚無的となる。日中戦争下、華北教育督辦となり、日本に協力したかどで戦犯に問われて下獄。1949年釈放。著書論文には『芸術と生活』、『中国新文学の源流』、文学史料集『魯迅の青年時代』、散文集『雨天の書』、他に翻訳・口語詩や随筆を書き、歌謡や伝説を収集している。表紙のデザインは、「燕子花図」（尾形光琳）の『燕子花図屏風』（根津美術館蔵）の模様で、その上に「心の感動を記録したいだけです」と書く。折り込みには、「作者簡介清少納言」と「訳者簡介周作人」とある。

## 日本古代随筆選・枕草子

(日本古代随筆選・枕草子)

翻訳者 周作人 (シュウ・サクジン)

出版地 北京 (ペキン／中華人民共和国)

出版社・発行者 人民文学出版社

発行・刊行年 1988 年

巻号 1

頁数 330 頁

### 序文・解説の内容と概略

同書は吉田兼好の『徒然草』を収録している。序文は、『徒然草』の中国語訳者である王以鏞 (オウ・イチュウ／出版者、翻訳家。古代ギリシャ語、ラテン語、ロシア語、日本語など 8 カ国語に通じ、日本文学については『徒然草』のほか、『野坂参三選集』を訳した) による。王は、『枕草子』と『徒然草』が日本随筆文学の双璧だと紹介し、『枕草子』の題名及び作者について触れたのち、その文体は緩やかなものであり、内容は目の前にある事物や景物に対する直観的な描写が主であると説明している。漢文学の影響を受けながらも、このような瞬時的な感覚を重視するのは日本文学独自のものであり、この作品を通じて日本文化の情趣を充分に解することができる」と指摘している。解説「关于清少納言」(清少納言について) は、訳者である周作人 (シュウ・サクジン／散文家、翻訳家。『古事記』、『狂言十番』、『浮世風呂』、『枕草子』などの日本文学作品を訳した) による。作者・清少納言の出身と人生について詳しく紹介し、『枕草子』の内容を 3 種類に分類し、唐代の李義山 (リ・ギザン) による「雜纂」の書き方を模した類聚の段落、宮仕えに関する日記及び晩年自然と人生に対する感想から成っていると指摘している。

## 翻訳に用いた底本情報

池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔校注『日本古典文学大系 19 枕草子・紫式部日記』（岩波書店、1958 年）を底本として使う。訳者である周作人は、北村季吟の『枕草子春曙抄』（12 巻）を参考として、巻と段落の分け方はそれに従うと解説で述べている。

## 翻訳内容の構成、章立

底本を 12 巻に分け、第 1 段から第 305 段までそのまま翻訳する。周作人自身によると、別本を参照して、解説を加えるところもあるという。その一例としては、第 26 段を前段から分ける形で並べることが挙げられる。訳文は流麗な現代中国の散文の文体を取り、注釈も工夫している。『春曙抄』の注釈を参考にし、有職故実関係や日本文化特有の事項については、名称をそのまま挙げたのち、中国の事例と比較して説明する。

**図版、挿絵の有無** 柳原記光筆『清少納言枕草子』（岩瀬文庫蔵）の巻頭図版を掲げている。

**参考文献の有無** 北村季吟『枕草子春曙抄』、池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔校注『日本古典文学大系 19 枕草子・紫式部日記』（岩波書店、1958 年）

**索引の有無** —

## メモ

訳者である周作人の解説が 1965 年 10 月に書き上げたことから見ると、この訳が完成したのも同じ時期であろう。つまり、この訳本は豊子愷（ホウ・シガイ）訳『源氏物語』と同じく、完成してから 20 年ほど経って、ようやく出版できたものである。なお、同書の王以鏞が書いた序によると、この本は「中日平和友好条約」締結 10 周年を記念して、日本

国際交流基金から資金の援助を受けて、出版したものである。

## 枕草子

(枕草子)

**翻訳者** 于雷（ウ・ライ）

**出版地** 河北省石家荘市（カホクショウセッカソウシ／中華人民共和国）

**出版社・発行者** 河北教育出版社

**発行・刊行年** 2002 年

**巻号** 1

**頁数** 449 頁

### 序文・解説の内容と概略

「一縷縷香語（代総序）」という、編集者である叶渭渠（葉渭渠とも／ヨウ・イキョ）により 1999 年に書かれた序文が載る。ここでは、『枕草子』が日本で最初の随筆であり、自然の微妙なうつりかわりの美しさや当時の風俗世相・作者が関心を寄せていたことなどについて書いたものであるという、作品の概要を説明する。また、『枕草子』が『徒然草』や『方丈記』に与えた影響、及び同じ平安時代にした『蜻蛉日記』などの日記文学や、江戸時代の紀行『奥の細道』などの散文についての考察も行っている。なお、翻訳者はあとがきで、清少納言が中宮定子の死後、出家して阿波国へ行ったという伝承について触れている。さらに、あとがきとは別に「訳後記」で、「清少納言の生涯」、「『枕草子』の成立など」、「『枕草子』の諸本と特徴」などについて述べている。

**翻訳に用いた底本情報** 松尾聰・永井和子校注／訳『日本古典文学全集 11 枕草子』（小学館、1992 年）底本は能因本。初

版は 1974 年で、今回確認した本は 22 版になる。

### 翻訳内容の構成、章立

中国語訳『枕草子』の全訳。冒頭の「四季风光」（春はあけぼの）から、最終章段の「不胜惶恐」（わが心めでたく思ふ事を、人に語り）まで全 324 段からなる。なお、章段 3「正月初一」、91「两个尼姑」、104「寻杜鹃」、166「人间四月」、257「泪别樱花」、272「残月背影」、287「含糊不得」は章段の中をいくつかに分けて翻訳している。本文中にある古典特有の語などに対しては、詳細な脚注がつく。

また、章段 3「正月初一」の本文「正月初七。从冰雪消灭的缝隙。采摘七种鲜嫩的野菜」（4 頁）のように、底本の「七日、雪間の若菜摘み、（以下略）」よりも詳細な記述になっているものの、古典の原文をそのまま翻訳していない場合は、脚注で「原文为“若菜摘”（わかなつみ）：日本宮中于正月初七、去野外采摘雪中冒芽的七种鲜嫩的野菜（以下略）」と原文の表記を書いている。

**図版、挿絵の有無** 「平安時代の朝廷の官職表（系図形式）」「官職官位表」、「宇多天皇から後朱雀天皇までの系図」、「藤原氏の系図（3 種類）」、「清原氏系図」、「橘氏系図」、「平氏・源氏・高階氏系図」

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 叶渭渠が編集する『東瀛美文之旅』シリーズのひとつ。

# 蜻蛉日記・和泉式部日記・ 紫式部日記・更級日記

## 藤原道綱母 紫式部等 王朝女性日記

(藤原道綱母や紫式部などによる王朝女性日記)

翻訳者 林嵐 (リン・ラン)、鄭民欽 (テイ・ミンキン)

出版地 河北省石家荘市 (カホクショウセッカソウシ／中華人民共和国)

出版社・発行者 河北教育出版社

発行・刊行年 2002 年

巻号 1

頁数 448 頁 (別途 26 頁)

序文・解説の内容と概略 『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『紫式部日記』『更級日記』各全文の翻訳。前3作は林嵐訳、『更級日記』は鄭民欽訳。

### 翻訳に用いた底本情報

底本は明示していないものの、4 作品とも番号を打って表題を掲げた見出しを立てている。その区切りと表題から『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『紫式部日記』は、藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫校注／訳『日本古典文学全集 18 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』(小学館、出版年不明、初版は 1971 年) が推測できる。しかし、『更級日記』の底本は不明である。

### 翻訳内容の構成、章立

固有名詞やいくつかの史実、官職名その他、有職故実に関する語などには簡単な脚注を付し、和歌は『蜻蛉日記』では

多く四言あるいは五言の四句に、『和泉式部日記』、『紫式部日記』では五言の四句や七言の二句など、『更級日記』も同様ながら、いくつかは五・七・五言の3行に訳している。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ** 叶渭渠（葉渭渠とも／ヨウ・イキョ）編集のシリーズ「東瀛美文之旅」の第3冊で、巻頭にこのシリーズに共通の「一縷縷香語（代総序）」（編者）を置く。

# ハンデル

Hangul







# 蜻蛉日記

청령일기 (チョンリョンイルギ) / Kagerou Nikki

(蜻蛉日記)

翻訳者 鄭順粉 (チョン・スンブン)

出版地 ソウル (韓国)

出版社・発行者 지식을 만드는 지식 (ZMANZ / 知識を創る知識)

発行・刊行年 2009 年

巻号 1

頁数 345 頁

## 序文・解説の内容と概略

本書には、本文の前に「端書き」、「解説」、「作者について」を置く。「端書き」では日本女流日記の嚆矢であり、自照文学の嚆矢である『蜻蛉日記』の意義や『蜻蛉日記』英訳などの紹介、韓国語訳の必要性、そして底本の紹介や和歌を訳することの至難さなどを述べる。「解説」は、①平安時代の結婚制度、②兼家の女性関係と色好みの世界、③平安貴族と和歌という3節に分けられ、13頁にわたって解説がある。「端書き」と「解説」における和歌の翻訳に対する記述から、和歌の翻訳に力を入れようとした本書の方針が読み取れる。

## 翻訳に用いた底本情報

底本は、木村正中・伊牟田経久校注／訳『新編日本古典文学全集 13 土佐日記・蜻蛉日記』(小学館、1995年)。他に、犬養廉校注『新潮日本古典集成 蜻蛉日記』(新潮社、1982年)、今西祐一郎校注『新日本古典文学大系 24 土佐日記・蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』(岩波書店、1989年)などをも参

考にし、作者の心情を正確に表現するのに力を入れたという。

### 翻訳内容の構成、章立

全巻の構成は、「凡例」、「端書き」、「解説」、「作者について」、「本文（巻末歌集含む）」、「巻末付録（翻訳者の既発表論文転載、作者の結婚生活―日記のあらすじ、年表、地図）」の順である。

「本文」の構成は、底本の新全集の構成に倣って大きく上巻・中巻・下巻・巻末歌集に分類し、巻ごとに段落を分けて番号と小題目をつけた。注は脚注形式であり、前後文脈の説明、平安時代の日本文化を理解するための事項をも記述した。「巻末付録」に転載されている訳者の論文は、「女性文学としての『蜻蛉日記』―アメリカにおける受容と研究様相を中心に―」という題である。

図版、挿絵の有無 ―

参考文献の有無 ―

索引の有無 ―

メモ

本書は、韓国初の『蜻蛉日記』の翻訳である。全世界あらゆる学問分野の三千種以上の古典を翻訳しようとするジマンジ（ZMANZ、知識を創る知識）出版社の企画による ZMANZ Classic 叢書の第 8 巻として刊行したものである。翻訳者の鄭順粉は『枕草子』や『蜻蛉日記』、『紫式部日記』、『更級日記』（金孝淑と共訳）、『讃岐典侍日記』などの平安時代女性日記の韓国語訳も出しており、韓国の読者に平安時代女性文学を広く紹介している。

## 가게로 일기 (ガゲロ イルギ) / Kagerou Nikki

(蜻蛉日記)

翻訳者 李美淑 (イ・ミスク)

出版地 ソウル (韓国)

出版社・発行者 한길사 (HANGILSA / ハンギル社)

発行・刊行年 2011 年

巻号 1

頁数 445 頁

### 序文・解説の内容と概略

本書には本文の前に「平安時代の一人の女性の生と記録」という題で、33 頁の詳しい「解題」がある。①日本初の女性散文文学、②道綱母の陽炎のような生と文学、③記録と伝達、④文明のテキストとしての『蜻蛉日記』といった4つの節に分け、女性散文文学の先駆けとしての『蜻蛉日記』の意義や、実質的な一夫多妻制の下で生を営んだ平安時代の一女性としての道綱母の人生、そのような生の軌跡を仮名文字で形象化し残した意味、そして「文明テキスト」としての『蜻蛉日記』の韓国語訳の意義などについての詳細な解説である。

### 翻訳に用いた底本情報

木村正中・伊牟田経久校注／訳『新編日本古典文学全集 13 土佐日記・蜻蛉日記』(小学館、1995 年)

その他に、柿本奨『蜻蛉日記全注釈 上巻・下巻』(角川書店、1966 年)、上村悦子『蜻蛉日記解釈大成 1～9』(明治書院、1983～1995 年)、犬養廉校注『新潮日本古典集成 蜻蛉日記』(新潮社、1982 年)、今西祐一郎校注『新日本古典文学大系 24 土佐日記・蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記』(岩波書店、1989 年)などの諸注釈をも参考にして校勘し、注と解説などを捕捉した。

## 翻訳内容の構成、章立

全巻の構成は、「解題」、「凡例」、「本文（巻末歌集含む）」、「付録（年表、この本の登場人物、主要人物の家系図、平安京周辺地図）」、「参考文献」、「訳者の言葉」、「索引」の順である。

「本文」の構成は、底本の新全集の構成に倣わず、大きく上巻・中巻・下巻・巻末歌集に分類し、それを年度別に中分類し題目をつけ、必要な場合、さらに内容別に細分類し小題目をつけた。上巻の序文、上・中・下巻の結びは独立して分類した。作品の内容を理解しやすくするため、年度別に簡単な解説を終わりにつけた。年度別の題目及び小題目はテキストを参照し訳注者がつけた。

脚注と年度別の解説は、用語の解説、前後文脈の説明、道綱母の心理など作品の内実に関わる内容だけではなく、「文明のテキスト」として10世紀の日本文化を理解するのに必要な社会制度及び生活文化と関わる事項をも記述した。訳注者の本文解釈及び作品の読みをも反映した。

**図版、挿絵の有無** 「表紙」には世尊寺経朝筆とされる『蜻蛉日記』断簡の「玉津切」を用いた。池田和臣中央大学教授所蔵。

**参考文献の有無** 有

**索引の有無** 有

**メモ**

李美淑訳注『ガゲロ イルギ』は、東西洋古典の翻訳・注解を主要事業としているソウル大学校人文学研究院H K 文明研究事業団の「文明テキスト」叢書第3巻として刊行されたものである。人文学振興のために2007年11月から韓国研究財団が支援するH K（人文韓国）事業の支援を受けており、H K とは、Humanities Korea の略字である（プロジェクト番号は、NRF-2007-361-AL0016）。韓国語書名の「ガゲロ」

という表記は、「かげろう」を韓国国立国語院の外来語表記法によって記したものである。なお、書名には副題として「陽炎のようなわが人生」を併記した。

韓国において『蜻蛉日記』の初訳は、2009年8月鄭順粉の訳注によってジマンジ(ZMANZ)という出版社から『チョンリョンイルギ』(『蜻蛉日記』の韓国語読み)という書名で刊行されており、本書は2度目の韓国語訳になる。2書共に『蜻蛉日記』の注釈の中で一番新しい木村正中・伊牟田経久校注／訳の小学館新全集を底本にしている。しかし、同じ作品の翻訳でありながらも書名の「蜻蛉」の意味をめぐる鄭順粉(チョン・スンブン)訳では「蜉蝣」と解するのに対し、李美淑訳では「陽炎」と解することからも確認できるように、2つの翻訳の内実は作品に対する訳者の読みの違いによって多少異なるところもある。



# オランダ語

Dutch







# 和泉式部日記

## *Jouw koude hart zwijgt: memoires*

(つらき心と静かな思い出)

翻訳者 Ivo Smits (イヴォ・スミッツ)

出版地 Amsterdam (アムステルダム／オランダ)

出版社・発行者 Uitgeverij Contact (コンタクト出版社)

発行・刊行年 1995 年

巻号 1

頁数 116 頁

### 序文・解説の内容と概略

『和泉式部日記』のオランダ語訳。副題は Your cold heart is silent (zwijgt はドイツ語の schweigt) の意ではあるものの、和歌の訳にこの通りの歌は見当らない。ただ、前半の jouw koude hart は宮の「開けざりしまきの戸口に」の歌の下句「つらき心」の訳として見える。訳者の行は Translation and foreword I.S. の意。冒頭の「緒言」(35 頁) はかなり詳しく、「和泉式部日記」(内容の要点)、「和泉式部の生涯」(和歌も引いて詳細)、「宮廷文化の背景」(制度や宗教)、「(当時の)政界」、「男女関係」、「詩歌」(日記中のその機能)、「女性たちが文学に重要な地位を占めた理由」「日記文学(※原文は Memoires)のジャンル」「和泉式部像の受容」となる。

**翻訳に用いた底本情報** 鈴木知太郎・川口久雄・遠藤嘉基・西下経一校注『日本古典文学大系 20 土佐日記・かげろう日記・和泉式部日記・更級日記』(岩波書店、1957 年)

**翻訳内容の構成、章立** 本文はわかりやすい現代語と見られ、主人公は「彼女 ze」としている。和歌各句の音節数を守られ

ていない。説明を要する状況や人名・修辭その他の事項の説明は脚注に記す。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 円地文子・鈴木一雄著『全講和泉式部日記』(至文堂、1965 年)

索引の有無 —

メモ 翻訳者はライデン大学教官、平安文学専攻である。かつて東大に留学し、すでに *The Pursuit of Loneliness — Chinese and Japanese Nature Poetry in Medieval Japan*, F. Steiner, 1995 の英文著書がある(※この「中世」はほぼ 12 ～ 16 世紀を言う)。

## 更 級 日 記

---

### *Als dauw op alsemladeren*

---

(よもぎの葉の上にある露のように)

翻訳者 Frits Vos (フリッツ・フォス)

出版地 Amsterdam (アムステルダム／オランダ)

出版社・発行者 Meulenhoff (ミューレンホフ)

発行・刊行年 1988 年

巻号 1

頁数 255 頁

序文・解説の内容と概略

『更級日記』のオランダ語訳。序文(7～13 頁)は翻訳者自身による。『更級日記』の成立・日記について述べ

る。さらに、『更級日記』に出てくる箇所の上総国（常陸国～山城国あたりまでの太平洋側中心に描く）を載せ、「1 Vertrekunt（出発点）上総国」～「23 奈良」までの道順を示す。

**翻訳に用いた底本情報** René Sieffert, *Journal de Sarashina*, Publications Orientalistes de France, 1978

### 翻訳内容の構成、章立

本文（15～168頁）は全訳で、5章立てである。

- ①「上洛の旅」、②「家居の記」、③「宮仕えの記」、
- ④「物詣での記」、⑤「晩年の記」

見開き左に、注を英訳で、本文をオランダ語で右側に掲載する。和歌5行書き。注（169～240頁）には、地名やお寺の解説、引歌を掲載。最後に御物本の『更級日記』の写本（冒頭から「あねまゝはゝなど」まで）を掲載。日本の文化（平安時代・室町時代・服飾）・中心地（京都）を紹介する。

### 図版、挿絵の有無

挿絵は、ライデン国立民俗博物館所蔵本である。具体的には、21頁、61頁、77頁の前に3箇所挿絵がある。21頁の絵は京都書林から1793年に刊行された、下河辺拾水による『新板絵入 伊勢物語』2巻の挿絵である。また、77頁の前にある挿絵は、表紙と同じ本の上巻の挿絵である。

### 参考文献の有無 —

### 索引の有無 —

**メモ** 表紙は浪速書院から1767年に刊行された、下河辺拾水画『新板絵入 伊勢物語 上下』（京都書林／小幡宗右衛門版）のうち、下巻冒頭にある歌人・伊勢の絵である。



# その他の言語

Catalonia, Czech, Danish and Bulgarian



# カタルーニャ語

## 紫式部日記

### *Diari*

(日記)

翻訳者 Dolors Farreny i Sistac (ドロールス・ファレニ・イ・シイ  
スタック)

出版地 Barcelona (バルセロナ／スペイン)

出版社・発行者 Edicions de l'Eixample (アシャンプラ版)

発行・刊行年 1990 年

巻号 1

頁数 108 頁

#### 序文・解説の内容と概略

解説は、底本の著者 René Sieffert (ルネ・シフェール) による。これは底本の解説の内容とほぼ同じである。解説では、現存する日本最古の「公事仮名日記」として藤原穩子の『太后御記』に触れる。ただし、それはあくまでも記録であり、文学作品としての最初の仮名日記は、紀貫之の『土左日記』であると述べる。また、『古今和歌集』や在原業平、『蜻蛉日記』、『和泉式部日記』、『紫式部日記』、『更級日記』、『成尋阿闍利母集』、『讃岐典侍日記』など代表的な日記作品を挙げて説明する。さらに、「作家」、「藤原道長と一条天皇」、「作品の歴史（本文について）」、「日記の内容」、「女性の服装についての注」と題して解説する。

翻訳に用いた底本情報 René Sieffert, *Journal*, Publications



Orientalistes de France, 1978

**翻訳内容の構成、章立** フランス語訳からのカタルーニャ語への底本同様に「紫式部」を一人称で書く。和歌の構成も同じで5行書きである。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** 底本の他に、藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫校注訳『日本古典文学全集 18 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』（小学館、1974 年、初版は 1971 年）を参照したとする。

**索引の有無** —

**メモ** 表紙は、Salvador Saura と Ramon Torrente による大写しの引き目かぎ鼻の女性の顔である。

# チェコ語

## 和泉式部日記・和泉式部集

### *Závoje mlhy - deník a verše dvorní dámy*

(霞（霧）のヴェール—宮廷婦人の日記と詩)

翻訳者 Zdenka Švarcová (ズデンカ・シュヴァルツォヴァー)

出版地 Praha (プラハ／チェコ)

出版社・発行者 Paseka (パセカ)

発行・刊行年 2002 年

巻号 1

頁数 139 頁

#### 序文・解説の内容と概略

和泉式部の日記と歌のチェコ語訳。タイトルの後半は Veil of mist (霞／霧のヴェール、後述する「正集」105 番の歌句「霞の閉づる（白河の関）」から採ったもの)、副題は Diary and poems of [a] court lady の意味である。「奔放な女流歌人」と題する冒頭の短い (6 頁)「序説」は、『紫式部日記』での和泉式部評に始まり、時代環境と略伝を述べる。

#### 翻訳に用いた底本情報 —

#### 翻訳内容の構成、章立

3つの内容から構成されている。

- (1) 帥宮敦道親王との関係を「家集」(正集、新編国歌大観本で 98～105 番、岩波文庫本では 99～106 番、その中の藤原公任の歌を親王の作と誤るものあり)の歌群の訳(長短不定の 5 行)で説く。

(2)「宮廷女性の日記」の項目に『和泉式部日記』全文の訳を載せ、史実や引歌等のうちのいくつかは巻末の「注」で説明する。

(3)「宮廷女性の歌」は122首とその詞書の訳で、「続集」38～159番歌（岩波文庫本940～1061番歌）を一続きに訳したものとわかる。帥宮追慕の歌が多いので採ったのであろう。

**図版、挿絵の有無** —

**参考文献の有無** —

**索引の有無** —

**メモ**

巻末に「[仏] 像と寺院（後記）」と題した平安中期までの日本文学とこの作品・ジャンルのごく簡略な解説（訳者）、ならびに「幕の巨匠（巻物への注）」と題して平安朝絵巻から狩野派・土佐派にいたる画法の略説（H・ホンツォオポーヴァ）を付す。

# デンマーク語

## 浜松中納言物語

*Evigt elskes kun det tabte: Hamamatsu chunagon monogatari, en japansk roman fra 1000-tallet oversat til dansk af*

(去りしもの、故に永遠に愛し：浜松中納言物語、

1000 年の日本の小説のデンマーク語翻訳)

翻訳者 Charlotte Rohde (シャロデ・ローゼ)、Lone Takeuchi  
(ローネ・タケウチ)

出版地 Copenhagen (コペンハーゲン／デンマーク)

出版社・発行者 Akademisk Forlag (アカデミスク出版)

発行・刊行年 1981 年

巻号 1

頁数 205 頁

序文・解説の内容と概略

解説(1～4頁)は翻訳者自身による。まず、『浜松中納言物語』の登場人物である中納言や大君を取り上げて、物語の内容を解説する。また、「biwa (琵琶)」、「sho (笙)」をデンマーク語で「panfløjteagtigt (パンパイプ)」と表現し、吹奏楽器の説明をする。福田秀一・伊井春樹両氏への謝辞を述べる。

翻訳に用いた底本情報 遠藤嘉基・松尾聡校注『日本古典文学大系 77 篁物語・平中物語・浜松中納言物語』(岩波書店、出版年不明) ※初版は 1964 年

## 翻訳内容の構成、章立

本文（11～176頁）は、「はしがき」、「登場人物」、「散逸首巻の梗概」、「本文5巻」、「注」の順である。翻訳部分「本文5巻」に関しては、原文の『浜松中納言物語』冒頭、石山詣での記述には登場人物の名前は明記されていない。しかし本書では、「中納言」と「大将の大君」とが石山詣でをしたことを本文に表記し、わかりやすく訳出している。また、『浜松中納言物語』冒頭の和歌中の「鳩（にほ）の海」は、「Nio-søens」と直訳するものの、それが琵琶湖を示すという注記はない。全5巻を翻訳し、和歌についても、詳細になるべく原典に沿って訳す。2・3行書きと不統一である。

巻末には、タケウチ「物語の周辺、日本の古典文学」（177～190頁）、ローゼ「『浜松中納言物語』「去りしもの、故に永遠に愛し」について」（191～203頁）と題した翻訳者ふたりの論文を掲載している。

図版、挿絵の有無 -

参考文献の有無 -

索引の有無 -

メモ

表紙は、『隆房卿艶詞絵巻（Takafusa-kyo tsuyakotoba emaki）』（国立歴史民族博物館蔵、鎌倉時代中期）の白描技法（はくびようぎほう）である。表紙にはこの絵巻の第2段「隆房と小督の逢瀬」の物思いに沈む隆房、裏表紙には小督を描く。出典は、小松茂美編『日本絵巻大成 10 葉月物語絵巻・枕草子絵詞・隆房卿艶詞絵巻』（中央公論社、1978年）。

# ブルガリア語

## 枕草子

### *Записки под възглавката*

英語文字表記：Zapiski pod būor"zglavkata

(枕の下の記録)

翻訳者 Tsvetana Kristeva (ツベタナ・クリステワ)

出版地 Sofia (ソフィア／ブルガリア)

出版社・発行者 Narodna Kultura (国立文化)

発行・刊行年 1985 年

巻号 1

頁数 365 頁

#### 序文・解説の内容と概略

解説（5～23 頁）は翻訳者自身による。「枕の下の世界」と題して、平安時代の社会情勢（荘園などを取り上げる）、文化（衣装や楽器について）、女流文学、清少納言の家系、清少納言の「をかし」と紫式部の「もののあはれ」の比較、平安時代とそれ以降の随筆文学、『枕草子』の章段の分類と「をかし」の意味の説明、諸本について解説する。

**翻訳に用いた底本情報** 解説の最後に松浦貞俊・石田穰二訳注『角川文庫 枕草子』（角川書店、1965～1966 年）の記載がある。なお、この本の底本は三巻本である。

**翻訳内容の構成、章立** 本文（25～337 頁）は、289 の章段と跋文（「終わりに」と題する）の訳を収める。注（339～365 頁）は、全章段分をまとめて巻末に置く。

図版、挿絵の有無 —

参考文献の有無 —

索引の有無 —

メモ 翻訳者クリステワは、国際基督教大学教授である。日本文化・日本古典文学に関する多くの論文を発表するほか、『と  
はずがたり』のブルガリア語訳を手掛けた。

# 翻譯史

Translation history







| 西暦   | 原作／言語                                                                                                    | 翻訳者名，翻訳書名（作品名，掲載誌），出版社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1875 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                                                                            | August Pfizmaier, <i>Die Aufzeichnungen der japanischen Dichterin, Sei Seo-Na-Gon</i> , In Commission bei K. Gerold's Sohn                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 1879 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                                                                           | Rudolf Lange, <i>Das Taketori Monogatari, oder, Das Mädchen aus dem Monde</i> , Echo du Japon                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 1880 | 『竹取物語』<br>イタリア語                                                                                          | Antelmo Severini, <i>Il Taketori Monogatari, ossia, La fiaba del nonno tagliabambù</i> , Le Monnier                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1884 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                                                                                          | Rudolf Lange, <i>Altjapanische Frühlingslieder aus der Sammlung Kokinwakashu</i> , Weidmannsche Buchhandlung                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1885 | 『和泉式部日記』<br>ドイツ語                                                                                         | August Pfizmaier, Erklärung des Tagebuches Idzmi-Siki-Bu., <i>German books on Japan 1477 to 1945 / compiled by Markus Koller and Max Spindler = Deutschsprachige Schriften zu Japan 1477 bis 1945</i> , Carl Gerold's Sohn                                                                                                                                                                                                                                              |
| 1910 | 『古今和歌集』<br>『土左日記』<br>『竹取物語』<br>『伊勢物語』<br>『大和物語』<br>『源氏物語』<br>『今昔物語集』<br>『枕草子』『大鏡』<br>『栄花物語』（抄訳）<br>フランス語 | Michel Revon, KOKINNSHOU, TOÇA NIKKI(Journal de Toça), TAKÉTORI MONOGATARI(Conte du Cueilleur de bambous), ICÉ MONOGATARI(Contes d'Icé), YAMATO MONOGATARI(Contes du Yamato), GHENJNI MONOGATARI(Roman de Ghennji), KONNJAKOU MONOGATARI(Contes d'il y a longtemps), MAKOURA NO SÔSHI(Notes de l'oreiller), EIGWA MONOGATARI(Récit de splendeur), OH-KAGAMI(le Grand Miroir), <i>Anthologie de la littérature japonaise : des origines au XXe siècle</i> , C. Delagrave |
| 1919 | 『古今和歌集』<br>『土左日記』<br>『竹取物語』<br>『伊勢物語』<br>『大和物語』<br>『源氏物語』<br>『今昔物語集』<br>『枕草子』『大鏡』<br>『栄花物語』（抄訳）<br>フランス語 | Michel Revon, KOKINNSHOU, TOÇA NIKKI(Journal de Toça), TAKÉTORI MONOGATARI(Conte du Cueilleur de bambous), ICÉ MONOGATARI(Contes d'Icé), YAMATO MONOGATARI(Contes du Yamato), GHENJNI MONOGATARI(Roman de Ghennji), KONNJAKOU MONOGATARI(Contes d'il y a longtemps), MAKOURA NO SÔSHI(Notes de l'oreiller), EIGWA MONOGATARI(Récit de splendeur), OH-KAGAMI(le Grand Miroir), <i>Anthologie de la littérature japonaise : des origines au XXe siècle</i> , C. Delagrave |
| 1923 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                                                                           | キューネル，不明，不明（※塚越敏「ドイツにおける日本古典の翻訳と現状」『かがみ』創刊号、1959年の報告より）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 1923 | 『土左日記』<br>ドイツ語                                                                                           | A. von Bosse, <i>Das Tosa Nikki : aus dem japanischen des Ki no Tsurayuki</i> , Müller                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1923 | 『古今和歌集』<br>『土左日記』<br>『竹取物語』<br>『伊勢物語』<br>『大和物語』<br>『源氏物語』<br>『今昔物語集』<br>『枕草子』『大鏡』<br>『栄花物語』（抄訳）<br>フランス語 | Michel Revon, KOKINNSHOU, TOÇA NIKKI(Journal de Toça), TAKÉTORI MONOGATARI(Conte du Cueilleur de bambous), ICÉ MONOGATARI(Contes d'Icé), YAMATO MONOGATARI(Contes du Yamato), GHENJNI MONOGATARI(Roman de Ghennji), KONNJAKOU MONOGATARI(Contes d'il y a longtemps), MAKOURA NO SÔSHI(Notes de l'oreiller), EIGWA MONOGATARI(Récit de splendeur), OH-KAGAMI(le Grand Miroir), <i>Anthologie de la littérature japonaise : des origines au XXe siècle</i> , C. Delagrave |
| 1923 | 『伊勢物語』<br>ロシア語                                                                                           | Н.И. Конрада(Nikolai Iosifovich Konrad), <i>Исэ-моногатари : лирическая повесть древней Японии(Ise Monogatari: Iaponskaia Povest Nachala X Veka)</i> , Всемирная литература                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 1925 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                                                                                          | Karl Florenz, <i>Wörterbuch zur altjapanischen Liedersammlung Kokinshū</i> , Friederichsen & Co                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|      |                                        |                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1925 | 『和泉式部日記』<br>『紫式部日記』<br>『更級日記』<br>フランス語 | Marc Logé, <i>Journaux intimes des dames de la cour du vieux Japon</i> (Journal d'Izumi Shikibu), <i>Collection d'auteurs étrangers</i> , Librairie Plon                                                                          |
| 1928 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                        | Alexander Chanoch, Die altjapanische Jahreszeitenpoesie aus dem Kokinshū, <i>Veröffentlichungen des Seminars für Sprache und Kultur Japans an der Hamburgischen Universität</i> Nr. 2, Verlag der Asia Major                      |
| 1930 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                        | Alexander Chanoch, Altjapanische Liebespoesie aus dem Kokinshū, <i>Asia Major / editores, Bruno Schindler et Friedrich Weller</i> v. 6, fasc. 1//b, Verlag der Asia Major                                                         |
| 1932 | 『伊勢物語』<br>ドイツ語                         | Fritz Rumpf, <i>Das Ise monogatari von 1608 und sein Einfluss auf die Buchillustration des XVII. Jahrhunderts in Japan</i> , Würfel Verlag                                                                                        |
| 1932 | 『続日本紀』<br>ドイツ語                         | Herbert Zachert, Die kaiserlichen Erlasse des Shoku-Nihongi : in Text und Übersetzung mit Erläuterungen, <i>eröffentlichungen des Seminars für Sprache und Kultur Japans an der Hamburgischen Universität</i> , Nr. 3, Asia Major |
| 1933 | 『続日本紀』<br>ドイツ語                         | Herbert Zachert, <i>Die kaiserlichen Erlasse des Shoku-Nihongi : in Text und Übersetzung mit Erläuterungen</i> , Asia Major                                                                                                       |
| 1933 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Introduction au Kokinshū, <i>Bulletin de la Maison franco-japonaise</i> = 日佛會館學報 <i>sér. française</i> , t. 5, no 4, Maison franco-japonaise                                                                     |
| 1933 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Kokinshū, <i>Annales du Musée Guimet . Bibliothèque d'études</i> ; 45-47, Paul Geuthner                                                                                                                          |
| 1933 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Le Kokinshū : le monument poétique de Heian v. 1, <i>Yoshino : collection japonaise pour la présentation de textes poétiques</i> t. 5, Paul. Geuthner                                                            |
| 1933 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, <i>Préface au Kokinshū, Annales du Musée Guimet</i> , . <i>Bibliothèque d'études</i> ; t. 45, Paul. Geuthner                                                                                                     |
| 1933 | 『古今和歌集序』<br>フランス語                      | Georges Bonneau, <i>Kokinshū-jo : essai d'édition critique</i> , s.n.                                                                                                                                                             |
| 1933 | 『土左日記』<br>『古今和歌集』<br>フランス語             | René Sieffert, Le journal de Tosa ; Poèmes du Kokin-shū, <i>Collection Tama</i> , Publications orientalistes de France                                                                                                            |
| 1934 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Chefs-d'oeuvre du Kokinshū, <i>Annales du Musée Guimet</i> , . <i>Bibliothèque d'études</i> ; t. 46, Paul. Geuthner                                                                                              |
| 1934 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Le Kokinshū : le monument poétique de Heian v. 2, <i>Yoshino : collection japonaise pour la présentation de textes poétiques</i> t.6, Paul. Geuthner                                                             |
| 1934 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, <i>Texte intégral du Kokinshū : avec les commentaires originaux, d'après Kaneko Genshin, édition de Shōwa</i> , Paul. Geuthner                                                                                   |
| 1934 | 『枕草子』<br>フランス語                         | André Beaujard, <i>Notes de chevet de Séi Shōnagon', dame d'honneur au palais de Kyōto (traduction in extenso de l'ancien texte japonais) Avec une préface de son excellence, G.-P. Maisonneuve</i>                               |
| 1935 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                         | Uto Masazo Shimada (島田昌三) , Friedrich Wilhelm Mohr, <i>Der Bambussammler: Märchen aus Alt-Japan(Taketori Monogatari)</i> , Weidmannsche Buchhandlung                                                                              |
| 1935 | 『古今和歌集』<br>フランス語                       | Georges Bonneau, Le Kokinshū : le monument poétique de Heian v. 3, <i>Yoshino : collection japonaise pour la présentation de textes poétiques</i> t.7, Paul. Geuthner                                                             |

|      |                                           |                                                                                                                                                                                                      |
|------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1936 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                            | Butscher Chlothilde, 伊東勉, 竹取物語: 獨譯 = <i>Die Geschichte von Taketori</i> , 大学書林                                                                                                                       |
| 1936 | 『上宮聖徳法王帝説』<br>ドイツ語                        | Hermann Bohner, Shōtoku Taishi, <i>Mitteilungen der Deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens</i> , Bd. 29, Deutsche Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens             |
| 1943 | 『空海僧都伝』<br>『白箸翁伝』<br>ドイツ語                 | Hermann Bohner, Kōbō Daishi, <i>Monumenta Nipponica</i> 6-1, 2, Sophia University                                                                                                                    |
| 1944 | 『枕草子』<br>ドイツ語                             | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Heimeran                                                                                                                              |
| 1946 | 『枕草子』(抄訳)<br>『紫式部日記』<br>『和泉式部日記』<br>イタリア語 | A cura di Giorgia Valensin, Diari di dame di corte nell'antico Giappone, エイナウディ新世界叢書第 112 冊, Giulio Einaudi editore                                                                                  |
| 1948 | 『土左日記』<br>ドイツ語                            | A. von Bosse, Das Tosa Nikki, <i>Die Weltliteratur Japan</i> ; Nr. 26, Müller & Kiepenheuer                                                                                                          |
| 1950 | 『続日本紀』<br>ドイツ語                            | Herbert Zachert, Semmyō : die kaiserlichen Erlasse des Shoku-Nihongi, <i>Veröffentlichung / Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin, Institut für Orientforschung Nr. 4</i> , Akademie-Verlag |
| 1952 | 『枕草子』<br>ドイツ語                             | Mamoru Watanabé (渡辺護), <i>Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon</i> , <i>Manesse Bibliothek der Weltliteratur</i> , Manesse                                                                    |
| 1953 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                            | Schwarz-Okuno, Johanna-Maria, Die Jungfrau vom Geschmeidigen Bambus / altjapanisches Märchen, <i>Universal-Bibliothek</i> ; Nr. 7800, Reclam                                                         |
| 1953 | 『竹取物語』<br>フランス語                           | René Sieffert, Études d'ethnographie japonaise : le conte du Coupeur de Bambous, 日佛會館學報 <i>Nouvelle Série Tome 2</i> , Maison franco-japonaise                                                       |
| 1953 | 『竹取物語』<br>フランス語                           | René Sieffert, <i>Le Conte du coupeur de bambous</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                          |
| 1953 | 『枕草子』(抄訳)<br>『紫式部日記』<br>『和泉式部日記』<br>イタリア語 | A cura di Giorgia Valensin, Diari di dame di corte nell'antico Giappone, <i>Universale Einaudi</i> , 17, Einaudi                                                                                     |
| 1954 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                            | Schwarz-Okuno, Johanna-Maria, Die Jungfrau vom Geschmeidigen Bambus / altjapanisches Märchen, <i>Universal-Bibliothek</i> ; Nr. 7800, Reclam                                                         |
| 1955 | 『蜻蛉日記』<br>ドイツ語                            | Satoshi Tsukakoshi (塚越敏), <i>Kagero nikki : Tagebuch einer japanischen Edelfrau ums Jahr 980</i> , Max. Niehans                                                                                      |
| 1956 | 『今昔物語集』<br>ドイツ語                           | Satoshi Tsukakoshi (塚越敏), <i>Konjaku : altjapanische Geschichten aus dem Volk zur Heian-Zeit</i> , Max. Niehans                                                                                      |
| 1957 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                            | Schwarz-Okuno, Johanna-Maria, Die Jungfrau vom Geschmeidigen Bambus / altjapanisches Märchen, <i>Universal-Bibliothek</i> ; Nr. 7800, Reclam                                                         |
| 1957 | 『伊勢物語』<br>ドイツ語                            | Oscar Benl, <i>Liebesgeschichten des japanischen Kavaliers Narihira : aus dem Ise-Monogatari</i> , C. Hanser                                                                                         |
| 1959 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                            | Schwarz-Okuno, Johanna-Maria, Die Jungfrau vom Geschmeidigen Bambus / altjapanisches Märchen, <i>Universal-Bibliothek</i> ; Nr. 7800, Reclam                                                         |

|      |                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1959 | 『今昔物語集』<br>フランス語                                             | Satoshi Tsukakoshi (塚越敏), Arnel Guerne, Konjaku récits traduits pour la première fois par Satoshi Tsukakoshi ; version française établie par Arnel Guerne et revue sur les textes originaux, <i>La fable du monde</i> , Delpeire                                                                                                                                         |
| 1960 | 『小野小町集』<br>ドイツ語                                              | Peter Weber-Schäfer, Ono no Komachi : Gestalt und Legende im Nō-Spiel, <i>Studien zur Japanologie / herausgegeben von Horst Hammitzsch, Bd. 2</i> , Otto Harrassowitz                                                                                                                                                                                                    |
| 1960 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                                | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Insel                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1961 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                                | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Heimeran                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1961 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>フランス語                                | Roger Lévy, Ennin's diary : the record of a pilgrimage to China in search of the law, <i>Journal d'un voyageur en Chine au IXe siècle</i> , Albin Michel                                                                                                                                                                                                                 |
| 1962 | 『小野小町集』<br>ドイツ語                                              | Peter Weber-Schäfer, Ono no Komachi; Gestalt und Legende im Nō-Spiel, <i>Studien zur Japanologie / herausgegeben von Horst Hammitzsch, Bd. 2</i> , Otto Harrassowitz                                                                                                                                                                                                     |
| 1962 | 『続日本紀』<br>『日本後紀』<br>『日本記略』<br>ドイツ語                           | Bruno Lewin, Rikkokushi : die amtlichen Reichsannalen Japans : die Regierungsannalen des Kammu-tennō Shoku-Nihongi 36-40 und Nihon-kōki 1-13 (780-806) / engeleitet, übersetzt und kommentiert von Bruno Lewin, <i>Mitteilungen der Deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens, Bd. 43</i> , Deutsche Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens |
| 1962 | 『伊勢物語』<br>(『源氏物語』)<br>『大和物語』<br>『今昔物語』<br>『堤中納言物語』<br>ポルトガル語 | Antônio Nojiri (アントニオ・野尻), <i>Maravilhas do Conto Japonês</i> , Editôra Cultrix                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 1962 | 『竹取物語』<br>『落窪物語』<br>ロシア語                                     | Веры Марковой(Vera Markova), <i>Две старинные японские повести(Dve Smarinnye Japonskie Povesti)</i> , Художественная лит-ра(Khudozhestvennaja literatura)                                                                                                                                                                                                                |
| 1963 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                               | Johanna-Maria Schwarz-Okuno, Die Jungfrau vom Geschmeidigen Bambus / altjapanisches Märchen, <i>Universal-Bibliothek ; Nr. 7800</i> , Reclam                                                                                                                                                                                                                             |
| 1963 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>ドイツ語                                 | Edwin O. Reischauer, <i>Die Reisen des Mönchs Ennin : Neun Jahre im China des neunten Jahrhunderts</i> , W. Kohlhammer                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1965 | 『伊勢物語』<br>『堤中納言物語』<br>『和泉式部日記』<br>ドイツ語                       | Oscar Benl, Ise-monogatari Das Tagebuch der Izumi Shikibu Tsutsumi-chunagon-monogatari, <i>Der Kirschblütenweig : japanische Liebesgeschichten aus tausend Jahren(Die Bücher der Neunzehn ; Bd. 132)</i> , Nymphenburger Verlagshandlung                                                                                                                                 |
| 1965 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>ドイツ語                                          | Horst Hammitzsch, Erzählungen des alten Japan : aus dem Konjaku-monogatari, <i>Universal-Bibliothek, Nr. 8960</i> , Reclam                                                                                                                                                                                                                                               |
| 1966 | 『更級日記』<br>ドイツ語                                               | Horst Hammitzsch, Ulrich Kemper, Sarashina-nikki : Tagebuch einer japanischen Hofdame aus dem Jahre 1060, <i>Universal-Bibliothek, Nr. 8996</i> , Reclam                                                                                                                                                                                                                 |
| 1966 | 『枕草子』<br>フランス語                                               | André Beaujard, Notes de chevet, <i>Connaissance de l'Orient</i> , 22, Gallimard                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 1966 | 『土左日記』<br>イタリア語                                              | Mario Scalise, Tosa nikki : Diario di Tosa(II Tosa Nikki di Ki-no-Tsurayuki), <i>Il Giappone VI</i> , IsMEO                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 1968 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                               | 松原久子, <i>Die Geschichte vom Bambussammler und dem Mädchen Kaguya</i> , Langewiesche-Brandt                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|      |                                                                                     |                                                                                                                                                                                |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1968 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>フランス語                                                                | Bernard Frank, <i>Histoires qui sont maintenant du passé (Konjaku monogatari shū), Connaissance de l'Orient</i> , 26, Gallimard                                                |
| 1968 | 『枕草子』<br>イタリア語                                                                      | Lidia Origlia, <i>Note del guanciale, I cento libri</i> , v. 20, Longanesi                                                                                                     |
| 1969 | 『伊勢物語』<br>フランス語                                                                     | Gaston. Renondeau, <i>Contes d'Ise : Ise monogatari, Connaissance de l'Orient</i> , 27(Collection Unesco d'œuvres représentatives, Série japonaise), Gallimard                 |
| 1970 | 『古今和歌集』<br>『後撰和歌集』<br>『拾遺和歌集』<br>『後拾遺和歌集』<br>『金葉和歌集』<br>『詞花和歌集』<br>『千載和歌集』<br>フランス語 | Jacques Roubaud, <i>Mono no aware : le sentiment des choses : cent quarante-trois poèmes empruntés au japonais</i> , Gallimard                                                 |
| 1970 | 『枕草子』(抄訳)<br>『紫式部日記』<br>『和泉式部日記』<br>イタリア語                                           | A cura di Giorgia Valensin, <i>Diari di dame di corte nell'antico Giappone</i> , エイナウディ新世界叢書第 112 冊, Giulio Einaudi editore                                                    |
| 1971 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>ドイツ語                                                                 | Horst Hammitzsch, <i>Erzählungen des alten Japan : aus dem Konjaku-monogatari, Universal-Bibliothek, Nr. 8960</i> , Reclam                                                     |
| 1971 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>中国語                                                         | 不明, 『入唐求法巡礼行記』, 文海出版社有限公司                                                                                                                                                      |
| 1972 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                                                      | Chlothilde Putscher, <i>Die Geschichte von Taketori</i> , 大学書林                                                                                                                 |
| 1972 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                                                                     | Jürgen Berndt, <i>Rotes Laub : altjapanische Lyrik</i> , Insel                                                                                                                 |
| 1972 | 『古今和歌集』<br>『後撰和歌集』<br>『拾遺和歌集』<br>『後拾遺和歌集』<br>『金葉和歌集』<br>『詞花和歌集』<br>『千載和歌集』<br>スペイン語 | Jacques Roubaud, <i>Mono no Aware el Sentimiento de las Cosas</i> , Miguel Castellote                                                                                          |
| 1973 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                                                      | Nelly Naumann, Wolfram Naumann, <i>Die Geschichte vom Bambussammler, Zauberschale</i>                                                                                          |
| 1973 | 『伊勢物語』<br>『大和物語』<br>『今昔物語』(抄訳)<br>『枕草子』<br>『紫式部日記』<br>『更級日記』<br>ドイツ語                | Nelly Naumann, Wolfram Naumann, <i>Die Zauberschale : Erzählungen vom Leben japanischer Damen, Mönche, Herren und Knechte</i> , Selections in German in Naumann, C. Hanser     |
| 1973 | 『作庭記』<br>フランス語                                                                      | Pierre Rambach, Suzanne Rambach, <i>Sakutei-ki : ou, Le livre secret des jardins japonais : version intégrale d'un manuscrit inédit de la fin du 12e siècle</i> , Albert Skira |
| 1974 | 『竹取物語』<br>中国語                                                                       | 左秀霊, 『竹取物語』, 名山出版社                                                                                                                                                             |
| 1975 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                                                       | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon, Insel-Bücherei, Nr. 998</i> , Insel                                                                                  |

|      |                                           |                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1975 | 『枕草子』<br>ロシア語                             | Веры Марковой(Vera Markova), <i>Записки у изголовья(Zapiski u izgolovia)</i> , Художественная лит-ра(Khudozhestvennii literatura)                                                                                                                         |
| 1976 | 『枕草子』<br>ロシア語                             | Веры Марковой(Vera Markova), Две старинные японские повести(Dve Smarinnye Iaponskie Povesmi), <i>Классическая проза Востока(Klassicheskaiâ proza Vostoka a)</i> , Худож. лит-ра(Khudozh. lit-ra,)                                                         |
| 1977 | 『枕草子』<br>ドイツ語                             | Helmut Bode, Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon, <i>Insel-Bücherei, Nr. 998</i> , Insel                                                                                                                                                             |
| 1977 | 『枕草子』<br>ルーマニア語                           | Stanca Cionca, <i>Însemnări de căpătii</i> , Editura Univers                                                                                                                                                                                              |
| 1978 | 『枕草子』<br>フランス語                            | André Beaujard, Notes de chevet, <i>Connaissance de l'Orient, 22</i> , Gallimard                                                                                                                                                                          |
| 1978 | 『紫式部日記』<br>フランス語                          | René Sieffert, <i>Journal</i> , Publications orientalistes de France                                                                                                                                                                                      |
| 1978 | 『更級日記』<br>フランス語                           | René Sieffert, <i>Le Journal de Sarachina</i> , Publications orientalistes de France                                                                                                                                                                      |
| 1979 | 『今昔物語集』<br>ドイツ語                           | Ingrid Schuster, Klaus Müller, Erzählungen des alten Japan : aus dem Konjaku-monogatari, <i>Universal-Bibliothek, Nr. 8960</i> , Reclam                                                                                                                   |
| 1979 | 『とりかへばや物語』<br>ドイツ語                        | Michael Stein, Das Torikaebaya-monogatari : Übersetzung und Bearbeitung, <i>Veröffentlichungen des Ostasiatischen Seminars der Johann Wolfgang Goethe-Universität, Frankfurt/Main, Reihe B, Ostasienkunde ; Bd. 8</i> , In Kommission bei O. Harrassowitz |
| 1979 | 『更級日記』<br>ドイツ語                            | Horst Hammitzsch, Ulrich Kemper, <i>Sarashina-nikki : Tagebuch einer japanischen</i> , Reclam                                                                                                                                                             |
| 1979 | 『大和物語』<br>『平中物語』<br>『今昔物語集』<br>フランス語      | René Sieffert, Contes de Yamato ; suivis du Dit de Heichû, <i>Les Œuvres capitales de la littérature japonaise, . Contes et romans du Moyen-Age</i> , Publications orientalistes de France                                                                |
| 1979 | 『伊勢物語』<br>スペイン語                           | Antonio Cabezas García, <i>Cantares de Ise</i> , Poesía Hiperión17, Ediciones Peralta                                                                                                                                                                     |
| 1979 | 『伊勢物語』<br>ロシア語                            | Н.И. Конрада(Nikolaï Iosifovich Konrad), Исэ моногатари(ISE MONOGATARI), <i>Литературные памятники(Literaturnye pamiatniki)</i> , Наука(Nauka)                                                                                                            |
| 1980 | 『作庭記』<br>フランス語                            | Martin Haussy, Arisawa Makoto, <i>Le Sakuteiki illustre, ou, La composition des jardins japonais</i> , Ichiyosha                                                                                                                                          |
| 1980 | 『伊勢物語』<br>フランス語                           | Gaston Renondeau, Cuentos de Ise (Ise Monogatari), <i>Paidós orientalia, 7</i> , Ediciones Paidós                                                                                                                                                         |
| 1981 | 『伊勢物語』<br>ドイツ語                            | Siegfried Schaarschmidt, <i>Das Ise-monogatari : Kavaliersgeschichten aus dem alten Japan</i> , Insel                                                                                                                                                     |
| 1981 | 『蜻蛉日記』<br>ドイツ語                            | Satoshi Tsukakoshi (塚越敏) , <i>Kagero nikki : Tagebuch einer japanischen Edelfrau ums Jahr 980</i> , Max. Niehans                                                                                                                                          |
| 1981 | 『枕草子』(抄訳)<br>『紫式部日記』<br>『和泉式部日記』<br>イタリア語 | A cura di Giorgia Valensin, <i>Diari di dame di corte nell'antico Giappone</i> , Giulio Einaudi editore                                                                                                                                                   |
| 1981 | 『浜松中納言物語』<br>デンマーク語                       | Charlotte Rohde, Lone Takeuchi, <i>Eviqt elskes kun det tabte; Hamamatsu chûnangon monogatari; en japansk roman fra 1000-tallet. Oversat til dansk af Charlotte Rohde og Lone Takeuchi</i> , Akademisk                                                    |

|      |                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1981 | 『古今和歌集』<br>ロシア語                                      | Александр Долин(Aleksandr Arkad'evich Dolin), <i>Кокинвакасю : собрание старых и новых песен Японии(Kokinwakasju:Sobranie starykh i novykh pesen Iaponii)</i> , Радуга(Raduga)                                                                                                             |
| 1982 | 『伊勢物語』<br>『堤中納言物語』<br>『和泉式部日記』<br>ドイツ語               | Oscar Benl, Ise-monogatari Das Tagebuch der Izumi Shikibu Tsutsumi-chunagon-monogatari, <i>Der Kirschblütenzweig: japanische Liebesgeschichten aus tausend Jahren</i> , Nymphenburger Verlagshandlung                                                                                      |
| 1982 | 『伊勢物語』<br>『とりかへばや物語』<br>『土左日記』<br>『和泉式部日記』<br>フランス語  | Ryôji Nakamura (中村 亮二), René de Ceccatty, Mille ans de littérature japonaise : une anthologie du VIIIe au XVIIIe siècle(Contes de la margelle du puits/Si je pouvais les intervertir/ Journal de Tosa/Journal de Izumi), <i>Collection Le Passé composé</i> , 3, Éditions de la différence |
| 1982 | 『文治二年十月<br>二十四日太宰権師<br>経房歌合』<br>『俊頼髄脳』『奥義抄』<br>フランス語 | Jacqueline Pigeot, Michiyuki-bun : poétique de l'itinéraire dans la littérature du Japon ancien, <i>Bibliothèque de l'Institut des hautes études japonaises</i> , G.-P. Maisonneuve et Larose                                                                                              |
| 1982 | 『大和物語』<br>ロシア語                                       | Л.М. Ермаковой(L.M.Ermakova), Ямато-моногатари(Īmato-monogatari / perevod s iāponskogo, issledovanie i kommentariĭ L.M. Ermakovoĭ. Īamato Monogatari), <i>Памятники письменности Востока 70(Пamiatniki pis'mennosti Vostoka ; 70 )</i> , Наука(Nauka)                                      |
| 1983 | 『古今和歌集』<br>スペイン語                                     | Carlo Antonio Castro, Norimitsu Tsubura (円正光), Kokinsyū (siglo X) : Flor de antigua poesia japonesa, <i>La Palabra y el Hombre. Nueva época</i> , 47, Universidad Veracruzana                                                                                                              |
| 1983 | 『更級日記』<br>ドイツ語                                       | Horst Hammitzsch, Ulrich Kemper, <i>Sarashina-nikki : Tagebuch einer japanischen</i> , Reclam                                                                                                                                                                                              |
| 1983 | 『古今和歌集』<br>中国語                                       | 杨烈,『古今和歌集』, 复旦大学出版社                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 1983 | 『枕草子』<br>ロシア語                                        | Веры Марковой(Vera.Markova), <i>Записки у изголовья(Zapiski u izgolov'ia)</i> , Худож. лит-ра(Khudozh. lit-ra)                                                                                                                                                                             |
| 1983 | 『土左日記』<br>『古今和歌集』<br>(紀貫之の歌)<br>ロシア語                 | Т.П. Григорьева(V.N.Goregliad, Tatiana Petrovna), Ки-но Цураюки(Ki-no TSuraiūki/Ki-no Tsurayuki), Писатели и ученые Востока(Pisateli i uchenye Vostoka), Наука(Nauka)                                                                                                                      |
| 1984 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                        | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Pendo                                                                                                                                                                                                                       |
| 1984 | 『落窪物語』<br>フランス語                                      | Simone Maclaure, Du conte au roman : un Cendrillon japonais du Xe siècle : l'Ochikubo monogatari, <i>Bibliothèque de l'Institut des hautes études japonaises</i> , Maisonneuve et Larose                                                                                                   |
| 1984 | 『本朝神仙伝』<br>イタリア語                                     | Silvio Calzolar, <i>Il dio incatenato : Honchō shinsen den di Ōe no Masafusa</i> , Sansoni                                                                                                                                                                                                 |
| 1984 | 『紫式部日記』<br>『紫式部集』<br>イタリア語                           | Alfredo Giuliani, Diario e Memorie Poetiche/ Murasaki Shikibu, <i>Tempo ritrovato</i> , Feltrinelli                                                                                                                                                                                        |
| 1984 | 『枕草子』<br>チェコ語                                        | Vera Markova, <i>Zápisky z volných chvíl : starojaponské literární zápisky</i> , Odeon                                                                                                                                                                                                     |
| 1985 | 『堤中納言物語』<br>ドイツ語                                     | Oscar Benl, Tsutsumi Chunagon Monogatari, <i>Der Kirschbluetenzweig</i> , Nymphenburger Verlag                                                                                                                                                                                             |
| 1985 | 『落窪物語』<br>フランス語                                      | Simone Maclaure, Du conte au roman : un Cendrillon japonais du Xe siècle : l'Ochikubo monogatari, <i>Bibliothèque de l'Institut des hautes études japonaises</i> , Maisonneuve et Larose                                                                                                   |



|      |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1985 | 『三教指帰』<br>フランス語                 | Allan Georges Grapard, <i>La Verite Finale des Trois Enseignements:Kukai</i> , Poiesis                                                                                                                                                              |
| 1985 | 『枕草子』<br>フランス語                  | André Beaujard, Notes de chevet, <i>Connaissance de l'Orient</i> , 5, Gallimard                                                                                                                                                                     |
| 1985 | 『伊勢物語』<br>スペイン語                 | Jorge N. Solomonoff, <i>Cuentos de Ise</i> , Hyspamérica                                                                                                                                                                                            |
| 1985 | 『伊勢物語』<br>イタリア語                 | Michele Marra, <i>I racconti di Ise : Ise monogatari</i> , Einaudi                                                                                                                                                                                  |
| 1985 | 『枕草子』<br>ブルガリア語                 | Цветана Кръстева (ツベタナ・クリステワ), Записки под възглавката (Zapiski pod būorzglavkata), <i>Библиотека лотос</i> , Народна култура                                                                                                                       |
| 1986 | 『増基法師集(熊野<br>紀行日記)』<br>ドイツ語     | Araki Emiko, Rudi Henning, <i>Bochumer Jahrbuch zur Ostasienforschung</i> 9, Iudicium Verlag                                                                                                                                                        |
| 1986 | 『枕草子』<br>ドイツ語                   | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Pendo                                                                                                                                                                                |
| 1986 | 『今昔物語集』<br>スペイン語                | Jorge González de León, Konjaku monogatari y otros textos, <i>Los Clásicos de la literatura, Japón, Sigro XI</i> , 4, Editorial Trillas                                                                                                             |
| 1986 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>中国語     | 顧承甫, 何泉达, 『入唐求法巡礼行記』, 上海古籍出版社                                                                                                                                                                                                                       |
| 1986 | 『枕草子』<br>オランダ語                  | Paul Heijman, <i>Dagboek / Sei Shōnagon</i> , Nijgh & Van Ditmar                                                                                                                                                                                    |
| 1986 | 『落窪物語』<br>『竹取物語』<br>ルーマニア語      | Alexandru Ivanescu, <i>Frumoasa Otikubo.</i> , Editura Univers                                                                                                                                                                                      |
| 1987 | 『本朝文粹(兼明親<br>王の菟裘賦)』<br>ドイツ語    | Wolfram Naumann, <i>Tokyuu no fu ('Reimprosa ueber T'u-ch'iu);eine chinesische Dichtung des Prizen Kaneakira(914-987)</i> , Begegnungen der Kulturen in Ost und West                                                                                |
| 1987 | 「虫愛づる姫君」<br>(『堤中納言物語』)<br>フランス語 | René de Cecatty, Ryoji Nakamura, <i>La Princesse qui aimait les chenilles</i> , Hatier                                                                                                                                                              |
| 1987 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>フランス語            | Bernard Frank, Histoires qui sont maintenant du passé (Konjaku-monogatari shū), <i>Connaissance de l'Orient</i> , 17, Unesco                                                                                                                        |
| 1987 | 『御堂関白記』<br>フランス語                | Francine Hérail, Notes journalières de Fujiwara no Michinaga, ministre à la cour de Heian (995-1018) : traduction du Midō kanpakuki, <i>Publications de l'École pratique des hautes études</i> 2. <i>Hautes études orientales</i> ; 23-24, 26, Droz |
| 1987 | 『紫式部日記』<br>『紫式部集』<br>フランス語      | René Sieffert, <i>Murasaki Shuikibu:Journal</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                                                                              |
| 1987 | 『伊勢物語』<br>スペイン語                 | Jorge N. Solomonoff, <i>Cuentos de Ise</i> , Hyspamérica                                                                                                                                                                                            |
| 1988 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>ドイツ語    | Edwin O. Reischauer, <i>Ennin's travels in T'ang China</i> , Ronald Press                                                                                                                                                                           |
| 1988 | 『枕草子』<br>ドイツ語                   | Mamoru Watanabé (渡辺護), <i>Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon</i> , Manesse                                                                                                                                                                 |
| 1988 | 『伊勢物語』<br>スペイン語                 | Jorge N. Solomonoff, <i>Cuentos de Ise, Paidós orientalia</i> , 7, Ediciones paidós                                                                                                                                                                 |
| 1988 | 『伊勢物語』<br>スペイン語                 | Antonio Cabezas García, <i>Cantares de Ise, Poesía Hiperión</i> 17, Ediciones Hiperión                                                                                                                                                              |

|      |                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1988 | 『枕草子』<br>中国語                                     | 周作人, 王以铸, 『日本古代随笔选』, 人民文学出版社                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1988 | 『更級日記』<br>オランダ語                                  | Frits Vos, <i>Als dauw op alsemladeren : het levensverhaal van een Japanse vrouw uit de elfde eeuw</i> , Meulenhoff                                                                                                                                                           |
| 1988 | 『竹取物語』<br>『落窪物語』<br>ロシア語                         | Веры Марковой(Vera Markova), Львова Ирина(L'vova.Irina), Повесть о прекрасной Отикубо : старинные японские повести : перевод со старояпонского(Povest' o prekrasnoi Otikubo), Библиотека японской литературы(Biblioteka iāponskoj literatury), Худож. лит-ра(Khudozh. lit-ra) |
| 1988 | 『枕草子』<br>ロシア語                                    | Веры Марковой(Vera Markova), <i>Записки у изголовья(Zapiski u izgolov'ia)</i> , Художественная лит-ра(Khudozhestvennaia literatura)                                                                                                                                           |
| 1989 | 『平中物語』<br>フランス語                                  | René Sieffert, Le dit de Heichû, <i>Collection tama</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                                                                                                |
| 1989 | 『堤中納言物語』<br>フランス語                                | Kubota Yoko, Le concubine floreali : storie del consigliere di mezzo di Tsutsumi, <i>Letteratura universale Marsilio</i> , . Mille gru : collana di classici giapponesi, Marsilio                                                                                             |
| 1989 | 『和泉式部日記』<br>『和泉式部集』<br>フランス語                     | René Sieffert, Journal et poèmes : Poèmes du Japon, <i>Les Œuvres capitales de la littérature japonaise</i> , Publication orientalistes de France                                                                                                                             |
| 1989 | 『枕草子』<br>中国語                                     | 林文月, 『枕草子』, 中外文學月刊社                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 1990 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                   | Nelly Naumann, Wolfram Naumann, Die Geschichte vom Bambussammler, <i>Übersetzung aus dem Japanischen</i> , C. Hanser                                                                                                                                                          |
| 1990 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                    | Nelly Naumann, Wolfram Naumann, Die Zauberschale : Erzählungen vom Leben japanischer Damen, Mönche, Herren und Knechte, <i>Selections in German in Naumann</i> , C. Hanser                                                                                                    |
| 1990 | 『枕草子』(抄訳)<br>『紫式部日記』<br>『和泉式部日記』<br>イタリア語        | A cura di Giorgia Valensin, Diari di dame di corte nell'antico Giappone, <i>Gli struzzi</i> , 375, Giulio Einaudi editore                                                                                                                                                     |
| 1990 | 『紫式部日記』<br>カタルーニャ語                               | Dolors Farreny I Sistac, Diari, <i>Espai de dones, Clàssiques 2</i> , Edicions de l'Eixample                                                                                                                                                                                  |
| 1990 | 『枕草子』<br>ギリシャ語                                   | Κατερίνα Παπανικολαού(Katerina Papanikolaou), Σωκράτης Λ. Σκαρτσής(Sōkratēs L Skartsēs), Σει Συναγών, Το βιβλίο του μαξιλιάρου, <i>Τα κείμενα των λαών</i> , 10, Εκδόσεις Καστανιώτη                                                                                          |
| 1991 | 『古本説話集』<br>ドイツ語                                  | Niels Gülbeg, Zur Typologie der mittelalterlichen japanischen Lehrdichtungen : Vorüberlegungen anhand des Kohon setsuwashû, <i>Münchener ostasiatische Studien, Bd. 58</i> , Steiner                                                                                          |
| 1991 | 『和泉式部日記』<br>『和泉式部集』<br>フランス語                     | Fumi Yosano, Poèmes de cour, <i>Orphée</i> , 91, La Différence                                                                                                                                                                                                                |
| 1991 | 『今昔物語集』<br>『宇治拾遺物語』<br>『十訓抄』<br>『古今著聞集』<br>イタリア語 | Irene Iarocci, Memorie della luna : storie e leggende dell'antico Giappone, <i>Teadue</i> , 640, TEA                                                                                                                                                                          |
| 1992 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                    | Mamoru Watanabé (渡辺護), Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon, <i>Manesse Bibliothek der Weltliteratur</i> , Manesse                                                                                                                                                     |
| 1992 | 『竹取物語』<br>フランス語                                  | René Sieffert, Le Conte du Coupeur de bambous, <i>Collection tama</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                                                                                  |

|      |                                                 |                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1992 | 『落窪物語』<br>イタリア語                                 | Andrea Maurizi, Storia di Ochikubo (Ochikubo monogatari), <i>Letteratura universale Marsilio</i> , . Mille gru : collana di classici giapponesi, Marsilio editori                                                         |
| 1992 | 『即身成仏義』<br>『声字実相義』<br>『咄字義』<br>『般若心経秘見』<br>ドイツ語 | Eihō Kawahara (川原栄峰), C. Yūhō Jobst, <i>Ausgewählte Schriften : Sokushin-jōbutsu-gi, Shōji-jissō-gi, Unji-gi, Hannya-shingyō-hiken</i> , Iudicium                                                                         |
| 1993 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                   | Mamoru Watanabé (渡辺護), Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon, <i>Manesse im dtv, 24005</i> , Manesse                                                                                                                |
| 1993 | 『更級日記』<br>ドイツ語                                  | Horst Hammitzsch, Ulrich Kemper, <i>Sarashina-nikki : Tagebuch einer japanischen</i> , Reclam                                                                                                                             |
| 1993 | 『古今和歌集』<br>『土左日記』<br>フランス語                      | René Sieffert, <i>Le Journal de Tosa ; Poèmes du Kokin-shū</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                                     |
| 1993 | 『往生要集』<br>フランス語                                 | Ryoko Asuka Lequier, Janique. Caillet Laurence, <i>Vers la terre pure : oeuvres classiques du bouddhisme japonais</i> , L'Harmattan                                                                                       |
| 1993 | 『和泉式部日記』<br>中国語                                 | 林文月, 「和泉式部日記」, 『純文學叢書』184, 純文學出版社                                                                                                                                                                                         |
| 1994 | 『落窪物語』<br>ドイツ語                                  | Christoph Langemann, Verena Werner, Die Geschichte der ehrenwerten Ochikubo, <i>Manesse Bibliothek der Weltliteratur</i> , Manesse                                                                                        |
| 1994 | 『とりかへばや物語』<br>ドイツ語                              | Michael Stein, Die vertauschten Geschwister : Ein höfischer Roman aus dem Japan des 12. Jahrhunderts, <i>Japanische Bibliothek im Insel Verlag</i> , Insel                                                                |
| 1994 | 『竹取物語』<br>イタリア語                                 | Adriana Boscaro, <i>Storia de un tagliabambu</i> , Marsilio editori                                                                                                                                                       |
| 1994 | 『平中物語』<br>フランス語                                 | René Sieffert, Le dit de Heichū, <i>Collection tama</i> , Publications Orientalistes de France                                                                                                                            |
| 1994 | 『春記』<br>フランス語                                   | Francine Hérail, <i>Notes de l'hiver 1039: Fujiwara no Sukefusa</i> , Le Promeneur                                                                                                                                        |
| 1994 | 『蜻蛉日記』<br>ロシア語                                  | Горегляд, Владислав, Никанорович (Goregliād, Vladislav Nikanorovich), Дневник эфемерной жизни : Карэро никки (Dnevnik efemernoj zhizni : Kagero nikki), Памятники культуры Востока, 2, Центр Петербургское Востоковедение |
| 1995 | 『堤中納言物語』<br>フランス語                               | Kubota Yoko, Le concubine floreali : storie del consigliere di mezzo di Tsutsumi, <i>Letteratura universale Marsilio</i> , . Mille gru : collana di classici giapponesi, Marsilio                                         |
| 1995 | 『和泉式部日記』<br>オランダ語                               | Ivo Smits, <i>Jouw koude hart zwijgt : memoires</i> , Uitgeverij Contact                                                                                                                                                  |
| 1995 | 『古今和歌集』<br>ロシア語                                 | Долин, Александр, Аркадьевич (Aleksandr Arkad'evich Dolin), <i>Кокинакасю : собрание старых и новых песен Японии : т. 1:т. 2:т. 3, А/О Изд-воРадуга</i>                                                                   |
| 1995 | 『枕草子』<br>ロシア語                                   | Веры Марковой (Vera Markova), Записки у изголовья (Zapiski u izgolov'ia), Толк (Tolk)                                                                                                                                     |
| 1996 | 『枕草子』<br>ドイツ語                                   | Mamoru Watanabé (渡辺護), Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon, <i>Manesse Bibliothek der Weltliteratur</i> , Manesse                                                                                                 |
| 1996 | 『枕草子』<br>フランス語                                  | André Beaujard, Notes de chevet, <i>Connaissance de l'Orient</i> , 5, Gallimard                                                                                                                                           |

|      |                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1996 | 『紫式部日記』<br>ロシア語                                                       | A.H. Мещерякова(A.H.Meshcheriākov/Aleksandr Nikolaevich), ДНЕВНИК( Dnevnik), Японская классическая библиотека(Āronskaia klassicheskaia biblioteka ; 2 ), Гиперион(Giperion)                                                                                                                                                                                    |
| 1997 | 『傀儡子集』<br>『本朝無題詩』<br>ドイツ語                                             | Michael Stein, <i>Japans Kurtisanen : eine Kulturgeschichte der japanischen Meisterinnen der Unterhaltungskunst und Erotik aus zwölf Jahrhunderten</i> , Ludicum                                                                                                                                                                                               |
| 1997 | 『小野小町集』<br>『小野小町壮衰抄(玉造小町壮衰書』<br>フランス語                                 | Armen Godel , Koichi Kano (狩野晃一) , Visages cachés, sentiments mêlés : le livre poétique de Komachi, les cinq nô du cycle Komachi, le dit de Komachi, <i>Connaissance de l'Orient</i> 97, Gallimard                                                                                                                                                             |
| 1997 | 『落窪物語』<br>イタリア語                                                       | Andrea Mauriz, <i>Storia di Ochikubo</i> , Marsilio                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1997 | 『紫式部日記』<br>ロシア語                                                       | A.H. Мещерякова(A.H.Meshcheriākov/Aleksandr Nikolaevich) ДНЕВНИК( Dnevnik Murasaki Sikibu), Азбука классика(Azbuka-klassika), Азбука(Azbuka)                                                                                                                                                                                                                   |
| 1998 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>フランス語                                                  | Dominique Lavigne-Kurihara, <i>Histoires fantastiques du temps jadis, Picquier poche</i> , 237, Editions Philippe Picquier                                                                                                                                                                                                                                     |
| 1998 | 『今昔物語集』(抄訳)<br>フランス語                                                  | Dominique Lavigne-Kurihara, <i>Histoires d'amour du temps jadis, Picquier poche</i> , 254, Editions Philippe Picquier                                                                                                                                                                                                                                          |
| 1998 | 『和泉式部日記』<br>『紫式部日記』<br>『更級日記』<br>フランス語                                | Mark Logé, <i>Journaux des dames de cour du Japon ancien, Picquier poche</i> , 90, Editions Philippe Picquier                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 1998 | 『竹取物語』<br>スペイン語                                                       | Kayoko Takagi (高木香世子) , El cuento del cortador de bambú, <i>Pliegos de oriente, serie lejano oriente</i> , Trotta                                                                                                                                                                                                                                              |
| 1998 | 『竹取物語』<br>スペイン語                                                       | Kayoko Takagi (高木香世子) , El cuento del cortador de bambú, <i>Pliegos de oriente, serie lejano oriente</i> , Unesco                                                                                                                                                                                                                                              |
| 1998 | 『今昔物語集』<br>イタリア語                                                      | Irene Iarocci, <i>Memorie della luna : storie e leggende dell'antico Giappone, Teadue</i> , 640, Teadue                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 1998 | 『和泉式部日記』<br>中国語                                                       | 林文月, 「和泉式部日記」, 『三民叢刊』 155, 三民書局                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 1998 | 『枕草子』<br>ギリシャ語                                                        | Γιάννης Καυκίας(Giannēs, Kaukias), Το Κρυφό Ημερολόγιο(To krypho Ēmerologio) , Ξενέ λογοτεχνία, Εκδοτικός Οργανισμός Λιβάνη Νέα Σύνορα                                                                                                                                                                                                                         |
| 1998 | 『古今和歌集』<br>スロヴァキア語                                                    | Karol Strmeň, <i>Kokinšŭ : piesne z Cisárskeho úradu pre poéziu</i> , Petrus                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1999 | 『弁頭密二教論』<br>『般若心経秘見』<br>『蔵多宝鑑』<br>『即身成仏義』<br>『声字実相義』<br>『吽字義』<br>ロシア語 | A.Г. Фесюн](Andrei G.Fesein), <i>Кукай : избранные труды (с приложением очерка истории развития эзотерического буддизма)( Kukai : izbrannye trudy : s prilozheniet ocherka istorii razvitiia ézotericheskogo buddizma / [sost., podgot. teksta i primech., ocherk po istorii ézotericheskogo buddizma, A.G. Fesiūn].)</i> , Серебряные нити(Serebriānye niti,) |
| 1999 | 『更級日記』<br>ロシア語                                                        | Ирины Мельниковой(Irina V. Melnikova), Сарасина никки : одинокая луна в Сарасина(Sarashina Nikki:Odinokaia Luna V Sarashina), Японская классическая библиотека, 9(Āronskaia klassicheskaia biblioteka ; 8), Гиперион(Giperion)                                                                                                                                 |
| 1999 | 『枕草子』<br>ロシア語                                                         | Веры Марковой(Vera Markova), Записки у изголовья : избранные страницы(Zapiski u izgolov'ia: izbrannye stranitsy), Азбука(Azbuka)                                                                                                                                                                                                                               |

|      |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1999 | 『枕草子』<br>ロシア語     | Веры Марковой(Vera Markova), Записки у изголовья :<br>избранные страницы(Zapiski u izголов'ĭā: izbrannye stranitsy),<br>Библиотека мировой литературы/Малая серия(Biblioteka<br>mirovoi literture Malaia seria), Кристалл(Kristall)                                                                                                                                                          |
| 2000 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語   | Peter Ackermann, Angelika Kretschmer, Die vier Jahreszeiten<br>: Gedichte aus dem Kokin Wakashū, <i>Japanische Bibliothek im<br/>Insel Verlag, Insel</i>                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2000 | 『古今和歌集』<br>イタリア語  | Sagiyama Ikuko (鷺山郁子), Kokin Waka shū : raccolta di<br>poesie giapponesi antiche e moderne, <i>Lapislazzuli, 3, Ariele</i>                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2000 | 『枕草子』<br>中国語      | 周作人,『枕草子 (zhen cao zi)』, 中国对外翻译出版公司                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2000 | 『枕草子』<br>中国語      | 林文月,「枕草子」,『洪範譯叢』7, 洪範書店 (洪範出版社)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 2000 | 『紫式部日記』<br>ロシア語   | A.N.МУРАСАКИ СИКИБУ(A.N.Meshsheryakova),<br>ДНЕВНИК(Dnevnik Murasaki Sikibu), <i>Японская классическая<br/>библиотека : 2(Японская классическая библиотека : 2 )</i> ,<br>Гиперион(Giperion)                                                                                                                                                                                                 |
| 2000 | 『紫式部日記』<br>ロシア語   | A.N.МУРАСАКИ СИКИБУ(A.N.Meshsheryakova),<br>ДНЕВНИК(Dnevnik), <i>Азбука классика(Azbuka-klassika)</i> ,<br>Азбука(Azbuka)                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2000 | 『伊勢物語』<br>ロシア語    | Н.И. Конрада(Nikolaĭ Iosifovich Konrad), Исэ моногатари<br>: древнеяпонская лирическая повесть( Isé monogatari :<br>iāronskaĭā povest' nachala X veka / [sostavlenie, podgotovka<br>teksta, izbrannye primechaniĭā i obshchaĭā redaktsiĭā R.V.<br>Grishchenkova]. ), <i>Библиотека мировой литературы/Малая<br/>серия(Biblioteka mirovoi literture Malaia seria)</i> ,<br>Кристалл(Kristall) |
| 2000 | 『大鏡』<br>ロシア語      | Е.М. Дьяконовой(D'ĭakonovoi, Eleny Mikhaĭlovny), О:карами :<br>великое зеркало(O:kagami : velikoe zertsālo), <i>Литературные<br/>памятники древней Японии; 6(Literaturnye pamiatniki drevnei<br/>Японii ; 6)</i> , Гиперион(Giperion)                                                                                                                                                        |
| 2001 | 『土左日記』<br>ドイツ語    | Peter Olbricht, Elegische Heimreise ein japanisches Tagebuch<br>aus dem Jahre 935, <i>Insel-Bücherei, Nr. 1222</i>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 2001 | 『堤中納言物語』<br>フランス語 | Renée Garde, <i>Contes du conseiller de la digue</i> , Philippe Picquier                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2001 | 『春記』<br>フランス語     | Francine Hérail, Notes journalières de Fujiwara no Sukefusa :<br>traduction du Shunki, <i>Publications de l'École pratique des hautes<br/>études, 2 . Hautes études orientales ; 35, 37 . Extrême-Orient ; 1</i> ,<br>3, Droz                                                                                                                                                                |
| 2001 | 『竹取物語』<br>スペイン語   | Kayoko Takagi (高木香世子), El cuento del cortador de bambú,<br><i>Pliegos de oriente, . Serie lejano oriente ; 1</i> , Trotta                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2001 | 『竹取物語』<br>スペイン語   | Kayoko Takagi (高木香世子), El cuento del cortador de bambú,<br><i>Pliegos de oriente, . Serie lejano oriente ; 1</i> , Unesco                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2001 | 『枕草子』<br>スペイン語    | Amalia Sato, El libro de la Almohada, <i>La Lengua, clásicos</i> ,<br>Adriana Hidalgo editora                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 2001 | 『作庭記』<br>イタリア語    | Paola Di Felice, Sakuteiki : annotazioni sulla composizione dei<br>giardini, <i>Saggi, 26</i> , Le Lettere                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2001 | 『枕草子』<br>中国語      | 周作人,「枕草子」,『苦雨斋译丛』, 中国对外翻译出版                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 2001 | 『古今和歌集』<br>ロシア語   | Долин, Александр, Аркадьевич)(Aleksandr Arkad'evich<br>Dolin), Кокинвакасё : собрание старых и новых песен<br>Японии(Kokinvakasū : sobranie starykh i novykh pesen Япониi),<br>Гиперион(Giperion)                                                                                                                                                                                            |

|      |                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2001 | 『新撰和歌集』<br>ロシア語                                | Ирины Бороиной(Irina Aleksandrovna Boronina), Синсэн вакасю : вновь составленное собрание японских песен(Sinsén vakasjū : vnov' sostavlennoe sobranie jāponских pesen), Японская классическая библиотека, 16, Гиперион(Giperion)                                                                                                                                                           |
| 2002 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語                                | Horst Arnold-Kanamori, Kokinwakashū : alte und neue japanische Lieder : eine Auswahl Ulmer Sprachstudien / herausgegeben von Günther Klotz und Christian Timm, Bd. 9 . Klassisches Japanisch ; 4, Kovač                                                                                                                                                                                    |
| 2002 | 『竹取物語』<br>スペイン語                                | Kayoko Takagi (高木香世子), El cuento del cortador de bambú, <i>Pliegos de oriente</i> , . Serie lejano oriente ; 1, Unesco                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2002 | 『枕草子』<br>スペイン語                                 | Iván A. Pinto Román, Oswaldo Gavidia Cannon, El libro de la almohada de la dama Sei Shōnagon, <i>Colección Orientalia / Centro de Estudios Orientales</i> , 6, Pontificia Universidad Católica del Perú, Fondo Editorial                                                                                                                                                                   |
| 2002 | 『古今和歌集』<br>イタリア語                               | Sagiyama Ikuko (鷺山郁子), Kokin Waka shū : raccolta di poesie giapponesi antiche e moderne, <i>Lapislazzuli</i> , 3, Ariele                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2002 | 『枕草子』<br>イタリア語                                 | Lidia Origlia, Note del guanciale, <i>Testi e documenti</i> , 108, Se Srl                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 2002 | 『枕草子』<br>中国語                                   | 于雷,「枕草子」,『東瀛美文之旅』,河北教育出版社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 2002 | 『蜻蛉日記』<br>『和泉式部日記』<br>『紫式部日記』<br>『更級日記』<br>中国語 | 林嵐,鄭民欽,「王朝女性日記」,『東瀛美文之旅』第3冊,河北教育出版社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2002 | 『和泉式部日記』<br>『和泉式部集』<br>チェコ語                    | Zdenka Švarcová, <i>Závoje mlhy : deník a verše dvorní dámy</i> , Paseka                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2002 | 『和泉式部日記』<br>『紫式部日記』<br>『更級日記』<br>ロシア語          | 不明, ДНЕВНИКИ ПРИДВОРНЫХ ДАМ ДРЕВНЕЙ ЯПОНИИ(Dnevniky pridvornykh dam drevnei Iaponii), Библиотека военной истории, Харвест                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 2002 | 『寛平御時后宮歌合』<br>ロシア語                             | A.Н. Мещерякова(A.Н.Meshcheriākov/Aleksandr Nikolaevich), Диалоги японских поэтов о временах года и любви : поэтический турнир проведённый в годы Кампё (889-898) во дворце императрицы(Dialogi jāponских poetov o vremenakh goda i liubvi : poeticheskii turnir provedënniy v gody Kampë (889-898) vo dvortse imperatritsy), Восточная коллекция(Vostochnaia kolektiia), Наталис(Natalis) |
| 2003 | 『上宮聖徳法王帝説』<br>『上宮太子菩薩伝』<br>ドイツ語                | Hermann Bohner, Jōgū-Shōtoku-Hō-Tei-Setsu ; Jōgū-Kwōtaishi-Bosatsu-Den, <i>German books on Japan 1477 to 1945</i> , K.G. Saur                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 2003 | 『竹取物語』<br>ドイツ語                                 | Horst Arnold-Kanamori, Taketorimonogatari : die Erzählung vom Bambussammler, Ulmer Sprachstudien / herausgegeben von Günther Klotz und Christian Timm, Bd. 12 . Klassisches Japanisch; 6, Kovač                                                                                                                                                                                            |
| 2003 | 『作庭記』<br>フランス語                                 | Michel Vieillard-Baron, <i>De la création des jardins : traduction du Sakutei-ki</i> , Maison franco-japonaise (日仏会館)                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 2003 | 『成尋阿闍梨母集』<br>フランス語                             | Bernard Frank, <i>Un malheur absolu</i> , Gallimard                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2003 | 『枕草子』<br>中国語                                   | 周作人,「枕草子」,『日本經典文學』11世紀;03,木馬文化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|      |                             |                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2003 | 『枕草子』<br>ハングル               | 정순분 (鄭順粉), 『枕草子와平安文学』, J&C                                                                                                                                                                                      |
| 2003 | 『枕草子』<br>ロシア語               | Веры Марковой(Vera Markova), Записки у изголовья(Zapiski u izgolov'ia), Азбука-классика(Azbuka-klassika)                                                                                                        |
| 2003 | 『とりかへばや物語』<br>ロシア語          | Марии Торопыгиной(Maria Toropygina), Ториказэбая моногатари : путаница(TORIKAEBAIA MONOGATAR I: Putanitsa), Японская классическая библиотека, 21(Японская классическая библиотека), Гиперион(Giperion)          |
| 2004 | 『作庭記』<br>ドイツ語               | Sabine Hesemann, Jirō Takei (武居二郎), Marc Peter. Keane, <i>Sakuteiki oder die Kunst des japanischen Gartens : die Regeln zur Anlage und Gestaltung aus den historischen Schriftrollen der Heian-Zeit</i> , Ulmer |
| 2004 | 『続日本紀』<br>ドイツ語              | Herbert Zachert, Die kaiserlichen Erlasse des Shoku-Nihongi : in Text und Übersetzung mit Erläuterungen, <i>Deutschsprachige Schriften zu Japan 1477 bis 1945</i> , K.G. Saur                                   |
| 2004 | 『竹取物語』<br>ドイツ語              | Chlothilde Putsche, 伊東勉, <i>Die Geschichte von Taketori</i> , K.G. Saur                                                                                                                                         |
| 2004 | 『古今和歌集』<br>ドイツ語             | Karl Florenz Adolf, <i>Wörterbuch zur altjapanischen Liedersammlung Kokinshū</i> , K.G. Saur                                                                                                                    |
| 2004 | 『古今和歌集』(抄訳)<br>ドイツ語         | Rudolf Lange, <i>Altjapanische Frühlingslieder aus der Sammlung Kokinwakashu</i> , K.G. Saur                                                                                                                    |
| 2004 | 『枕草子』<br>ドイツ語               | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , K.G. Saur                                                                                                                                        |
| 2004 | 『今昔物語集』<br>フランス語            | Francine Hérail, Konjaku monogatari-shū, <i>Gouverneurs de province et guerriers dans les histoires qui sont maintenant du passé</i> , Collège de Fran                                                          |
| 2004 | 『今昔物語集』<br>フランス語            | Dominique Lavigne-Kurihara, Histoires fantastiques du temps jadis, <i>Picquier poche</i> , 237, Editions Philippe Picquier                                                                                      |
| 2004 | 『竹取物語』<br>スペイン語             | Kayoko Takagi (高木香世子), <i>El cuento del cortador de bambú</i> , Letras universales, 370, Cátedra                                                                                                                |
| 2004 | 『土左日記』<br>スペイン語             | Ivan A. Pinto Roman, Hiroko Izumi Shimono (下野泉), Tosa Nikki: diario de Tosa, <i>Colección oriental</i> ; 10, Pontificia Universidad Católica                                                                    |
| 2004 | 『枕草子』<br>スペイン語              | Jorge Luis Borges María Kodama, El libro de la almohada, <i>El libro de bolsillo</i> , . Humanidades . Literatura ; 5647 . Clásicos, Alianza Editorial                                                          |
| 2004 | 『枕草子』<br>スペイン語              | Amalia Sato, <i>El libro de la almohada</i> , Adriana Hidalgo editora                                                                                                                                           |
| 2004 | 『枕草子』<br>ルーマニア語             | Stanca Cionca, Însemnări de căpătii, <i>RAO clasic</i> , RAO International Publishing                                                                                                                           |
| 2004 | 『竹取物語』<br>ヒンディー語            | 秋山虔監(修), 芳賀明夫(訳), 大澤和泉(画), 『竹取物語 : 現代日本語・ヒンディー語訳』, ハガエンタープライズ                                                                                                                                                   |
| 2004 | 『竹取物語』<br>ヒンディー語            | अकशि हागा (芳賀昭夫) 訳・इदुमी ओसावा (大澤和泉) 画, बांस काटने वाले की कहानी : तकेतोरी मोनोगातारी : जापानी परी कथा (Bāmsa kātane vāle kī kahānī : Taketōrī monogātārī : Jāpānī parī kathā), बुक्स इंडिया इंटरनेशनल         |
| 2004 | 『宇津保物語』<br>ロシア語             | В.И. Сисаури(V. I.Sisauri), Повесть о дупле : Уцухо-моногатари(Povest' o duple : utsukho-monogatari), <i>Восточная коллекция(Vostochnaia kollektsiia)</i> , Наталис(Natalis)                                    |
| 2004 | 『和泉式部集』<br>『和泉式部日記』<br>ロシア語 | Tatiana L. Sokolova-Deliusina, Собрание стихотворений : дневник, Японская классическая библиотека, Гиперион(Giperion)                                                                                           |
| 2004 | 『枕草子』<br>ロシア語               | Веры Марковой(Vera Markova), Записки у изголовья(Zapiski u izgolov'ia), Азбука-классика(Azbuka-klassika)                                                                                                        |



|      |                               |                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2005 | 『今昔物語集』<br>フランス語              | Dominique Lavigne-Kurihara, Histoires d'amour du temps jadis, <i>Picquier poche</i> , 254, Philippe Picquier                                                                                                          |
| 2005 | 『作庭記』<br>フランス語                | Pierre Rambach, Susanne Rambach, <i>L'art de dresser les pierres : le jardin japonais, permanence et invention, les enseignements du Sakutei-ki</i> , Hazan                                                           |
| 2005 | 『伊勢物語』<br>スペイン語               | Antonio Cabezas García, <i>Cuentos de Ise</i> , Ediciones Hiperión                                                                                                                                                    |
| 2005 | 『伊勢物語』<br>スペイン語               | Jordi Mas López., Cuentos de Ise, <i>Clàssics de l'Orient</i> ; 3, Servei de Publicacions de la Universitat Autònoma de Barcelona : Publicacions de l'Abadia de Montserrat                                            |
| 2005 | 『古今和歌集』<br>スペイン語              | Torquii Duthie, Poesía clásica japonesa : Kokinwakashū, <i>Pliegos de oriente</i> , . <i>Serie lejano oriente</i> ; 14, Trotta                                                                                        |
| 2005 | 『古今和歌集』<br>スペイン語              | Carlos Rubio, <i>Coleccion de poemas japoneses antiguos y modernos : el canon del clasicismo</i> <sup>1</sup> , Hiperion                                                                                              |
| 2005 | 『枕草子』<br>スペイン語                | Jorge Luis Borges, María Kodama, <i>El libro de la almohada</i> , Alianza Editó                                                                                                                                       |
| 2005 | 『更級日記』<br>イタリア語               | Carolina Negri, Le memorie della dama di Sarashina : Sarashina nikki, <i>Letteratura universale Marsilio</i> , . <i>Mille gru : collana di classici giapponesi</i> , Marsilio                                         |
| 2005 | 『古今和歌集』<br>ロシア語               | Боронина, Ирина, Александровна/Ким Ле Чун(Боронина, Irina Aleksandrovna=Rekho, Kim), <i>Поэтическая антология Кокинсю(Poëticheskaiâ antologiiâ Kokinsîû)</i> , кая антология Кокинсю / [ответст : ИМЛИ РАН(IMLI RAN)] |
| 2006 | 『枕草子』<br>ドイツ語                 | Helmut Bode, <i>Das Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon</i> , Marix                                                                                                                                                  |
| 2006 | 『枕草子』<br>トルコ語                 | Tuncay Birkan, <i>Yastıkname : kitap çevirmenleri girişimi ortak çevirisi</i> , Metis Yayınları                                                                                                                       |
| 2006 | 『古今和歌集』<br>ウクライナ語             | Bondarenko Ivan Petrovich, Збірка старих і нових японських пісень : поетична антологія (905-913 pp.), 《Кокін-вака-сю》, (Кокін-сю) = 古今和歌集 (九〇五 - 九一三年), <i>Бібліотека японської класичної поезії</i> , Факт           |
| 2007 | 『古今和歌集』『枕草子』(『源氏物語』)<br>スペイン語 | Carlos Rubio, <i>Claves y textos de la Literatura japonesa</i> , Cátedra                                                                                                                                              |
| 2007 | 『入唐求法巡礼行記<br>(円仁行記)』<br>中国語   | 不明, 『入唐求法巡礼行记』, 广西师范大学出版社                                                                                                                                                                                             |
| 2007 | 『枕草子』<br>ラトビア語                | Giedrė Tartėnienė, <i>Priegalvio knyga</i> , Obuolys                                                                                                                                                                  |
| 2007 | 『狭衣物語』『篁物語』<br>ロシア語           | В.И. Сисаури(V. I.Sisauri), <i>Повесть о Сагоромо ; Повесть о Такамура(Povest' o Sagoromo ; Povest' o Takamura)</i> , Наталис(Natalis)                                                                                |
| 2008 | 『古今和歌集』<br>スペイン語              | Torquii Duthie, Poesía clásica japonesa : Kokinwakashū, <i>Pliegos de oriente</i> , . <i>Serie lejano oriente</i> ; 14, Trotta                                                                                        |
| 2008 | 『蜻蛉日記』<br>スペイン語               | Hiroko Izumi Shimono, Iván A. Pinto Román, Apuntes de una efímera : (kagerō nikki), <i>Colección Sakura</i> , Asociación Peruano Japonesa                                                                             |
| 2008 | 『更級日記』<br>スペイン語               | Akiko Imoto, Carlos Rubio, Dama Sarashina : sueños y ensoñaciones de una dama de Heian, <i>Ars brevis</i> , 22, Atalanta                                                                                              |
| 2008 | 『和泉式部日記』<br>イタリア語             | Carolina Negri, Diario di Izumi Shikibu : Izumi Shikibu nikki, <i>Letteratura universale Marsilio</i> , . <i>Mille gru : collana di classici giapponesi</i> , Marsilio                                                |



|      |                     |                                                                                                                                                                            |
|------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2009 | 『枕草子』<br>ドイツ語       | Nelly Naumann, Wolfram Naumann, Die Zauberschale : Erzählungen vom Leben japanischer Damen, <i>Mönche, Herren und Knechte, Selections in German in Naumann</i> , C. Hanser |
| 2009 | 『古今和歌集』<br>フランス語    | Bertrand Petit, L'amour-poème : poèmes extraits du recueil Kokin wakashû, Xe siècle, époque Heian, <i>Collection pollen</i> , Éditions Alternatives                        |
| 2009 | 『とりかへばや物語』<br>フランス語 | Renée Garde, <i>Si on les échangeait : le Genji travesti</i> , Les Belles lettres                                                                                          |
| 2009 | 『伊勢物語』<br>スペイン語     | Antonio Cabezas García, Cantares de Ise, <i>Poesía Hiperión</i> , 17, Hiperión                                                                                             |
| 2009 | 『蜻蛉日記』<br>ハングル      | 정순분 (鄭順粉), 『청령일기 (蜻蛉日記)』, 지식을만드는지식 (ZMANZ)                                                                                                                                 |
| 2010 | 『枕草子』<br>ドイツ語       | Mamoru Watanabé (渡辺護), Das Kopfkissenbuch einer Hofdame, <i>Manesse Bibliothek der Weltliteratur</i> , Manesse                                                             |
| 2010 | 『枕草子』<br>ドイツ語       | Helmut Bode, Das Kopfkissenbuch der Hofdame Sei Shonagon, <i>Insel-Bücherei</i> , Nr. 998, Insel                                                                           |
| 2010 | 『伊勢物語』<br>スペイン語     | Jordi Mas López, Cuentos de Ise, <i>Pliegos de oriente</i> , Trotta                                                                                                        |
| 2010 | 『浜松中納言物語』<br>ロシア語   | В.И. Сисаури(V. I.Sisauri), <i>Повесть о втором советнике Хамамацу (Хамамацу-тюнагон моногатари) ; Дворец в Мацура (Мацура-мия моногатари)</i> , Наталис(Natalis)          |
| 2010 | 『枕草子』<br>セルビア語      | Flavio Rigonat, <i>Zapisi pred san</i> , L.O.M.                                                                                                                            |
| 2010 | 『竹取物語』<br>ベンガル語     | ムハメドアルシャド ウッラ, 『竹取物語』, ABIR PROKATION                                                                                                                                      |
| 2011 | 『竹取物語』<br>フランス語     | Ihara Daisuke, <i>Le coupeur de bambous</i> , Delcourt                                                                                                                     |
| 2011 | 『伊勢物語』<br>中国語       | 林文月, 『伊勢物語』, 鳳凰出版传媒集团: 译林出版社                                                                                                                                               |
| 2011 | 『枕草子』<br>中国語        | 林文月, 『枕草子』, 译林出版社                                                                                                                                                          |
| 2011 | 『紫式部日記』<br>ハングル     | 정순분 (鄭順粉), 『무라사키시키키부 일기 (紫式部日記)』, 지식을만드는지식 (ZMANZ)                                                                                                                         |
| 2011 | 『蜻蛉日記』<br>ハングル      | 이미숙 (李美淑), 『가게로 일기』, 한글서                                                                                                                                                   |
| 2011 | 『小野小町集』<br>チェコ語     | Zdenka Švarcová, <i>Do slov má láska odívá se</i> , Vyšehrad                                                                                                               |
| 2011 | 『竹取物語』<br>アラビア語     | Fathī Aḥmad, I-Hṭb wa-myrrh al-qmr : Sa-yrrh sh'byh ybi-nyh, جمعية نوافذ للترجمة والتنمية والحوار                                                                          |
| 2011 | 『枕草子』<br>ロシア語       | Веры Марковой(Vera Markova), <i>Записки у изголовья(Zapiski u Izgolovia)</i> , Художественная лит-ра(Khudozhestvennaya literatura)                                         |
| 2012 | 『作庭記』<br>イタリア語      | Paola Di Felice, Con la traduzione di Sakuteiki : annotazioni sulla composizione dei giardini, <i>Giardini e paesaggio</i> 32, L.S. Olschki                                |
| 2012 | 『枕草子』<br>中国語        | 田畝, 『枕草子』, 湖南人民出版社                                                                                                                                                         |
| 2012 | 『更級日記』<br>ハングル      | 정순분 (鄭順粉), 김효숙 (金孝淑), 『사라시나 일기 (更級日記)』, 지식을만드는지식 (ZMANZ)                                                                                                                   |
| 2012 | 『伊勢物語』<br>ロシア語      | Н.И. Конрада(Nikolaï Iosifovich Konrad), <i>Исэ моногатари : древнеяпонская лирическая повесть( ISE MONOGATARI : Iaponskaia Povest Nachala X Veka)</i> , Центрполиграф     |

|      |                  |                                                                                                                                                 |
|------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2013 | 『讃岐典侍日記』<br>ハングル | 정순분 (鄭順粉), 『사누키노스케 일기 (讃岐典侍日記)』, 지식을만드는지식 (ZMANZ)                                                                                               |
| 2013 | 『枕草子』<br>폴트갈語    | Geny Wakisaka, <i>O livro do travesseiro</i> , Editora 34                                                                                       |
| 2013 | 『作庭記』<br>ポーランド語  | Joanna Hakrzenska, <i>Sakuteiki : zapiski o zakładaniu ogrodów</i> , 야기웨오大学出版会                                                                  |
| 2015 | 『枕草子』<br>ドイツ語    | Michael Stein, <i>Kopfkippenbuch</i> , Manesse Verlag                                                                                           |
| 2015 | 『竹取物語』<br>ハングル   | 민병훈 (閔丙勲), 『다케토리 이야기』, 어문학사                                                                                                                     |
| 2015 | 『伊勢物語』<br>ブルガリア語 | Petkova, Gergana Atanasov, Aleksandŭr Rot, Sibila, <i>Исе моногатапи : любовни етюди : избрано</i> , Университетско изд-во Св. Климент Охридски |
| 2016 | 『今昔物語集』<br>ハングル  | 이시준 (李市淑), 김태광 (金泰廣), 「금석이야기집」, 『일본부』【八】, sechang book                                                                                          |
| 2016 | 『今昔物語集』<br>베트남   | グエン・ティ・オワイン, チャン・ティ・チュン・トアン, 다펜・치, 『TẬP THƯƠNG(Quyển11-Quyển19)』, NHÀ XUẤT BẢN KHOA HỌC XÃ HỘI                                                  |

## おわりに

2013年に採択された科学研究費による研究も最終年度を迎えました。『日本古典文学翻訳事典 1 〈英語改訂編〉』を発行してから2年、今回の『日本古典文学翻訳事典 2 〈平安外語編〉』は、(1) 福田秀一先生が遺され、伊藤鉄也先生に託された膨大なメモ (2) 2004年度の科学研究費による報告書『海外における平安文学』の解題の他に、本科研のサイト「海外源氏情報」で公開中の「平安文学翻訳史年表」を最大限活用しました。そして既存のデータの他に、英語以外の諸言語を専門とする研究者に解題を依頼しました。

現在、翻訳史年表には約580件の書籍データが登録されています。本来ならば全てのデータを事典としてまとめることが理想です。しかし解題を作成するためには、現物を確認できる書籍でなくてはならず、全てのデータを事典に掲載することはできませんでした。日本国内の図書館・研究機関で見ることができない書籍が、数多く存在することを実感しました。なお、解題を作成することができなかった書籍データは、解題の後ろに「平安文学翻訳史年表」の抜粋として掲載しました。〈英語改訂編〉の反省をふまえて、より多くのデータを収集したものの遺漏も多々あると思います。前回に続き、この事典も日本文学研究の一助となることを願ってやみません。

最後に解題作成を含め、本科研をあたたく見守ってくださったみなさまに篤くお礼申し上げます。

(浅川槇子)

以前発行した『日本古典文学翻訳事典 1 〈英語改訂編〉』では英語のみでした。前回と異なり、今回は多くの言語で翻訳された古典文学を収録しています。『日本古典文学翻訳事典 2 〈平安外語編〉』では、特定の古典文学が何度も翻訳・出版されていたり、日記文学が好まれる傾向があるなど、国によって『源氏物語』以外の作品への嗜好が伺えるように思います。また、解題を読んでいると、さまざまな立場の方がそれぞれの目的に合わせて創意工夫をしているさまも伝わり、「翻訳の歴史」の側面が垣間見えてきます。

残念ながら、今回は解題を掲載できなかった多くの書籍があります。これらの作品名や国名は、翻訳史年表で確認できます。時系列に並んだ出版の記録を眺めているだけでも、そこに関わった多くの人たちの努力を感じます。ただ、どうしてもヨーロッパ諸国など先進国に偏っており、アフリカ大陸の言語などでの発行はまだ見つからないようです。これから、このリストに、より多くの国名が追加されることを願ってやみません。

(加々良恵子)

## 索引 《原典別》

- |                  |                                           |
|------------------|-------------------------------------------|
| 和泉式部集            | 37, 57, 217                               |
| 和泉式部続集           | 37                                        |
| 和泉式部日記           | 51, 57, 98, 137, 158, 197, 209, 217       |
| 伊勢物語             | 16, 74, 112, 114, 167                     |
| 宇津保物語            | 109                                       |
| 咩字義              | 129                                       |
| 円仁行記（入唐求法巡礼行記）   | 44                                        |
| 大鏡               | 119                                       |
| 落窪物語             | 107, 144                                  |
| 小野小町集            | 35                                        |
| 小野小町壮衰抄（玉造小町壮衰書） | 35                                        |
| 蜻蛉日記             | 94, 135, 182, 197, 201                    |
| 寛平御時后宮歌合         | 127                                       |
| 金葉和歌集            | 33                                        |
| 古今和歌集            | 31, 33, 86, 121, 154, 177                 |
| 後拾遺和歌集           | 33                                        |
| 後撰和歌集            | 33                                        |
| 今昔物語集            | 18, 24, 83, 150, 175                      |
| 作庭記              | 152                                       |
| 更級日記             | 51, 54, 100, 137, 139, 158, 182, 197, 210 |
| 三教指帰             | 39                                        |
| 詞花和歌集            | 33                                        |

|          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 拾遺和歌集    | 33                                   |
| 春記       | 48                                   |
| 新撰和歌集    | 124                                  |
| 声字実相義    | 129                                  |
| 千載和歌集    | 33                                   |
| 増基法師集    | 102                                  |
| 即身成仏義    | 129                                  |
| 竹取物語     | 15, 61, 105, 107, 143, 165           |
| 堤中納言物語   | 21, 78, 146                          |
| 土左日記     | 50, 92, 160, 180                     |
| とりかへばや物語 | 23, 80, 118                          |
| 浜松中納言物語  | 219                                  |
| 般若心経秘鍵   | 129                                  |
| 秘蔵宝鑑     | 129                                  |
| 平中物語     | 18, 20                               |
| 弁頭密二教論   | 129                                  |
| 本朝神仙伝    | 148                                  |
| 枕草子      | 40, 88, 131, 156, 158, 178, 189, 221 |
| 御堂関白紀    | 46                                   |
| 紫式部日記    | 51, 55, 137, 158, 161, 197, 215      |
| 大和物語     | 18, 116                              |

## 索引 《 翻 訳 者 別 》

### アルファベット

#### A

|                        |     |
|------------------------|-----|
| Ackermann, Peter       | 86  |
| Araki, Emiko           | 102 |
| Arnold-Kanamori, Horst | 72  |

#### B

|                               |                |
|-------------------------------|----------------|
| Beaujard, André               | 40, 42, 43     |
| Benl, Oscar                   | 74, 76, 78, 99 |
| Bernard, Frank                | 26             |
| Bode, Helmut                  | 89, 91         |
| Bonneau, Georges              | 31             |
| Boscaro, Adriana              | 143            |
| Boronina, Irina Aleksandrovna | 124            |

#### C

|                         |          |
|-------------------------|----------|
| Cabezas García, Antonio | 167      |
| Calzolari, Silvio       | 148      |
| Cannon, Oswaldo Gavidia | 178      |
| 鄭順粉                     | 201      |
| 周作人                     | 191, 193 |

## D

- D'akonova, Elena Mikhailovna — 119  
 di Felice, Paola — 152  
 Dolin, Aleksandr Arkad'evich — 107, 121, 123  
 Duthie, Torquil — 177

## E

- Ermakova, Liudmila Mikhailovna — 116

## F

- Farreny i Sistac, Dolors — 215  
 Fesiun, Andrei G. — 129

## G

- Garde, Renée — 23  
 Giuliani, Alfredo — 161  
 Godel, Armen — 35  
 González de León, Jorge — 175  
 Goregliad, Vladislav Nikanorovich — 135  
 Grapard, Allan Georges — 39  
 Guerne, Armel — 24

## H

- Henning, Rudi — 102  
 Hérail, Francine — 46, 48



## I

|                |     |
|----------------|-----|
| Iarocci, Irene | 150 |
| Imoto, Akiko   | 184 |
| Itô, Tutomu    | 63  |

## K

|                            |          |
|----------------------------|----------|
| Kano, Koichi               | 35       |
| Kemperm, Ulrich            | 100      |
| Konrad, Nikolai Iosifovich | 112, 114 |
| Kretschmer, Angelika       | 86       |
| Kristeva, Tsvetana         | 221      |
| Kubota, Yoko               | 146      |

## L

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| Lavigne-Kurihara, Dominique | 28, 29 |
| 李美淑                         | 203    |
| Lévy, Roger                 | 44     |
| 林嵐                          | 197    |
| 林文月                         | 189    |
| Logé, Marc                  | 51, 53 |
| L'vova, I.                  | 107    |

## M

|                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| Markova, Vera     | 105, 107, 131, 132, 134 |
| Mas López, Jordi  | 172                     |
| Matsubara, Hisako | 69                      |
| Maurizi, Andrea   | 144                     |

|                                      |          |
|--------------------------------------|----------|
| Mel'nikova, Irina V.                 | 137, 139 |
| Meshcheriakov, Aleksandr Nikolaevich | 127, 137 |
| Mohr, Friedrich Wilhelm              | 61       |
| Müller, Klaus                        | 85       |

## N

|                  |    |
|------------------|----|
| Nakamura, Ryôji  | 21 |
| Naumann, Nelly   | 71 |
| Naumann, Wolfram | 71 |

## O

|                 |          |
|-----------------|----------|
| Olbricht, Peter | 92       |
| Origlia, Lidia  | 156, 157 |

## P

|                           |               |
|---------------------------|---------------|
| Pfizmaier, August         | 98            |
| Pinto Román, Iván Augusto | 178, 180, 182 |
| Putscher, Chlothilde      | 63            |

## R

|                   |     |
|-------------------|-----|
| Renondeau, Gaston | 16  |
| Rohde, Charlotte  | 219 |
| Roubaud, Jacques  | 33  |
| Rubio, Carlos     | 184 |

## S

|                 |     |
|-----------------|-----|
| Sagiyama, Ikuko | 154 |
|-----------------|-----|

|                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| Scalise, Mario                 | 160                        |
| Schaarschmidt, Siegfried       | 77                         |
| Schuster, Ingrid               | 85                         |
| Schwarz-Okuno, Johanna-Maria   | 66, 68                     |
| Shimada, Uto Masazo            | 61                         |
| Shimono, Hiroko Izumi          | 178, 180, 182              |
| Sieffert, René                 | 15, 18, 20, 50, 54, 55, 57 |
| Sisauri, Vladislav Iraklievich | 109                        |
| Smits, Ivo                     | 209                        |
| Sokolova-Deliusina, T. L.      | 137                        |
| Solomonoff, Jorge N.           | 170                        |
| Stein, Michael                 | 80, 81                     |
| Švarcová, Zdenka               | 217                        |

## T

|                     |            |
|---------------------|------------|
| Takagi, Kayoko      | 165        |
| Takeuchi, Lone      | 219        |
| Toropygina, Mariia  | 118        |
| Tsukakoshi, Satoshi | 83, 94, 96 |

## V

|                   |     |
|-------------------|-----|
| Valensin, Giorgia | 158 |
| Vos, Frits        | 210 |

## W

|                  |    |
|------------------|----|
| Watanabé, Mamoru | 88 |
|------------------|----|

## Y

Yosano, Fumi ————— 37

于雷 ————— 195

## Z

鄭民欽 ————— 197

## かな

## あ

アーノルド＝カナモリ, ホルスト ————— 72

アッカーマン, ペーター ————— 86

## い

イアロッチ, イレーネ ————— 150

伊東勉 ————— 63

李美淑 ————— 203

井本品子 ————— 184

## う

ヴァレンシン, ジョルジャ ————— 158

于雷 ————— 195

## え

エライユ, フランシーヌ ————— 46, 48

エルマコーワ, リュドミーラ ミハイロヴナ ————— 116

## お

オリーリア, リーディア ————— 156, 157

オルブリヒト, ペーター ————— 92

## か

狩野晃一 ————— 35

ガビディア カノン, オズワルド ————— 178

カベサス ガルシア, アントニオ ————— 167

カルゾラーリ, シルビオ ————— 148

ガルド, ルネ ————— 23

## く

久保田洋子 ————— 146

グラパール, アラン ジョルジュ ————— 39

クリステワ, ツベタナ ————— 221

クレッチマー, アンゲーリカ ————— 86

## け

ゲルヌ, アルメル ————— 24

ケンパー, ウルリヒ ————— 100

## こ

ゴデル, アルメン ————— 35

ゴレグリャード, ウラディスラフ ニカノロヴィッチ ————— 135

ゴンザレス デ レオン, ホルヘ ————— 175

コンラッド, ニコライ イオシフォヴィチ ————— 112, 114

## さ

鷺山郁子 ————— 154

## し

シサウリ, ウラジスラフ イラクリエヴィチ ————— 109

シフェール, ルネ ————— 15, 18, 20, 50, 54, 55, 57

島田昌三 ————— 61

島田眞造 ————— 61

下野泉 ————— 178, 180, 182

ジャーコノワ, エレーナ ミハイロヴナ ————— 119

シャルシュミット, ズィークフリート ————— 77

シュヴァルツォヴァー, ズデンカ ————— 217

周作人 ————— 191, 193

シュースター, イングリート ————— 85

シュタイン, ミヒャエル ————— 80, 81

ジュリアーニ, アルフレード ————— 161

シュワルツ=奥野, ヨハンナ=マリア ————— 66, 68

## す

スカリス, マリオ ————— 160

スミッツ, イヴォ ————— 209

## そ

ソオモノフ, ホルヘ N ————— 170

ソコロワ=デリュシナ, TL ————— 137

## た

|           |     |
|-----------|-----|
| 高木香世子     | 165 |
| タケウチ, ローネ | 219 |
| ダシー, トウクル | 177 |

## ち

|     |     |
|-----|-----|
| 鄭順粉 | 201 |
|-----|-----|

## つ

|     |            |
|-----|------------|
| 塚越敏 | 83, 94, 96 |
|-----|------------|

## て

|                |     |
|----------------|-----|
| ディ=フェリーチェ, パオラ | 152 |
| 鄭民欽            | 197 |

## と

|                         |               |
|-------------------------|---------------|
| ドウ セカティ, ルネ             | 21            |
| ドーリン, アレクサンドル アルカディエヴィチ | 107, 121, 123 |
| トロピギナ, マリア              | 118           |

## な

|              |    |
|--------------|----|
| ナウマン, ヴォルフラム | 71 |
| ナウマン, ネリー    | 71 |
| 中村亮二         | 21 |

## ひ

|                     |               |
|---------------------|---------------|
| ピント ロマン, イヴァン アウグスト | 178, 180, 182 |
|---------------------|---------------|

## ふ

|                      |     |
|----------------------|-----|
| ファレニ イシィ スタック, ドロールス | 215 |
| ファッション, アンドレイ G      | 129 |
| フォス, フリッツ            | 210 |
| プツチエル, クロチルデ         | 63  |
| プフィッツマイアー, アウグスト     | 98  |

## へ

|                        |                |
|------------------------|----------------|
| ベーネル, オスカー             | 74, 76, 78, 99 |
| ヘニング, ルディ              | 102            |
| ベルナール, フランク            | 26             |
| ベンル, オスカー → ベーネル, オスカー |                |

## ほ

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| ボーデ, ヘルムート            | 89, 91     |
| ボジャール, アンドレ           | 40, 42, 43 |
| ボスカロ, アドリアーナ          | 143        |
| ボノー, ジョルジュ            | 31         |
| ボローニナ, イリーナ アレクサンドロヴナ | 124        |

## ま

|               |                         |
|---------------|-------------------------|
| マウリッツィ, アンドレア | 144                     |
| マス ロペス, ジョルディ | 172                     |
| 松原久子          | 69                      |
| マルコワ, ヴェーラ    | 105, 107, 131, 132, 134 |



## め

ミュラー, クラウス ————— 85

## め

メシェリャコフ, アレクサンドル ニコラエヴィチ ——— 127, 137

メリニコワ, イリーナ V ————— 137, 139

## も

モーア, フリードリッヒ ヴィルヘルム ————— 61

## よ

與謝野文子 ————— 37

よさのふみ → 與謝野文子

## ら

ラヴィーニュ=栗原, ドミニク ————— 28, 29

## り

リヴォワ, I ————— 107

林文月 ————— 189

林嵐 ————— 197

## る

ルノンドー, ガストン ————— 16

ルビオ, カルロス ————— 184

ルボー, ジャック ————— 33

れ

レヴィ, ロジェ ————— 44

ろ

ローゼ, シャロデ ————— 219

ロジェ, マルク ————— 51, 53

わ

渡辺護 ————— 88

—事典項目執筆・編集者一覧—

浅川槿子

李美淑

岩原真代

大野祐子

可児洋介

ガンデルスカ，カーシャ

菅原郁子

常田槿子

ディオニシオ，イザベラ

服部訓和

バルメス，ゼバスティアン

福田秀一

山田紘一郎

(敬称略・五十音)

## 研究組織

### 研究代表者

伊藤 鉄也（国文学研究資料館・教授）

### 研究分担者

野本 忠司（国文学研究資料館・准教授）

### 連携研究者

マイケル，ワトソン（明治学院大学・教授）

清水 婦久子（帝塚山大学・教授）

荒木 浩（国際日本文化研究センター・教授）

ラリー，ウォーカー（京都府立大学・准教授）

藤井 由紀子（清泉女子大学・講師）

高田 智和（国立国語研究所・准教授）

### 研究協力者

高木 香世子（マドリッド・アウトノマ大学・教授）

緑川 真知子（早稲田大学・講師）

土田 久美子（東京工業大学・講師）

須藤 圭（立命館大学・助教）

テレサ，マルティネス（元大阪大学大学院文学研究科・研究生）

川内 有子（立命館大学・研究生）

庄埡 淳（立命館大学・大学院生）

畠山大二郎（愛知文教大学・専任講師）

村上明香（インド・アラハバード大学・大学院生）

浅川 槇子（国文学研究資料館・研究員）

加々良 恵子（国文学研究資料館・補佐員）

科学研究費補助金 基盤研究 (A) 2013 年度研究報告書  
「海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究」  
課題番号 [25244012] 研究代表者 伊藤 鉄也

# 日本古典文学翻訳事典 2 〈平安外語編〉

Japanese Classical Literature  
- A Transration Encyclopedia

2016 年 12 月 22 日 発行  
〈非売品〉

編集兼発行者 国文学研究資料館 伊藤鉄也

<http://genjiito.org/>

本事典の P D F 版のダウンロード先

<http://genjiito.org/aboutkaken/allresearchreports/>

装丁 株式会社 d P A R K

© 伊藤鉄也

本書を無断で複写・複製・転載することは  
法律で認められた場合を除き禁じられています。



# 日本古典文学翻訳事典 2

〈平安外語編〉